Canon

EOS M

使用説明書

はじめに

EOS M は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 5、高精度・高速31点AF、最高約4.3コマ/秒連続撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能を搭載した、レンズ交換式高性能デジタル一眼カメラです。

本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（16～19ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

このカメラでは、SDメモリーカードとSDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードをお使いいただけます。本書では、これらを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください（p.177）。

カメラと主な付属品

使用する前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ
（ボディキャップ付き）

電池
バッテリーパック
LP-E12
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E12

ネックストラップ
EM-100DB

インターフェースケーブル

EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

使用説明書

ソフトウェア
使用説明書

① 使用説明書 基本編
② お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意

※ キットによっては、レンズ、ストロボやマウントアダプター EF-EOS Mも付属しているか、確認してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈◎〉：電子ダイヤルを回します。

〈▲ ⏲/⧉〉／〈▼ 🗑〉／〈◄ ✱〉／〈► ☒〉

：電子ダイヤルの上下左右を押します。

〈Q/SET〉：電子ダイヤルの中心を押します。

⏱4／⏱6／⏱10／⏱16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態をそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持します。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU：〈MENU〉ボタンを押して設定します。

応用：ページタイトル右に応用があるときは、応用撮影ゾーン（p.25）限定です。

（p.＊＊）：参照ページです。

❗：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項です。

📝：補足説明や補足事項です。

💡：上手に使うためのヒントや撮影のポイントです。

？：困ったときの手助けになる情報です。

操作説明について

- 電源が入っていて（p.37）、メニュー機能やカスタム機能は初期状態で説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼カメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

やりたいこと目次

撮影

画質

ピント合わせ

- ピントを合わせる位置を変更したい ➔ p.116（AFフレーム選択）
- 動いている被写体を撮影したい ➔ p.81、131（サーボAF）

再生

- 写真をカメラで見たい ➔ p.98（▶ 再生）
- 写真を素早く探したい ➔ p.231（インデックス表示）
p.232（画像送り）
- お気に入り度を設定したい ➔ p.234（レーティング）
- 大事な写真を誤って消さないようにしたい ➔ p.252（プロテクト）
- 不要な写真を消したい ➔ p.254（消去）
- 写真や動画を自動再生したい ➔ p.243（スライドショー）
- 写真や動画をテレビで見たい ➔ p.247（ビデオ出力）
- 液晶モニターの明るさを調整したい ➔ p.207（液晶モニターの明るさ）
- 撮影した写真にいろいろな効果をつけたい ➔ p.260（クリエイティブフィルター）

印刷

- 写真を簡単に印刷したい ➔ p.265（ダイレクトプリント）

機能目次

目　次

2　シーンインテリジェントオート+ かんたん撮影ゾーンと画像確認　65

3　カメラまかせから一歩進んだ撮影　101

11 資料 289

12 パソコンに画像を取り込む／索引 337

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- レンズをカメラに取り付けて、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッターの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食するとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- このカメラではレンズを取り外すと、撮像素子が見えます。撮像素子の損傷のおそれがありますので、撮像素子には触らないでください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録した画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにして、同じ画面が表示されていると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。
- 液晶の明るさ設定を変更すると、被写体によって画面が少し粗く見えることがありますが、故障ではありません。また、記録した映像には影響はありません。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

　レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

長時間使用時のご注意

　連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがありますので、ご注意ください。

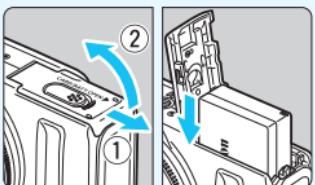
撮像素子の前面に付着する汚れについて

　撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

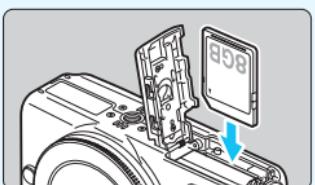
レンズマウントについて

　カメラ本体とレンズのマウント部分を、定期的に市販のレンズクリーナー（布製）で拭くことをおすすめします。

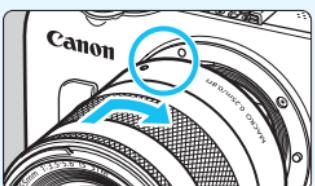
すぐ撮影する

1

電池を入れる（p.34）

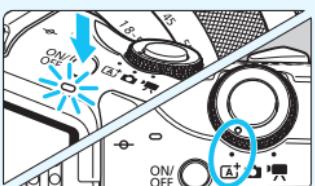
● 電池の充電方法：32ページ

2

カードを入れる（p.34）

● カードの表を、カメラの正面側にして差し込みます。

3

レンズを取り付ける（p.44）

● レンズの取り付け指標とカメラ側の取り付け指標を合わせて取り付けます。

4

電源ボタンを押して電源を入れ、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.66）

● 撮影に必要な設定がすべて自動設定に。

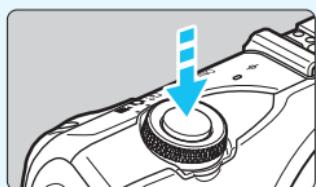
● 液晶モニターにエリア、日付/時刻の設定画面が表示されたとき：40ページ

5

ピントを合わせる（p.49）

●写したいものを画面中央に配置します。

●シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

6

撮影する（p.49）

●さらにシャッターボタンを押して撮影します。

7

撮影した画像を確認する（p.205）

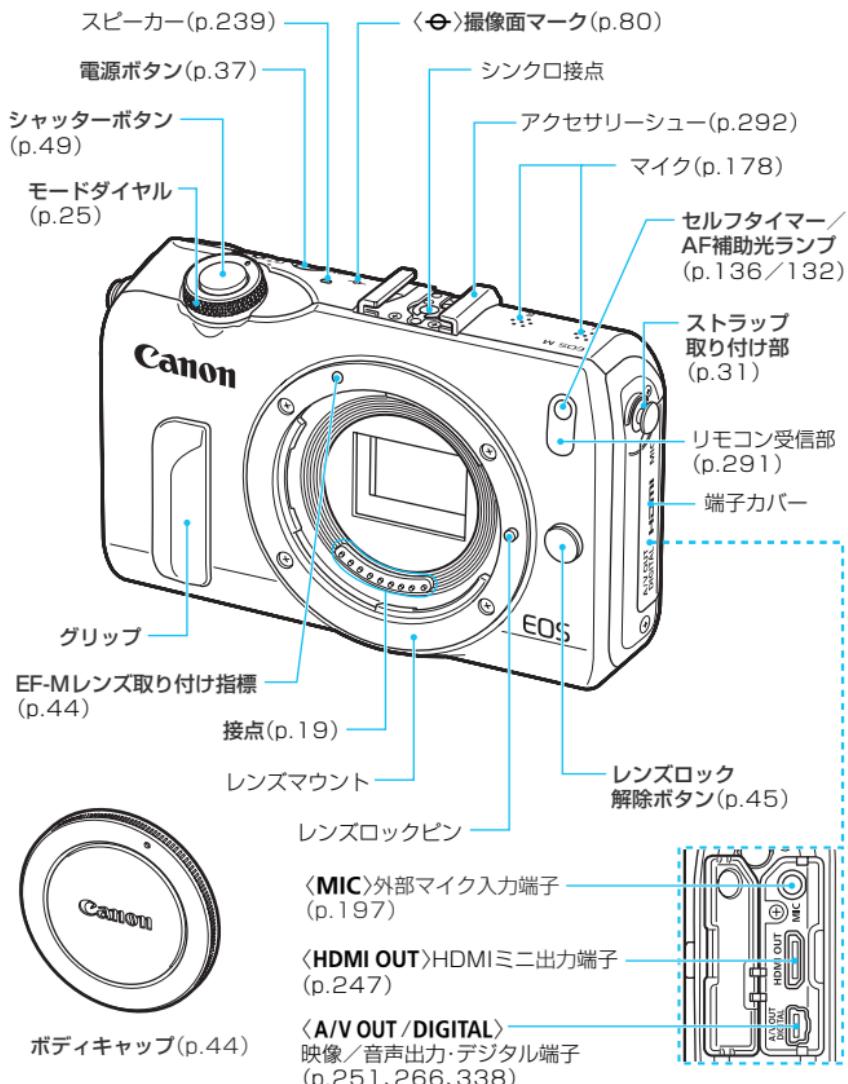
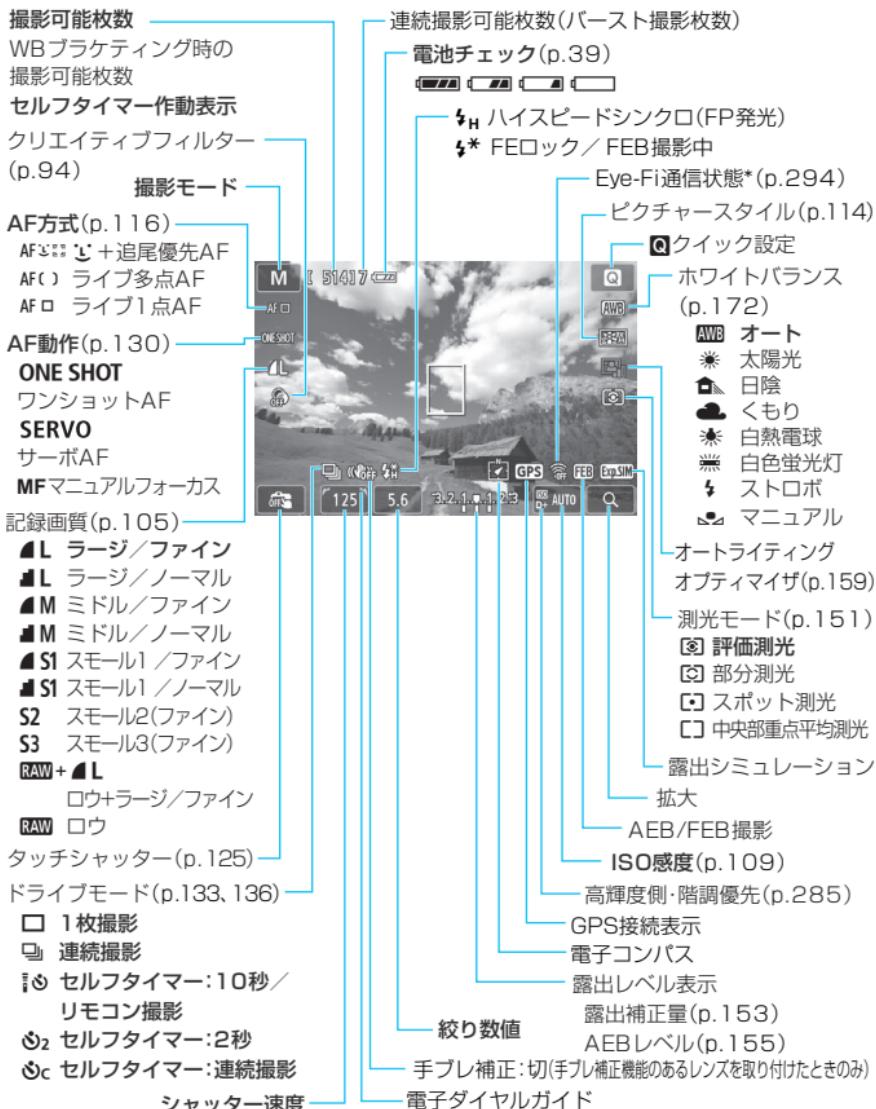
●撮影した画像が液晶モニターに約２秒間表示されます。

●〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.98）。

- 今までに撮影した画像を確認したいとき：『画像を再生する』（p.98）
- 撮影した画像を消去したいとき：『消去する』（p.254）
- 撮影が終了したら、レンズ保護のためレンズキャップを取り付けてください。

各部の名称

太字は、『シーンインテリジェントオート＋かんたん撮影ゾーンと画像確認』までの説明に使用する各部の名称です。

液晶モニター／タッチパネル（p.54、59、207／61、230、240）
電源／アクセスランプ（p.36）
〈MENU〉メニューボタン（p.54）
〈●〉動画スタート/ストップボタン（p.178）
〈▶〉再生ボタン（p.98）
〈Q／SET〉クイック設定／設定ボタン（p.50、88、186、236／54）
〈INFO.〉インフォボタン（p.50、59、70、98、182）
DCカプラー端子カバー（p.290）
三脚ねじ穴
カード/電池室ふた（p.34）
〈◎〉電子ダイヤル（p.64）
〈▲ / 〉ドライブモード選択ボタン（p.133、136）
〈▼ 〉 消去ボタン（p.254）
〈◀ ✱〉 AEロック／FEロックボタン（p.157）
〈▶ 〉 絞り数値／露出補正ボタン（p.148／153）
カードスロット（p.34）
電池室（p.34）
MENU
INFO.
SET
Canon

画面の見かた（応用撮影ゾーン時／p.25）

*：Eye-Fiカード装着時に表示
状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

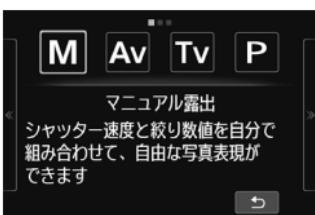
〈A+〉シーンインテリジェントオート、〈📷〉静止画、〈🎥〉動画を切り換えます。

〈A+〉と〈📷〉で静止画を、〈🎥〉で動画を撮影します。

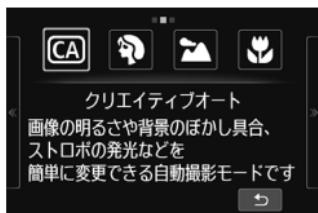
〈A+〉シーンインテリジェントオートでは、シャッターボタンを押すだけで、被写体やシーンに合わせたカメラまかせで静止画を撮影できます。

〈📷〉静止画では、応用撮影ゾーンとかんたん撮影ゾーンが選べます。

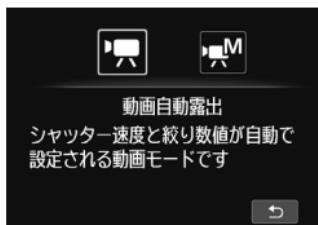
応用撮影ゾーン

設定することで思いどおりのさまざまな撮影ができます。

M ：**マニュアル露出**（p.148）
Av ：**絞り優先AE**（p.144）
Tv ：**シャッター優先AE**（p.142）
P ：**プログラムAE**（p.102）

かんたん撮影ゾーン

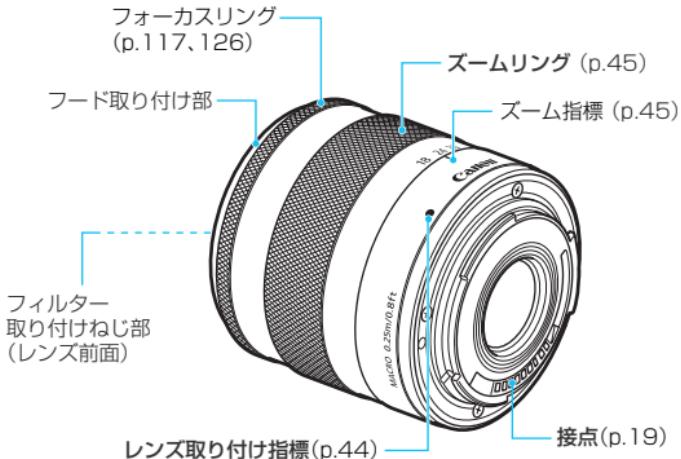
基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

- CA：**クリエイティブオート**（p.75）
- ：**ポートレート**（p.78）
- ：**風景**（p.79）
- ：**クローズアップ**（p.80）
- ：**スポーツ**（p.81）
- ：**夜景ポートレート**（p.83）
- ：**手持ち夜景**（p.85）
- ：**HDR逆光補正**（p.86）

動画

〈〉動画では、自動露出とマニュアル露出が選べます。

- ：**動画自動露出**
- M：**動画マニュアル露出**

レンズ

EF-Mレンズの例

（フォーカスモードスイッチ、手ブレ補正スイッチが付いていないレンズ）

EF、EF-Sレンズの例

（フォーカスモードスイッチ、手ブレ補正スイッチが付いているレンズ）

＊EF、EF-Sレンズを取り付けるためには、マウントアダプター EF-EOS Mが必要です。

マウントアダプター EF-EOS M

EFレンズ取り付け指標

EF-Sレンズ取り付け指標

レンズ取り外しレバー

カメラ側
取り付け指標

三脚座ねじ

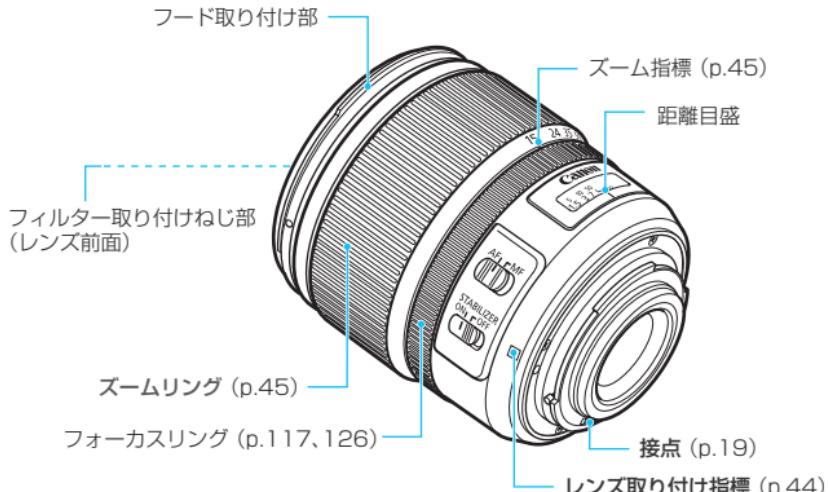
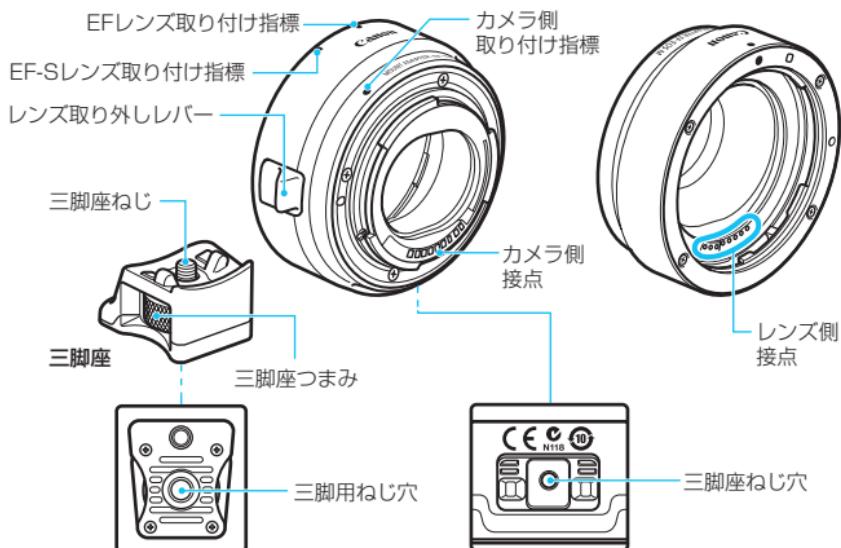
カメラ側
接点

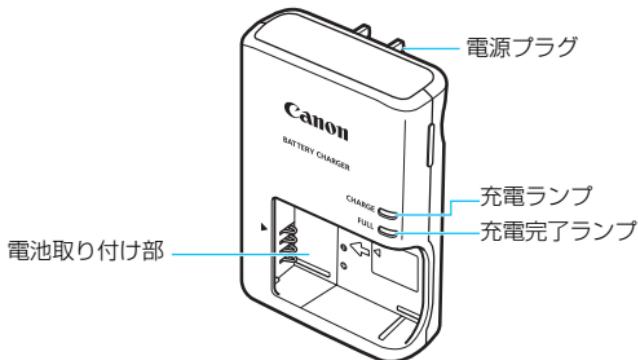
三脚座

三脚座つまみ

レンズ側
接点

三脚用ねじ穴

三脚座ねじ穴

バッテリーチャージャー LC-E12

バッテリーパック LP-E12を充電します（p.32）。

注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

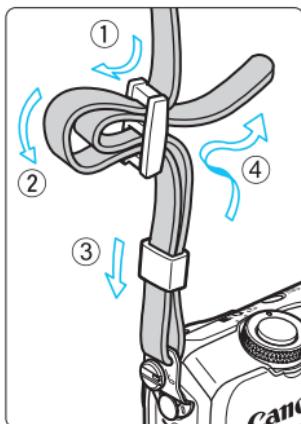
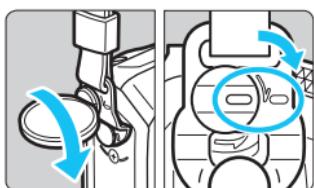
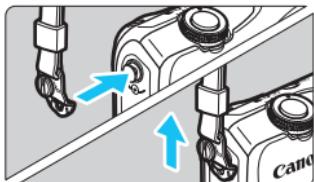
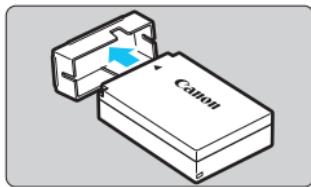
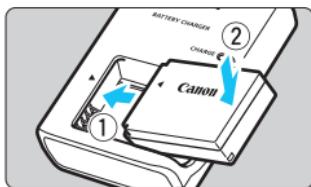
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

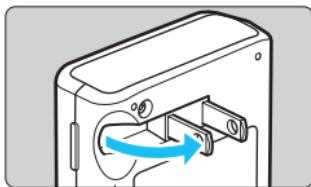
このカメラは何より、写真を楽しむためのカメラです。
そして、その写真からその時に感じた感覚や気持ちが伝わります。
写真は楽しく、素晴らしい！

撮影前の準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

ストラップの取り付け方

ストラップの金具をカメラのストラップ取り付け部にはめ込み、コインのようなものでネジ部を時計方向に止まるまで回転させます（指標が合います）。ストラップ金具に遊びがないことを確認します。ストラップの長さを調節できます。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

2 電池をしっかり取り付ける

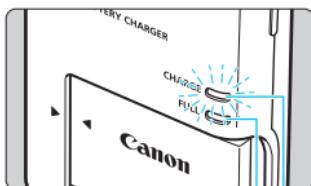
- 電池の ◀ とバッテリーチャージャーの ▶ を合わせます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。

充電完了ランプ
充電ランプ

- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
- 安全に充電を行うために、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

- **ご購入時、電池はフル充電されていません**
　充電してからお使いください。

- **充電は、使用する当日か前日にする**
　充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
　電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使えます**
　充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。プラグの形状が異なることがありますので、お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

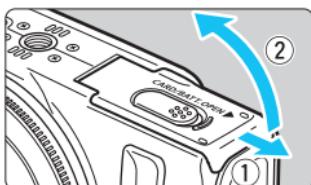
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
　新しい電池をお買い求めください。

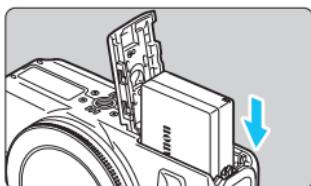
- 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリーパック LP-E12以外は充電しないでください。
- バッテリーパック LP-E12は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池とカードを入れる／取り出す

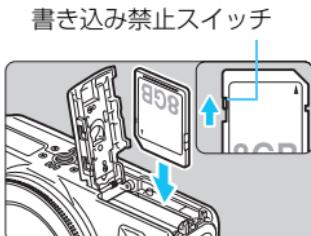
充電したバッテリーパック LP-E12をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXC メモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使えます。撮影した画像は、カードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

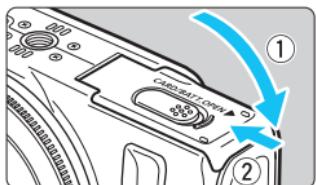
入れ方

1 ふたを開ける

- 矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 電池を入れる

- バッテリーの「**Canon**」の文字がカメラの正面にくるようにして、電池接点の方から入れます。
- 「カチッ」と音がしてロックされるまでしっかりと入れてください。

書き込み禁止スイッチ

3 カードを入れる

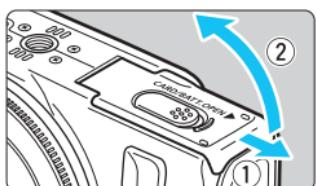
- **カードの表をカメラの正面側にします。**
- まっすぐに、突き当たるまで差し込みます。

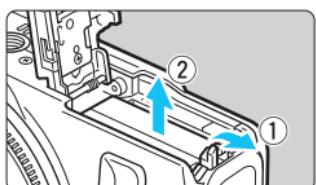
P [514]

撮影可能枚数

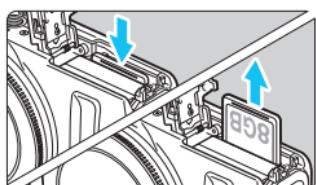
4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。
- 電源を〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数（p.39）が表示されます。

取り出し方

1 電源を〈OFF〉にする

2 ふたを開ける

- **液晶モニターと電源/アクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開けます。**
- 「書き込み中」と表示されたときは、ふたを閉じてください。

3 電池を取り出す

- ①電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、②電池を取り出します。
- ショート防止のため、電池に保護カバー（付属／ p.32）を必ず取り付けてください。

4 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

5 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

カード/電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

- **電源/アクセスランプがオレンジ色で点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/電池室ふたを開けないでください。また、電源/アクセスランプがオレンジ色で点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。**
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.210）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（p.57）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの接点に、指や金属が触れないように注意してください。

電源を入れる

電源を〈ON〉にしたときに、**エリア設定、日付/時刻の設定画面が表示されたときは、40ページを参照してエリア、日付/時刻を設定してください。**

電源ボタンを押すたびに〈ON〉、〈OFF〉が切り換わります。

電源〈OFF〉で〈▶〉ボタンを2秒以上押すと、再生モードになります。

- EF-M レンズを取り付けていると、電源が切れているときは、カメラ内部保護のため、絞りを絞り込んでカメラ内部に光が入らないようにしています。そのため、電源を〈ON〉、〈OFF〉したときに絞りが動く小さな音がします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源を〈ON〉〈OFF〉にしたときや、［**電源オフまで**］で電源が切れたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。電源を〈OFF〉にしたときは、清掃中に、液晶モニターに〈 〉が表示されます。
- 電源の〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。
- 撮像素子の自動清掃は、メニューで［**する/しない**］を選択できます（p.225）。

MENU 節電機能について

- 電池の消耗を防ぐため、何も操作しないと自動的に液晶モニターが消灯し、さらに、操作しない状態が続くと、自動的に電源が切れます。液晶モニターが消灯したときは、いずれかのボタンを押すか、液晶モニターにタッチすると液晶モニターが点灯します。電源が切れたときは、電源ボタンを押すか、〈▶〉ボタンを約2秒以上押し続けると電源が入ります。
- 画面が消灯するまでと、電源が切れるまでの時間を［**ᛘ2：節電機能**］の［**液晶の消灯**］と［**電源オフまで**］で変更できます（p.206）。

カードへの画像記録中に電源を〈**OFF**〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示します。

P [514]

- ：電池の残量は十分です。
- ：電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- ：まもなく電池切れになります。（点滅表示）
- ：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

[約・枚]

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	230	200

- フル充電のバッテリーパック LP-E12使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 下記の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける（AF 動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う）
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、撮影可能枚数が少なくなることがあります。

MENU エリア／日付／時刻を設定する

初めて電源を入れたときは、エリア、日付/時刻の設定画面になりますので、エリア、日付、時刻の順番で設定してください。

撮影画像には、設定した撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

エリアを設定する

初期状態では、エリアは［**ロンドン**］に設定されています。

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

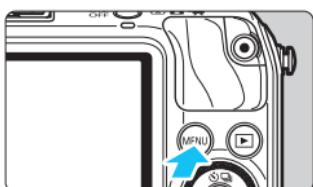
2 ［🔧2］タブの［エリア設定］を選ぶ

- 電子ダイヤルの〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して［🔧**2**］を選びます。
- 電子ダイヤルの〈▲ৎ/▭〉/〈▼🗑〉ボタンを押して［**エリア設定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

3 エリアを設定する

- 電子ダイヤルの〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して、エリアを選べる状態にします。
- 〈Q/SET〉を押して、〈⬍〉の状態にします。
- 電子ダイヤルの〈▲ৎ/▭〉/〈▼🗑〉ボタンを押してエリアを選び、〈Q/SET〉を押します。
- 電子ダイヤルの〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して［OK］を選び、〈Q/SET〉を押します。

- メニュー機能の設定操作は、54、56ページを参照してください。
- 画面の右下に表示される時間は、世界標準時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく表示されているか確認してください。
- サマータイムは［**2：エリア設定**］で設定することもできます。
- ［**2：エリア設定**］と［**2：日付/時刻**］のサマータイムの設定は、連動して切り換わります。

日付/時刻を設定する

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

2 ［2］タブの［日付/時刻］を選ぶ

- 電子ダイヤルの〈◀〉/〈▶〉ボタンを押して［2］タブを選びます。
- 電子ダイヤルの〈▲/〉/〈▼〉ボタンを押して［**日付/時刻**］を選び、〈/SET〉を押します。

3 日付/時刻を設定する

- 電子ダイヤルの〈◀〉/〈▶〉ボタンを押して項目を選びます。
- 〈/SET〉を押して、〈〉の状態にします。
- 電子ダイヤルの〈▲/〉/〈▼〉ボタンを押して設定し、〈/SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

4 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 電子ダイヤルの〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して［☀OFF］を選びます。
- 〈Q/SET〉を押して、〈⇕〉の状態にします。
- 電子ダイヤルの〈▲/〉/〈▼🗑〉ボタンを押して［☀］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順3で設定した時刻が、1時間進みます。［☀OFF］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5 設定を終了する

- 電子ダイヤルの〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して［OK］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

カメラから電池を取り出したり、電池残量がなくなったときに、エリア、日付/時刻の設定がリセットされることがあります。そのときは再度設定してください。

秒を合わせるときは、時計が0秒のときに、手順5で〈Q/SET〉を押してください。

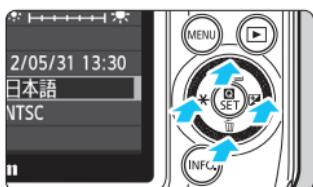
MENU 表示言語を選ぶ

1 メニューを表示する

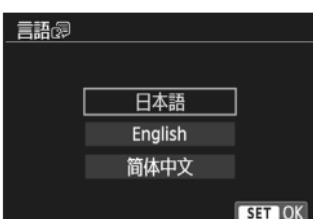
● 〈MENU〉ボタンを押します。

2 ［¥2］タブの［言語］を選ぶ

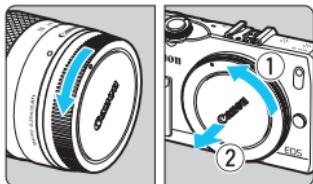
● 電子ダイヤルの〈◀✱〉/〈▶⊠〉ボタンを押して［¥2］タブを選びます。

● 電子ダイヤルの〈▲ ⏲/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して、［言語］（上から5番目の項目）を選び、〈Q/SET〉を押します。

3 言語を設定する

● 電子ダイヤルの〈▲ ⏲/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して言語を選び、〈Q/SET〉を押します。

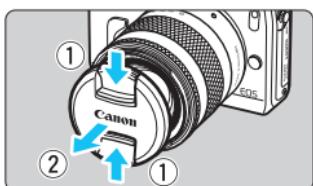
➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

　このカメラでは、EF-Mレンズ、EFレンズ、EF-Sレンズを使用できます。EFレンズ、EF-Sレンズを取り付けるときは、マウントアダプター EF-EOS Mが必要です。

取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標とカメラ側の取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

ズーム操作について

ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行います。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。
- 本機では、一部のレンズのフォーカスプリセット機能は使えません。また、パワーズームEF35-80mm F4-5.6 POWER ZOOMを装着してもパワーズームは動作しません。

レンズの焦点距離（撮影画角）について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの焦点距離（有効撮影画角）は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

撮影画面（約）（22.3×14.9mm）

35mm判フィルム撮影画面（36×24mm）

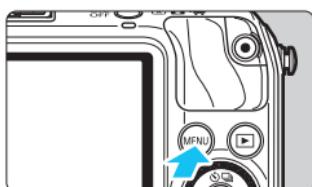
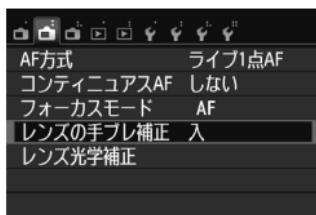
例：18-55mmの焦点距離のレンズは35mm判カメラ換算で約29-88mmになります。

レンズの手ブレ補正機能について

ISレンズに内蔵された手ブレ補正機能を使用すると、撮るときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮影できます。

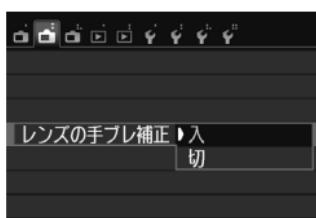
＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

EF-Mレンズ（メニューで操作するレンズ）の場合

メニュー *で設定します。ご購入時は「入」に設定されています。

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押します。

2 [📷2] タブの [レンズの手ブレ補正] を選ぶ

● 〈◄✱〉/〈►⊠〉ボタンを押して、[📷2] タブを選びます。

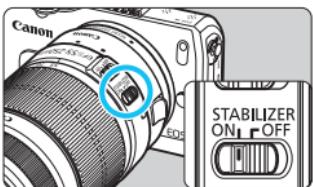
● 〈▲⏲/⧉〉/〈▼🗑〉ボタンを押して [**レンズの手ブレ補正**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

3 [入] を選ぶ

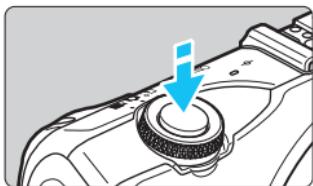
● 〈▲⏲/⧉〉/〈▼🗑〉ボタンを押して [入] を選び、〈Q/SET〉を押します。

● 〈MENU〉ボタンを押します。

* メニューは手ブレ補正機能があるEF-Mレンズを取り付けたときに表示されます。

EF-M以外のレンズ（スイッチで操作するレンズ）の場合

レンズにある手ブレ補正スイッチで操作します。

手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

手ブレ補正機能を使って撮影する

1 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

2 撮影する

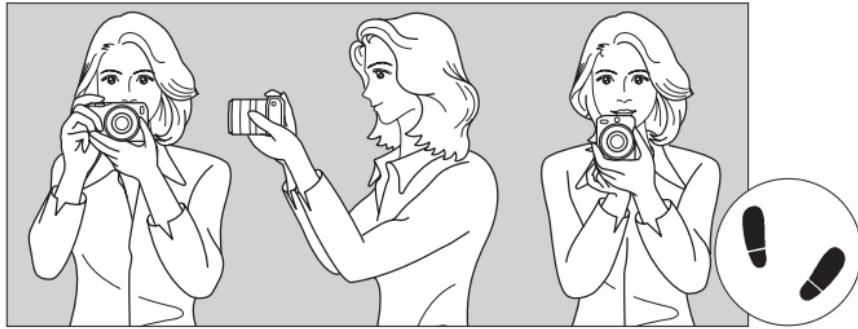
- 液晶モニターに見える像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

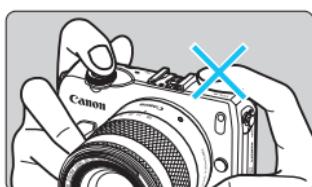
- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ撮影時は、手ブレ補正を〈OFF〉にしてください。〈ON〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

- 手ブレ補正機能は、どのフォーカスモードでも働きます。
- 手ブレ補正を〈OFF〉にすると液晶モニターにが表示されます。
- 三脚使用時に手ブレ補正が〈ON〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正を〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。

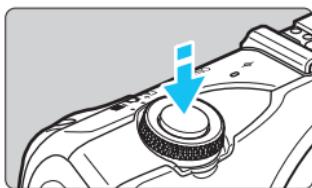
撮影の基本操作

カメラの構え方

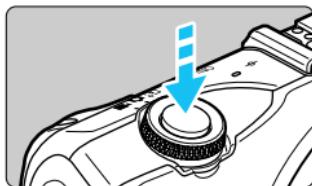
手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

動画撮影時には、マイクをふさがないようにしてください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに深く押すことを「全押し」といいます。

半押し

自動でピントと露出を調整します（シャッター速度と絞り数値を調整します）。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示されます（⏱16）。

全押し

シャッターが切れて撮影します。

手ブレしにくい撮影のしかた

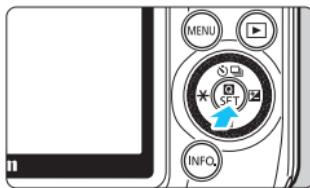
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

クイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能を設定できます。この操作を「クイック設定」といいます。

クイック設定には、Qクイック設定とINFO.クイック設定の2種類があります。

1 Qクイック設定

- 画面の[Q]をタッチする。または〈Q/SET〉を押します。

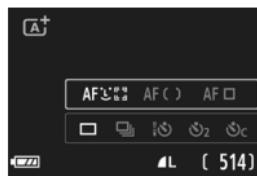
INFO.クイック設定

- 次ページの INFO. クイック設定画面が出るまで〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ クイック設定の画面になります。

2 機能を設定する

- 設定する項目をタッチします。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイドが画面に表示されます。
- 表示される画面で機能をタッチして設定します。
- ➡〈INFO.〉ボタンを押して、詳細設定する機能もあります。
- 設定する項目を選んだり、機能を設定するのは電子ダイヤルの〈◄ ✱〉/〈► ⊠〉ボタンを押す、〈▲ 〉/〈▼ 〉ボタンを押す、ダイヤルを回す、でも操作できます。

シーンインテリジェントオート

Qクイック設定　　**INFO.クイック設定**

かんたん撮影ゾーン

応用撮影ゾーン

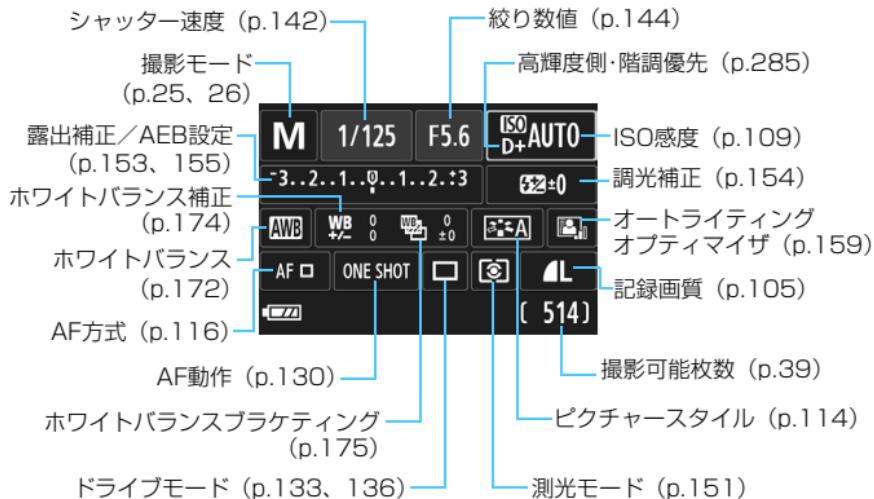
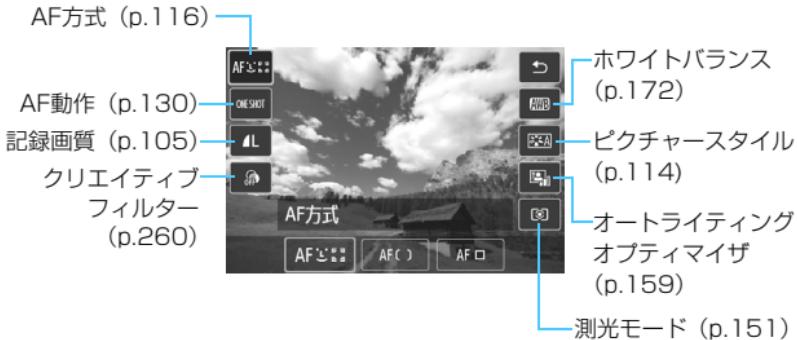
3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。

シーンインテリジェントオートとかんたん撮影ゾーンで設定できる機能については、88ページを、応用ゾーンで設定できる機能については52ページを、動画モードで設定できる機能については186ページ、再生モードで設定できる機能については236ページを参照してください。

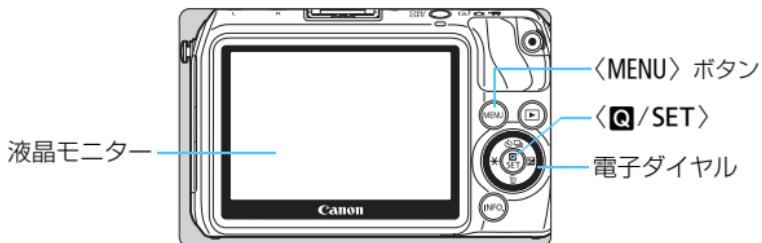
クイック設定で設定できる機能

シャッター速度（p.142）
撮影モード
（p.25、26）
露出補正／AEB設定
（p.153、155）
ホワイトバランス補正
（p.174）
ホワイトバランス
（p.172）
AF方式（p.116）
AF動作（p.130）
ホワイトバランスブラケティング
（p.175）
ドライブモード（p.133、136）

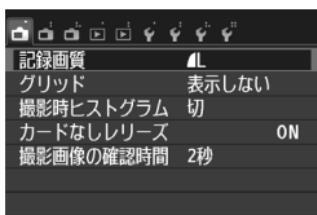
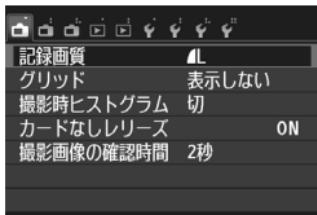
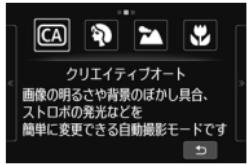
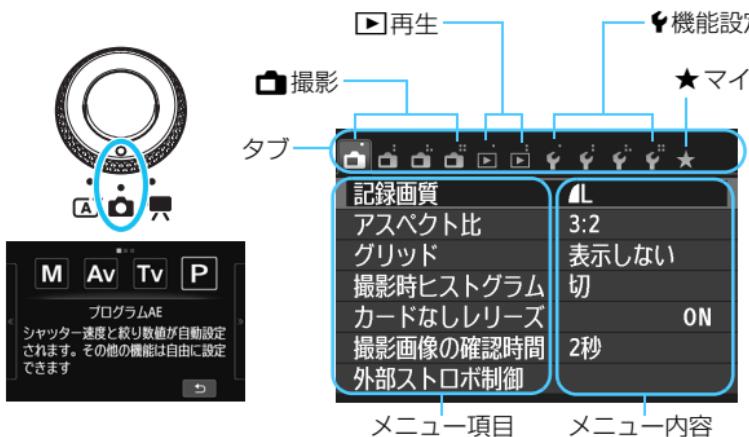
絞り数値（p.144）
高輝度側･階調優先（p.285）
ISO感度（p.109）
調光補正（p.154）
オートライティング
オプティマイザ（p.159）
記録画質（p.105）
撮影可能枚数（p.39）
ピクチャースタイル（p.114）
測光モード（p.151）

設定画面について

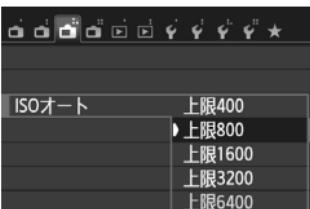
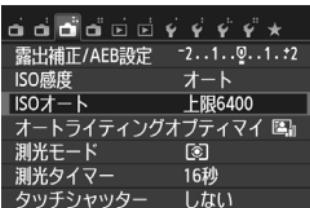
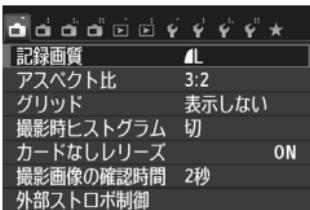
〈Q/SET〉

MENU メニューの操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニューで行います。メニューの操作は、〈MENU〉ボタン、電子ダイヤル、〈Q/SET〉を使って行います。

メニュー画面

撮影モードによって、使い方に合わせたメニューが用意されています。

シーンインテリジェントオート

かんたん撮影ゾーン

応用撮影ゾーン

動画撮影

メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- 〈◄ ✱〉/〈► ⊠〉ボタンを押してタブ（系統）を選びます。
- 例えば、本文中の［📷3］タブは、📷（撮影）タブの左から3番目〔📷〕を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 〈▲ ⏱/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して項目を選び、〈Q/SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈▲ ⏱/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンまたは〈◄ ✱〉/〈► ⊠〉ボタンで内容を選びます。（〈▲ ⏱/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンで選ぶ内容と、〈◄ ✱〉/〈► ⊠〉ボタンで選ぶ内容があります）
- 現在設定している内容は青色になります。

5 内容を設定する

- 〈Q/SET〉を押すと設定されます。

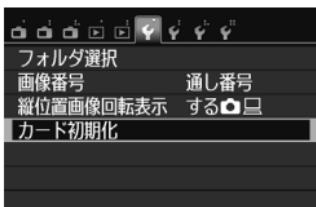
6 設定を終了する

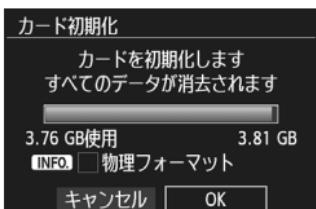
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定画面に戻ります。

- 手順2では〈◎〉を回してタブを選ぶこともできます。
- 手順2～5は、液晶モニターをタッチして操作することもできます（p.61）。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニューの内容は、300ページを参照してください。

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録した内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトした画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 初期化する

- ［OK］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

- 物理フォーマットを行うときは、〈INFO.〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときに［カード初期化］を行います

- **新しく購入したカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき**
- **カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき**
- **カードエラーが表示されたとき**（p.323）

物理フォーマットとは？

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止できます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま使用できます。

- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

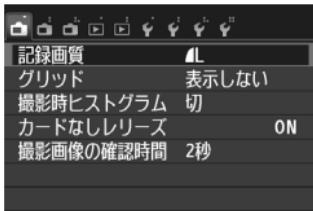
- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

液晶モニターの表示切り換え

INFO. クイック設定

● 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、ライブビュー画面、INFO.クイック設定（p.50）が切り換わります。

メニュー

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、ライブビュー画面に戻ります。

撮影した画像

● 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、ライブビュー画面に戻ります。

メニューや撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影できます。

機能ガイドについて

撮影モードを変更したときや、静止画撮影／動画撮影／再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に、操作を続けると説明は消えます。

● **撮影モード**（例）

● **クイック設定**（例）

撮影機能

ライブビュー撮影

再生

MENU 機能ガイド表示を消す

［機能ガイド］を選ぶ

● ［🔧3］タブの［**機能ガイド**］を選び、〈Q/SET〉を押します。［**表示しない**］を選び〈Q/SET〉を押します。

タッチパネルと電子ダイヤルで操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作できます。

また、背面にある電子ダイヤルは、回転して選ぶ、上下左右4方向と中心を押す、の機能を持っています。

このカメラでは、液晶モニターに表示されている項目を直接タッチする、電子ダイヤルを操作（回す、上下左右を押す）して項目を選び中心のボタンを押す、のどちらでも操作できます。

タッチパネル

タッチ

画面例（クイック設定）

- 液晶モニターに、指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- タッチ操作ができるアイコンは、枠で表示されます（メニュー画面を除く）。
- ［↩］をタッチすると、元の画面に戻ります。

タッチでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈▲ ⏲/□〉／〈▼ 🗑〉／〈◀ ✱〉／〈▶ ☒〉ボタンを押したあとの機能設定
- タッチシャッター
- 再生の操作

ドラッグ

画面例（メニュー画面）

- 液晶モニターに、指を触れたまま動かします。

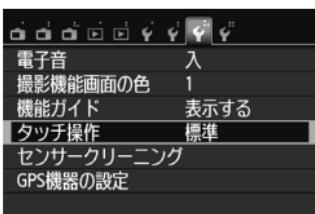
画面例（目盛り表示）

ドラッグでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- 再生の操作

MENU タッチ操作時の電子音を消す

［¥3：**電子音**］を［**タッチ音切**］または［**切**］に設定すると、タッチ操作時の電子音が鳴りません。

MENU タッチ機能を設定する

1 ［タッチ操作］を選ぶ

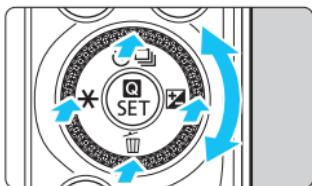
- ［¥3］タブの［**タッチ操作**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 タッチ機能を設定する

- 通常は［**標準**］を選びます。
- ［**敏感**］は［**標準**］に比べ、画面に触れたときの反応がよくなります。操作してみて、使いやすい方を選んでください。

タッチパネル操作時のご注意

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに、市販の保護シートやシールを貼らないでください。タッチの反応が悪くなることがあります。

電子ダイヤル

回転させたり、上下左右４方向に押すことで、機能を選びます。

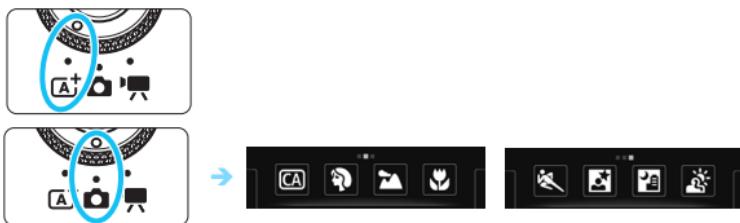
中心の〈Q/SET〉を押すことで、選んだ機能を設定します。

カメラと一緒だと、今まで気が付かなかった風景が見えてきます。
膝をついてもいいように、気軽な服装で、カメラを片手に出かけましょう。
最初は、「面白い」と感じる被写体探しから。

シーンインテリジェントオート+ かんたん撮影ゾーンと画像確認

この章では、シーンインテリジェントオートとかんたん撮影ゾーンを使って撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、「シャッターボタンを押すだけ」が基本ですが、背景をぼかしたり（p.77）、雰囲気をつけたり（p.89）、さらに明かりや状況に合わせたりする（p.92）ことで、少し工夫して、自分だけの写真を撮影できます。

→

オートライティングオプティマイザ機能について

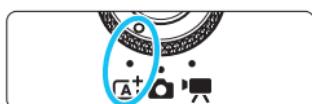
かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能（p.159）が働きます。応用撮影ゾーンでも初期状態で機能します。

〈A+〉全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。

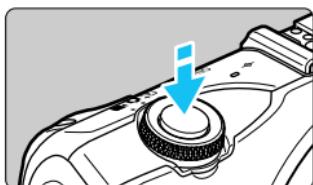
シーンインテリジェントオートでは、ピント合わせはすべて自動です。メニューやクイック設定で3つのAF方式から選べます。

［**顔（顔）+追尾優先AF**］を選ぶと、人の顔を検知してピントを合わせます（p.118）。［**ライブ多点AF**］は動いている被写体にピントを合わせやすいAFです（p.120）。［**ライブ1点AF**］では1つのフレームで狙った被写体にピントを合わせられます（p.121）。

ここでは、［**顔（顔）+追尾優先AF**］での撮影のしかたを説明します。

1 モードダイヤルを〈A+〉にする

AFフレーム

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 画面をタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外のときは〈 〉が表示されます。
- 顔が検知されないときや、画面をタッチして顔または被写体を選択しなかったときは、ライブ多点AFの自動選択（p.120）に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈A〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.114）。
- 映像の視野率は、約99%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降を撮影します。
- カメラを操作しない状態が続くと、［2：**節電機能**］の［**液晶の消灯**］の設定時間で、自動的に液晶モニターが消灯します。液晶モニター消灯後、［**電源オフまで**］の設定時間で、自動的に電源が切れます。
- 別売のステレオAVケーブルや、別売のHDMIケーブルを使用すると、撮影中の映像をテレビに表示できます（p.247、251）。

こんなときは

AFフレームが緑色に変わらず、ピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせ直してシャッターボタンを半押ししてください。また、近づきすぎているとピントが合わないことがあります。離れて撮影してください。

複数のAFフレームが緑色になる

緑色になったすべてのフレームの位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも緑色になっているときは、そのまま撮影してください。

シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

EF、EF-S レンズ使用時は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると手動ピント合わせになります。フォーカスモードスイッチを〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

スピードライト90EXを取り付けているとき （p.138）

（ストロボ撮影では、シャッターボタンを全押ししてから撮影するまで少し時間がかかります）

- **明るい日中なのにストロボ撮影になった**
  逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、ストロボの電源を〈**OFF**〉にしてください。

- **ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**
  被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真になることがあります。

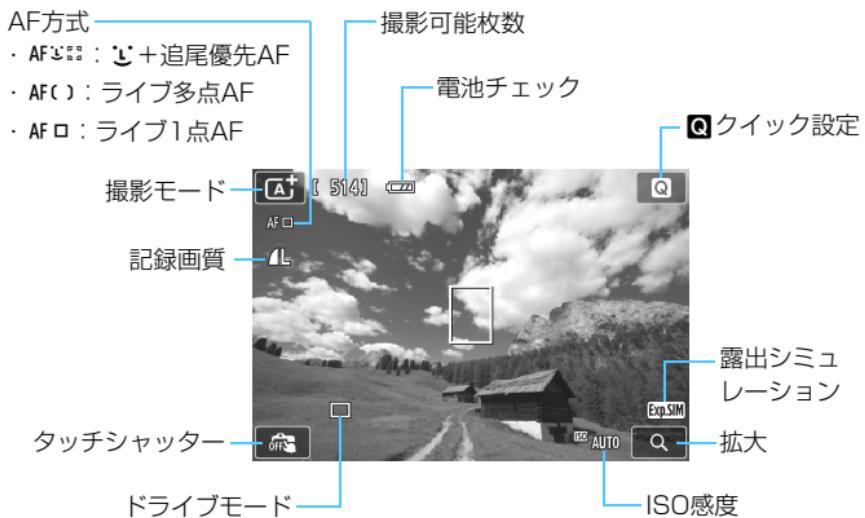
- **ストロボが発光したのに暗い写真になった**
  被写体から離れすぎています。『ストロボ撮影できる距離の目安』（p.139）を参考にして撮影してください。

- **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**
  被写体に近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

撮影中の表示画面について

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

AF方式
- AF顔+追尾：顔+追尾優先AF
- AF( )：ライブ多点AF
- AF□：ライブ1点AF

撮影可能枚数
電池チェック
Qクイック設定
撮影モード
記録画質
露出シミュレーション
タッチシャッター
拡大
ドライブモード
ISO感度

- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
- グリッド［**グリッド1**♯］または［**グリッド2**♯♯］で格子線を表示できます。水平、垂直の傾きを確認しながら撮影できます（p.205）。

A⁺ 全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

デジタルカメラでは、少し多めの容量のカードを用意するのがコツ。構図やモード選びに迷ったら、思い切って両方を撮ってみましょう。少しぶれてしまった写真でも、気持ちの伝わるものもあります。失敗したり、イメージと違った写真は後から消せばいいので、気軽に撮影しましょう。

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を中央ではなく、画面の右や左に配置して、背景も入れることで、バランスもとれて、奥行きのある写真になります。

止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントをその被写体との距離に固定(ロック）します。そのまま、右や左にカメラを動かして、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈スポーツアイコン〉スポーツを除く）。

シーン判別のアイコン一覧

〈〉モードで撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示されます。

被写体 / 背景	人物*1		人以外の被写体			背景色
		動いているとき	自然や屋外シーン	動いているとき	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時	*4*5	*3	*4*5	*3		

*1：AF方式を［+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人以外の被写体」のアイコンが表示されます。
*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
*4：撮影シーンが暗いときや、夜景を撮影するときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

<→次のページに続く>

*5：下記のレンズ使用時に、表示されます。

- EF24mm F2.8 IS USM
- EF28mm F2.8 IS USM
- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II
- EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM
- EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
- 2012年以降に発売されたISレンズ

* シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影
- 明かりや状況にあわせて撮影
- クリエイティブフィルター（ソフトフォーカスとジオラマ風では「絞り込み」ボタンON時）*
- 測光モード
- 露出
- 被写界深度（「絞り込み」ボタンON時）*
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

* メニューのカスタム機能でC.Fn-6を「絞り込み」に設定しているとき。

ファイナルイメージシミュレーションでは、効果を映像で確認できますが、液晶モニターに表示される色は撮影される画像と完全には一致しません。

撮影モードを選ぶ

1 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。

2 画面をタッチしてモードを選ぶ

- INFO.クイック設定でも設定できます。

の場合

画面両端の矢印をタッチすると、画面が左右に切り換わります。

撮影モードの画面は3ページあり、応用撮影ゾーンが1ページ、かんたん撮影ゾーンが2ページです。

応用撮影ゾーン

M：マニュアル、**Av**：絞り優先AE、**Tv**：シャッター優先AE、**P**：プログラムAEから選びます。

かんたん撮影ゾーン

CA：クリエイティブオート、：ポートレート、：風景、：クローズアップ、：スポーツ、：夜景ポートレート、：手持ち夜景、：HDR逆光補正

の場合

：自動露出、M：マニュアル露出

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、かんたんな操作で背景をぼかしたり、ドライブモード、取り付けたストロボの発光を簡単な操作で変更できます。また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影できます。なお、ご購入時の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈📷〉にして、画面で〈CA〉を選ぶ

2 クイック設定画面を表示させる

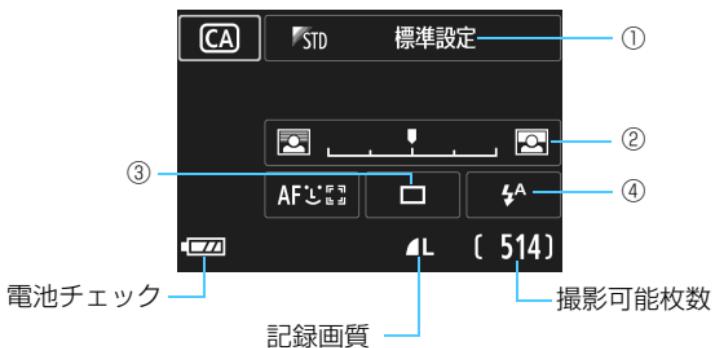
- ［**背景をぼかす／くっきり**］以外のQクイック設定では効果を確認しながら設定できます。

3 機能を設定する

- 機能を選び、［⮌］をタッチします。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.60）が画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、76、77ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押します。

撮影モードを変えたり、電源を〈OFF〉にすると、この画面で設定した内容がご購入時の状態に戻ります。ただし、AF方式、記録画質、セルフタイマー、リモコンの設定、および設定可能な撮影モードであればクリエイティブフィルターの設定はそのまま保持されます。

①雰囲気を選んで撮影する（Q クイック設定／INFO. クイック設定）
どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影できます。

②背景をぼかす／くっきりさせる（Q クイック設定／INFO. クイック設定）

　カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景をぼかした写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景をくっきりさせた写真になります。背景をぼかしたいときは、78ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。

　なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。ストロボ撮影時は設定が無効になります。

③ドライブモード（INFO. クイック設定）

〈□〉**1枚撮影**：1枚だけ撮影します。

〈⧉〉**連続撮影**：シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約4.3枚を連続して撮影できます。

〈Ⓢ〉**セルフタイマー：10秒/リモコン**：
シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影します。リモコン撮影も可能です。

〈Ⓢ2〉**セルフタイマー：2秒**：
シャッターボタンを押すと、2秒後に撮影します。

〈ⓈC〉**セルフタイマー：連続撮影**：
［▲］／［▼］をタッチして撮影する枚数（2～10）を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。

④90EXを取り付けたときのストロボの発光
（Q クイック設定／INFO.クイック設定）

〈⚡A〉**ストロボ自動発光**　：必要に応じて自動的に発光します。

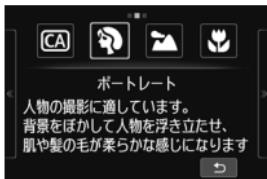
〈⚡〉**ストロボ発光**　：常時ストロボが発光します。

〈⊛〉**ストロボ発光禁止**　：ストロボは発光しません。

* 90EX以外のストロボを取り付けたときは、強制発光になります。

セルフタイマー撮影については、137ページの（ノート）を参考に撮影してください。

人物を写す（ポートレート）

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときに。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。

- 初期設定では、〈連続撮影アイコン〉（連続撮影）が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約4.3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
- ポートレートモードでは、スピードライト 90EX などのストロボ使って撮影することをおすすめします。

風景を写す（風景）

広がりのある風景など､近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときに。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。

撮影のポイント

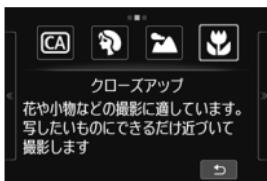
- **ズームレンズは広角側にする**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影できます。また、風景の広がりも表現できます。

- **夜景を撮影するときは**

  〈〉ではスピードライト90EXを取り付けていても発光しないため、夜景を撮影できます。手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

花や小物を大きく写す（クローズアップ）

花や小物などに近づいて大きく写したいときに。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**

  背景に花や葉などがなく、すっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

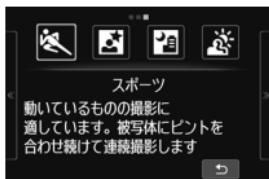
- **写したいものに、できるだけ近づく**

  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります（この例では、25センチまで近づけます）。なお、最短撮影距離は、アクセサリーシューの右側に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。

- **ズームレンズは望遠側にする**

  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく撮影できます。

動きのあるものを写す（スポーツ）

動いているものにピントの合った写真を撮りたいときに。

撮影のポイント

連続撮影する

　シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まると同時にAFフレーム枠が固定されます。

　ピントを合わせている間、電子音が鳴り続け、ピントが合わないとAF枠がオレンジ色になります。

　シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して動きの変化を写すことができます。

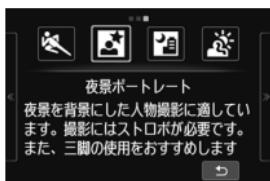
　連続撮影するときの1秒間の最高撮影枚数は、レンズによって異なります。

・約1.7枚/秒：EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM使用時
・約1.2枚/秒：EF-M22mm F2 STM使用時
・約4.3枚/秒：EF、EF-Sレンズ使用時

注意事項に関しては131ページを参照してください。

手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を写す（夜景ポートレート）（三脚を使う）

スピードライト90EXを取り付けて、人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときに。

撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を撮影できます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

- **人物も写真に入れるときは**

  ストロボの電源を〈ON〉にしていると、暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。

  撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

  なお、ストロボの届く距離は『ストロボ撮影できる距離の目安』（p.139）を参照してください。

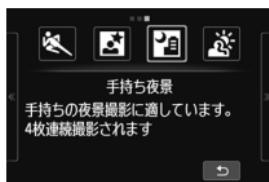
  ストロボを使用しないときは、人物のいない夜景の撮影に使います。

- **ほかの撮影モードでも撮影しておく**

  ブレた写真になりやすいので、〈A+〉と〈〉でも撮影しておくことをおすすめします。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマー／AF補助光ランプが一瞬光ります。
- 夜景など、点状の光源が画面内にあるときはAFでピントが合いにくい場合があります。このような場合は、AF方式で［**ライブ1点AF**］を選んで撮影することをおすすめします。それでもピントが合いにくい場合は、フォーカスモードを［**MF**］にして手動でピントを合わせてください。

夜景を写す（手持ち夜景）

カメラを手で持ったまま夜景を撮影するときに。1回の撮影で4枚連続撮影して、手ブレを抑えた明るい静止画を1枚記録します。

撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。

スピードライト90EXを取り付けているときは

● **夜景だけを撮るときはストロボの電源をOFFに**

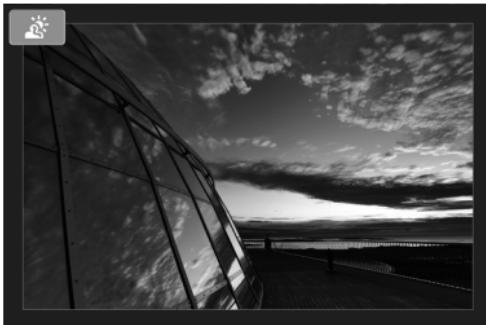
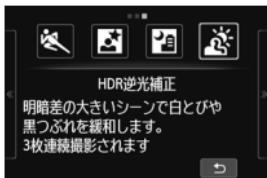
夜景だけを撮るときはストロボを使わないで撮影します。

● **人物も一緒に撮るときはストロボの電源をONに**

人物もきれいに写るよう、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。また、人物との距離は『ストロボ撮影できる距離の目安』（p.139）を参照してください。

注意事項は、87ページを参照してください。

逆光シーンを写す（HDR逆光補正）

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを撮影するときに。1回の撮影で明るさの異なる3枚を連続撮影し、白とびや黒つぶれを抑えた静止画を1枚記録します。

撮影のポイント

- **カメラをしっかり構える**

 撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。

- AF補助光は光ります。
- ストロボ撮影はできません。
- 注意事項は、87ページを参照してください。

〈[HDR逆光補正アイコン]〉の注意事項

- 夜景など、点状の光源ではAFでピントが合いにくい場合があります。このような場合は、フォーカスモードを［MF］にして手動でピントを合わせてください。
- ストロボ撮影時に、「人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているとき」、「明かりが少ない夜景を撮影するとき」は、画像の位置合わせが正確に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ撮影時に、被写体が近いとかなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- 照射角を自動で切り換えるストロボでは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
  照射角を手動で切り換えるストロボでは、発光部をワイド（広角）側にして撮影してください。

〈[逆光補正アイコン]〉の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。

〈[HDR逆光補正アイコン]〉〈[逆光補正アイコン]〉の共通注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW＋◢L、RAWは選択できません。他の撮影モードで、RAW＋◢LまたはRAWが設定されていたときは、◢Lになります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正確に行われないことがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 撮影時のクリエイティブフィルターは使用できません。
- ファイナルイメージシミュレーションはできません。
- 撮影モードが〈[HDR逆光補正アイコン]〉と〈[逆光補正アイコン]〉に設定されていると、ダイレクトプリントできません。撮影モードを他のモードに変更してから、ダイレクトプリントをしてください。

Q かんたん撮影とシーンインテリジェントオートのクイック設定について

例：ポートレートモード

クイック設定できる機能

Q：Qクイック設定、INFO.：INFO.クイック設定、●：初期設定

項目		A+ (p.66)	CA (p.75)	(p.78)	(p.79)	(p.80)	(p.81)	(p.83)	(p.85)	(p.86)
ドライブモード	□：1枚撮影	INFO.（●）	INFO.（●）	INFO.	INFO.（●）	INFO.（●）	INFO.	INFO.（●）	INFO.（●）	INFO.（●）
	連続撮影（p.133）	INFO.	INFO.	INFO.（●）	INFO.	INFO.	INFO.（●）	INFO.	INFO.	INFO.
	セルフタイマー（p.136） 10 / 2 / C	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.	INFO.
スピードライト90EXの発光	A：自動発光	●	Q＋INFO.（●）	●	–	●	–	●	–	–
	：常時発光	–	Q＋INFO.	–	–	–	–	–	●	–
	：発光禁止	–	Q＋INFO.	–	●	–	●	–	–	●
雰囲気を選んで撮影（p.89）		–	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	–
明かりや状況にあわせて撮影（p.92）		–	–	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	–	–	–
背景：ぼかす/くっきり（p.77）		–	Q＋INFO.	–	–	–	–	–	–	–
クリエイティブフィルター		–	Q	Q	Q	Q	Q	Q	–	–
記録画質		Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q	Q
AF方式	＋追尾優先AF ライブ多点AF ライブ1点AF	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.	Q＋INFO.

- 撮影モードを変えたり、電源を〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（AF方式、記録画質、セルフタイマー、リモコンの設定、および設定可能な撮影モードであればクリエイティブフィルターの設定はそのまま保持されます）。
- クリエイティブフィルターは応用撮影ゾーンの**M**、**Av**、**Tv**、**P**でも操作できます。

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈 〉を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影できます。

雰囲気	CA							雰囲気の効果
STD 標準設定	○	○	○	○	○	○	○	設定なし
V くっきり鮮やかに	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
S ふんわりやわらかく	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
W 暖かくやさしく	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
I しっとり深みのある	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
C ほの暗くひっそりと	○	○	○	○	○	○	○	弱め／標準／強め
B 明るく	○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
D 暗く	○	○	○	○	○	○	○	少し／もう少し／さらに
M モノクロ	○	○	○	○	○	○	○	青／白黒／セピア

1 〈 〉以外のかんたん撮影モードを選ぶ

2 クイック設定で雰囲気を選ぶ

- クイック設定画面を表示させます。
- 図の［STD **標準設定**］をタッチし、画面に［**雰囲気を選んで撮影**］が表示された状態にします。
- ［◄］/［►］をタッチして雰囲気を選びます。

➡ Q クイック設定では、液晶モニターで、選んだ雰囲気の仕上がりイメージを確認できます。

3 雰囲気の効果を設定する

- 図の項目をタッチし、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 効果のレベル・内容をタッチして選びます。

4 撮影する

- シャッターボタンを押します。
- 撮影モードを変えたり、電源を〈**OFF**〉にすると、［STD **標準設定**］に戻ります。

- 液晶モニターで表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影される画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見る液晶モニターの映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。［**2：液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして、液晶モニターの映像を見てください。

各雰囲気の画像設定について

STD 標準設定

各撮影モードの標準的な設定です。なお、〈人物〉は人物撮影、〈風景〉は風景撮影に適した画像になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像設定が変わります。

V くっきり鮮やかに

被写体をくっきりさせる印象的な設定で、[STD **標準設定**]よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

S ふんわりやわらかく

被写体の強調感をおさえた設定で、人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

W 暖かくやさしく

被写体の強調感をおさえた暖色系の設定で、人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

I しっとり深みのある

全体的な明るさを少しおさえながら被写体を強調した設定で、人や生物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

C ほの暗くひっそりと

全体的な明るさを少しおさえた寒色系の設定で、影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

B 明るく

明るい写真になります。

D 暗く

暗い写真になります。

M モノクロ

モノクロの色は、白黒、セピア、青の3色から選択できます。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈ポートレート〉〈風景〉〈クローズアップ〉〈スポーツ〉では、明かりや状況にあわせた設定で撮影できます。通常は［STD **標準設定**］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、より見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

明かりや状況	ポートレート	風景	クローズアップ	スポーツ
STD 標準設定	○	○	○	○
日なた	○	○	○	○
日かげ	○	○	○	○
くもり	○	○	○	○
電球	○		○	○
蛍光灯	○		○	○
夕焼け	○	○	○	○

1 かんたん撮影モードの〈ポートレート〉〈風景〉〈クローズアップ〉〈スポーツ〉を選ぶ

2 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- クイック設定画面を表示させます。
- 図の［STD］をタッチし、画面に［**明かりや状況にあわせて撮影**］が表示された状態にします。
- ［◄］/［►］をタッチして明かりや状況を選びます。
- ➡ Qクイック設定では、液晶モニターが、選んだ明かりや状況の仕上がりイメージになります。

3 撮影する

- シャッターボタンを押します。
- 撮影モードを変えたり、電源を〈**OFF**〉にすると、［STD **標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［STD **標準設定**］に切り換わります（ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます）。
- ［**雰囲気を選んで撮影**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになりますので、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。

各設定の効果について

STD 標準設定

標準的な設定です。

日なた

日なたにある被写体を撮影するときに。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

日かげ

日かげにある被写体を撮影するときに。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

くもり

くもり空の下で撮影するときに。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

電球

白熱電球下で撮影するときに。白熱電球の赤色をおさえたいときに効果的です。

蛍光灯

蛍光灯下で撮影するときに。蛍光灯の種類に関係なく撮影できます。

夕焼け

夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに。

クリエイティブフィルターを使って撮影する

シーンインテリジェントオート、手持ち夜景、HDR逆光補正、動画を除く撮影モードで、効果と構図を確認しながら、クリエイティブフィルターを使って撮影できます。撮影時には、クリエイティブフィルターを使った画像のみ保存されます。クリエイティブフィルターを使わない画像も保存したいときは、再生中にクリエイティブフィルターを使ってください（p.260）。

1 〈A+〉、〈手持ち夜景〉、〈HDR逆光補正〉、動画以外の撮影モードを選ぶ

2 [Q] クイック設定でクリエイティブフィルターを選ぶ

- ［**クリエイティブフィルター**］をタッチします。
- 撮影に使うフィルターをタッチします。フィルターの特徴は96、97ページを参照してください。
- ➡ 液晶モニターで、選んだフィルターのイメージを確認できます。

3 フィルターの効果を調整する

- ジオラマ風以外では、効果を調整できます。フィルターをタッチするとフィルターの下に［効果アイコン］（トイカメラ以外）または［色調アイコン］（トイカメラ）が出ますので、液晶モニターで効果を確認しながら［効果調整バー］、［色調調整バー］をタッチします。
- ジオラマ風では、［↺］をタッチして[Q]クイック設定の表示を消すと、くっきり見せたい部分を示す白い枠が出ます。液晶モニターで確認しながら、ドラッグして枠を移動させます。
- ［縦横切り換えアイコン］をタッチすることで白枠の縦/横を切り換えられます。

4 撮影する

- シャッターボタンを押します。

クリエイティブフィルターを使って撮影するときは、ドライブモードを連続撮影（/c）に設定していても1枚撮影になります。

- 記録画質を RAW＋L または RAW にしているときは、設定できません。また、AEB（Auto Exposure Bracketing）、WBB（White Balance Bracketing）を設定しているとき、「高感度撮影時のノイズ低減」がマルチショットのときも、設定できません。
- クリエイティブフィルターを使って撮影するときには、ヒストグラムは表示されません。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変更できます。

- **ソフトフォーカス**

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変更できます。

- **魚眼風**

魚眼レンズで撮影したような効果です。タル型にゆがんだ写真になります。なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、画像を確認しながら設定してください。なお、魚眼風では、AFは任意1点中央固定になります。

- **油彩風**

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変更できます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **水彩風**

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変更できます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

トイカメラ風

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変更できます。

ジオラマ風

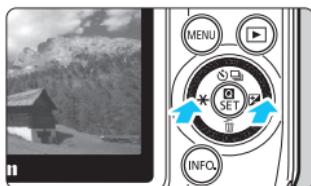
ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。くっきり見せたい部分を変えることができます。表示される白い枠の中央にピントが合います。なお、ジオラマ風では、AFは表示される白い枠のライブ1点中央固定になります。

- ラフモノクロでは、液晶モニターに表示される映像と撮影される画像でざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカスとジオラマ風では、液晶モニターに表示される映像と撮影される画像でぼかし具合が異なることがあります。かんたん撮影モードと動画以外では、メニューのカスタム機能でC.Fn-6を［**絞り込み**］に設定して（p.287）〈▼ 🗑〉ボタンを押すことで、撮影される画像のぼかし具合を確認できます。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、229ページを参照してください。

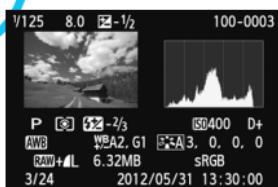
1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。
- 電源が〈OFF〉のときに〈▶〉ボタンを2秒以上押すと、電源が〈ON〉になり、再生画面が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀ ✳〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像から順番に画像が表示されます。〈▶ ☒〉ボタンを押すと、最初に撮影した画像から順番に表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示する内容が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報

ヒストグラム

撮影情報

3 再生を終了する

- 〈[▶]〉ボタンを押すと再生が終了し、ライブビュー画面に戻ります。

撮影になれてきたら、正面からだけではなく、少し上や下、左や右からも見てみましょう。被写体が違う表情になったり、影の形が変わったり、意外な面白さがあります。
シャッターを切る前にいろいろ試してみるのも、いい写真を撮るコツです。

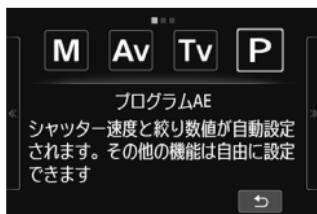
3 カメラまかせから一歩進んだ撮影

シーンインテリジェントオートやかんたん撮影モードでは、気軽でかんたんに撮影できるよう、いろいろな機能を変更できないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）モードでは、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んでイメージどおりに撮影できます。

- 〈**P**〉モードでは、標準露出になるように、シャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。
- かんたん撮影ゾーンと〈**P**〉モードの撮影機能の組み合わせの違いについては、296ページを参照してください。
- この章で説明する機能は、4章で説明する〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて撮影できます。
- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（p.25）限定です。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。
＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

1 応用撮影モードで〈P〉を選ぶ

（p.74）

2 ピントを合わせる

- 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが緑色になります（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

撮影のポイント

- **ISO感度を変える。スピードライト90EXのストロボを使う**

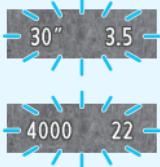
　被写体や周囲の明るさに応じてISO感度（p.109）を変えたり、スピードライト90EX（p.138）を使います。〈P〉では、スピードライト90EXのストロボは自動的に発光しませんので、室内や暗い場所では、スピードライト90EXの電源を〈ON〉にして、［1：**外部ストロボ制御**］で［**ストロボの発光**］を［**する**］にしてください。

- **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**

　シャッターボタンを半押ししたあと、〈〉を回すと、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影できます。プログラムシフトは、撮影すると自動的に解除されます*。なお、ストロボ使用時はシフトできません。

* 露出補正表示に〈〉が表示されているときは、〈▶ 〉ボタンを押して表示を消してから〈〉を回してください。

- **被写界深度を確認する**

　応用撮影ゾーンでは、カスタムファンクションC.Fn-6で〈▼ 〉ボタンを［**絞り込み**］に設定しておくと、被写界深度を確認できます。

- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**4000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

〈P〉と〈A+〉（シーンインテリジェントオート）の違いについて

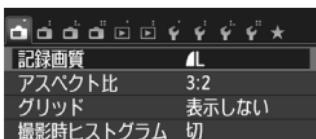
〈A+〉モードでは、AF動作など、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードでは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作などの機能は自由に設定できます（p.296）。

クイック設定

応用撮影ゾーンでは、AF方式／AF動作／ドライブモード／記録画質／ホワイトバランス／クリエイティブフィルター／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／測光モードなどを設定できます。

測光モードの内容は、151ページを参照してください。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選べます。記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S1、▟S1、S2、S3、RAW＋◢L、RAWの10種類です。

1 記録画質を選ぶ

- ［◘1］タブの［**記録画質**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

記録画素数

撮影可能枚数

2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈Q/SET〉を押します。

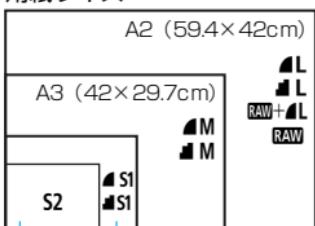
記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	約1790万（18M）	6.4	1140	15（17）
▟L				3.2	2240	2240（2240）
◢M	中画質		約800万（8M）	3.4	2150	2150（2150）
▟M				1.7	4200	4200（4200）
◢S1	低画質		約450万（4.5M）	2.2	3350	3350（3350）
▟S1				1.1	6360	6360（6360）
S2			約250万（2.5M）	1.3	5570	5570（5570）
S3			約35万（0.35M）	0.3	21560	21560（21560）
RAW＋◢L		高画質	約1790万（18M）	23.5+6.4	230	3（3）
RAW				23.5	290	6（6）

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**

* 連続撮影可能枚数の（　）内の数値は、当社試験基準 UHS-I 対応、8GBカード使用時の枚数です。

? こんなときは

● 印刷する用紙サイズで記録画質を選びたい

図を目安に記録画質を選んでください。撮影後にトリミング（画像の切り抜き）をするときは、記録画素数の多いL、L、RAW+L、RAWをおすすめします。

なお、S2は市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。S3は電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

● 、の違いは？

圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、の方がきれいです。を選ぶと画質は少し落ちますが、よりもカードに多く記録できます。なお、S2、S3はともに（ファイン）の画質です。

● 表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた

数値は目安です。撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもあります。

● 連続撮影可能枚数（バースト撮影枚数）は、カメラに表示される？

連続撮影可能枚数は１～９枚のときに撮影可能枚数の右に表示されます（１０枚以上撮影可能なときには表示されません）。

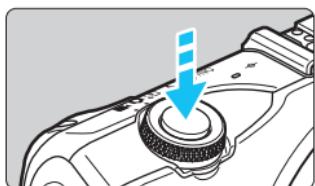
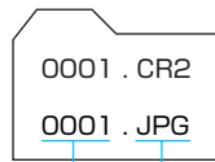
● RAWはどういうときに使うの？

RAWはパソコンで処理が必要な画像です。詳しくは、次ページの『RAWについて』と『RAW+Lについて』をお読みください。

RAWについて（RAW：ロウ、英語で「未加工」の意味です）

RAWは、◢Lなどの画像を作り出す前の生データです。付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル／p.340）などを使わないとパソコンで見ることができませんが、◢Lなどではできないさまざまな画像調整を行うことができます。1枚の作品をじっくり創り上げたいときや、大切な撮影で使うと効果的です。

RAW＋◢Lについて

RAW＋◢Lを選んだときは、1回の撮影でRAWと◢Lの画像をカードに同時に記録します。2つの画像は、同じフォルダに同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で保存されます。◢Lは付属ソフトウェアの入っていないパソコンで見たり、印刷したりできます。

市販のソフトウェアでは、撮影したRAW画像を表示できないことがあります。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

アスペクト比

画像のアスペクト比（横縦比率）を［3：2］［4：3］［16：9］［1：1］から選択できます。［4：3］［16：9］［1：1］のときは、撮影範囲外が黒くマスキングされた状態で液晶モニターに表示されます。

JPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。RAW画像は、常に［3：2］のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、付属ソフトウェアで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成できます。なお、［4：3］［16：9］［1：1］では、再生時にアスペクト比を示した線が表示されますが、この線は撮影画像には記録されません。

記録画質	アスペクト比と記録画素数			
	3：2	4：3	16：9	1：1
L RAW	5184×3456（1800万）	4608×3456（1600万）	5184×2912*（1510万）	3456×3456（1190万）
M	3456×2304（800万）	3072×2304（700万）	3456×1944（670万）	2304×2304（530万）
S1	2592×1728（450万）	2304×1728（400万）	2592×1456*（380万）	1728×1728（300万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×400*（29万）	480×480（23万）

- 「*」印の付いた記録画質は、正確なアスペクト比になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲よりもわずかに広い範囲が表示されます。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

測光タイマー

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変更できます。

かんたん撮影モードや、外部ストロボを取り付けてFEロックしたときには、16秒固定になります。

MENU ISO（イソ）：明るさに応じて感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度は自動設定になります（p.112）。

ISO感度は、①ライブビュー画面上のISO表示、②メニューのカスタム機能で設定した〈▼ 🗑〉ボタン、③メニュー画面、④INFO.クイック設定画面、で設定できます。

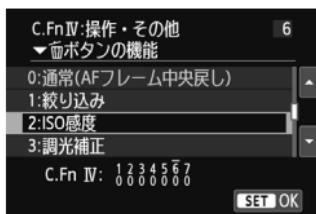
ライブビュー画面上のISO表示から設定する

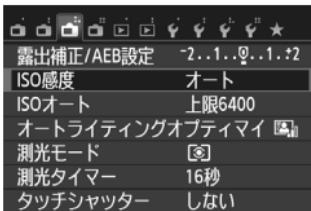
1 ISO感度を選ぶ

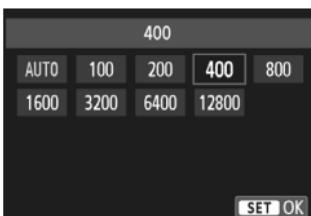
- 液晶モニターの右下にある ISO 表示をタッチします。

2 ISO感度を設定する

- ISO感度表示をタッチして、ISO感度を選び、［⮌］をタッチします。
- ［AUTO］を選ぶと、ISO感度は自動設定になります（p.112）。

メニューのカスタム機能で〈▼ 🗑〉ボタンを［ISO感度］に設定する

C.Fn-6で〈▼ 🗑〉ボタンをISO感度に設定できます（p.287）。

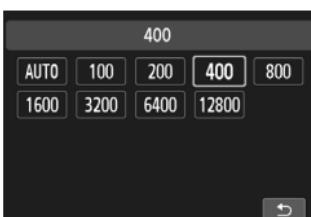
メニュー画面から設定する

1 ［ISO感度］を選ぶ

- ［3］タブの［ISO感度］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ISO感度を設定する

- 〈◄ 〉/〈► 〉ボタンでISO感度を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ［AUTO］を選ぶと、ISO感度は自動設定になります（p.112）。

INFO.クイック設定画面で設定する

1 ISO感度を選ぶ

- INFO.クイック設定画面で、液晶モニターの右上にあるISO表示を選びます。

2 ISO感度を設定する

- ISO感度表示をタッチして、ISO感度を選び、［］をタッチします。
- ［AUTO］を選ぶと、ISO感度は自動設定になります（p.112）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.139）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～12800、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- ［4：カスタム機能（C.Fn）］の［**2：ISO 感度拡張**］を［**1：する**］に設定すると、「**H**」（ISO25600相当）も選択できるようになります（p.284）。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では液晶モニターの映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（液晶モニターの映像と撮影した画像の画質は異なります）。

- ［4：カスタム機能（C.Fn）］の［**3：高輝度側･階調優先**］を［**1：する**］に設定すると、ISO100と「**H**」（ISO25600相当）は選択できなくなります（p.285）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- ISO12800、「**H**」（ISO25600相当）設定時は、撮影可能枚数／連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- 「**H**」（ISO25600 相当）は拡張 ISO 感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- 静止画撮影と動画撮影（マニュアル露出時）では、設定できるISO感度の上限値が異なるため、動画撮影に切り換えたとき、設定していたISO感度が変更されることがあります。そのあと静止画撮影にしても、元のISO感度には戻りません。また、［4：カスタム機能（C.Fn）］の［**2：ISO感度拡張**］の設定によって、設定できるISO感度の上限値が異なります。
  - ［**0：しない**］設定時：静止画でISO12800を設定し、動画撮影に切り換えると、ISO6400に変更されます。
  - ［**1：する**］設定時：静止画でISO12800/H（ISO25600相当）を設定し、動画撮影に切り換えると、「**H**」（ISO12800相当）に変更されます。

ISO感度の自動設定［AUTO］について

ISO感度の設定を［AUTO］にしてシャッターボタンを半押しすると、そのときのISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
A+/CA/ポートレート/風景/クローズアップ/スポーツ/夜景ポートレート/手持ち夜景	ISO100～6400自動設定
HDR逆光補正	ISO100～12800自動設定
P/**Tv**/**Av**/**M***1	ISO100～6400自動設定*2
ストロボ撮影時	ISO400固定*3*4*5

*1：バルブ撮影時は、ISO400固定

*2：上限値の設定による

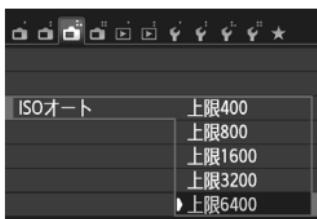
*3：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる（〈**M**〉モードを除く）

*4：A+/夜景ポートレート/HDR逆光補正を除く

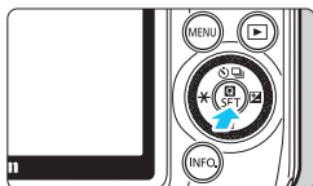
*5：CA/ポートレート/風景/クローズアップ/スポーツ、および〈**P**〉モードで、外部ストロボをバウンスしたときはISO400～1600（または上限値まで）の範囲で自動設定

「**AUTO**」のときのISO感度表示は1段ステップですが、実際はより細かく制御されています。そのため、撮影情報（p.256）でISO感度を確認すると、ISO125や640などと表示されることがあります。

MENU ISO感度［AUTO］時の上限値設定について 応用

ISO感度オート時に自動設定される感度の上限値を、ISO400〜6400の間で設定できます。

［3］タブの［ISOオート］を選び、〈Q/SET〉を押します。ISO感度を選び〈Q/SET〉を押します。

被写体に最適なピクチャースタイルを選ぶ 応用

写真表現や被写体に合わせて選べる、効果的なピクチャースタイルが6種類あり、さらに細かく設定できます。

1 クイック設定を表示させる

➡ Q クイック設定では、効果を確認しながら設定できます。

2 ［A］をタッチする

3 スタイルをタッチして選ぶ

- 詳細設定するときは、〈INFO.〉ボタンを押します。

各スタイルについて

A オート

撮影シーンに応じて、色あいを自動調整します。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

> ［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

168ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整できます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリをおさえた落ち着いた写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリをおさえた落ち着いた写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

RAW 以外の記録画質で撮影した画像は、カラー写真に戻すことができません。［**モノクロ**］に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

ユーザー設定1～3

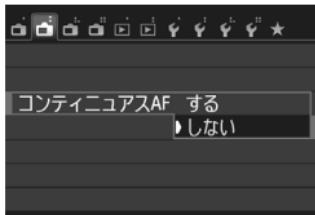
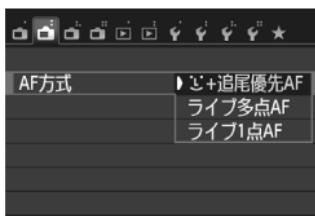
［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整できます（p.170）。登録していないときは、［**オート**］の初期設定と同じ設定になります。

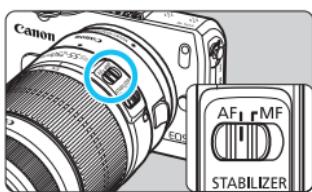
ピント合わせの方式を変える

		シーンインテリジェントオート	かんたん撮影モード、応用撮影モード
フォーカスモード*	メニュー	（AFのみ）	AF、MF、AF+MF
AF方式	メニュー、クイック設定	ᵕ̈＋追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF	
コンティニュアスAF	メニュー	する、しない	

* 「フォーカスモード」はEF-Mレンズを取り付けたときに表示されます。

1 ピント合わせの方式を選ぶ

- ［📷2］タブの［**フォーカスモード**］、［**AF方式**］、［**コンティニュアスAF**］を選びます。
- 設定する項目を選んで、〈Q/SET〉を押します。
- ［**AF方式**］は、クイック設定でも設定できます。

EF-Mレンズ（メニューで操作するレンズ）の場合

EF-M以外のレンズ（スイッチで操作するレンズ）の場合

2 「AF」にする

- ［2］タブの［**フォーカスモード**］を選びます。
- ［AF］を選びます。

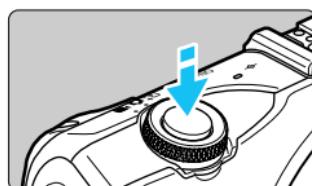
➡ ［**フォーカスモード**］で［AF+MF］を選ぶとAF後にシャッターボタンを半押ししているときに、フォーカスリングで手動ピント合わせ（MF）ができます。

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする。

𝄐（顔）＋追尾優先AF：AF𝄐[ ]

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈[ ]〉も動いて顔を追尾します。

1 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈[ ]〉が顔の部分に表示されます。
- 画面をタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外のときは〈[ ]〉が表示されます。
- 顔が検知されないときや、画面をタッチして顔または被写体を選択しなかったときは、ライブ多点AFの自動選択（p.120）に切り換わります。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります（[**AF動作**]を[**SERVO AF**]に設定しているときは、白色のままです。また、電子音は鳴りません）。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします（p.67）。

- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。[**コンティニュアスAF**] を [**する**] に設定すると、ピントが大きく外れないようにできます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈⸢ ⸣〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

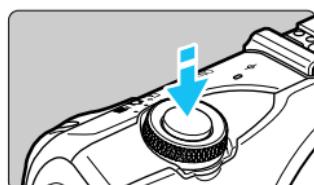
- 〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、画面中央に AF フレーム〈⸢⸣〉が表示され、ドラッグすることでAFフレームを移動できます。再度、〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、検知した被写体にAFフレームが移動します。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、〈⸢ ⸣〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、ライブ多点AFの自動選択でピント合わせが行われます。

ライブ多点AF：AF( )

最大31点の広いエリアでピント合わせができます（自動選択）。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピント合わせ（ゾーン選択）することもできます。

エリア枠

1 AFフレームのゾーンを選ぶ 応用

- 〈▼ 🗑〉ボタンを押すたびに、自動選択とゾーン選択が切り換わります。なお、かんたん撮影ゾーンでは、自動選択に自動設定されます。
- 画面をタッチして、ゾーンを選択します。〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、中央のゾーンに戻ります。
- ゾーン選択時に、画面の［( )⮌］をタッチすると、自動選択に切り換わります。

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります（［**AF動作**］を［**SERVO AF**］に設定しているときは、白色のままです。また、電子音は鳴りません）。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします（p.67）。

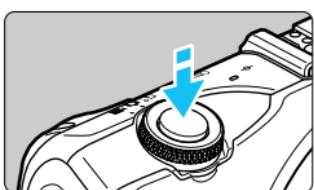
- 自動選択時に、意図したところにピントが合わないときは、ゾーン選択または［**ライブ1点AF**］に変更してピントを合わせなおしてください。
- アスペクト比の設定によって、AFフレーム数は異なります。［**3:2**］のときは31点、［**1:1**］［**4:3**］のときは25点、［**16:9**］のときは21点になります。また、［**16:9**］のときはゾーンが3つになります。
- 動画時は、AFフレームが21点（［**640×480**］設定時は25点）、ゾーンが3つ（［**640×480**］設定時は9つ）になります。

ライブ1点AF：AF□

1点のAFフレームでピント合わせを行いますので、狙った被写体にピントを合わせられます。

AFフレーム

1 AFフレームを動かす

- ピントを合わせたい位置に、画面をタッチして動かします（画面の一番端までは動きません）。〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に移動します。

2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります（［**AF動作**］を［**SERVO AF**］に設定しているときは、白色のままです。また、電子音は鳴りません）。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームはオレンジ色に変わります。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします（p.67）。

[(顔) +追尾優先AF] [ライブ多点AF] [ライブ1点AF] について

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピントを合わせます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- AF中に光源(照明光)が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、撮影する光源下でAFを行ってください。
- [ライブ多点 AF] 設定時は、画面の [ ] をタッチすると、ゾーンの中央部分(自動選択時は画面の中央部分)が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピントを合わせます。
- [ライブ1点AF] 設定時は、画面の [ ] をタッチすると、AFフレームの部分が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピントを合わせます (AF動作でSERVO AFを選んでいるときは、通常表示に戻ってピントを合わせます)。カメラを三脚に取り付けて厳密にピント合わせしたいときに効果的です。なお、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。また、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
- [ライブ多点AF] [ライブ1点AF] 設定時に、通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- [(顔) +追尾優先AF] 設定時は、拡大表示できません。

AF動作でSERVO AFを選んでいるときの連続撮影について

- [(顔) +追尾優先AF]、[ライブ多点AF] 設定時は、シャッターボタンを半押しするとピント合わせが始まると同時にAFフレーム枠が固定されます。
- EF-M レンズ使用時はサーボ AF、EF、EF-S レンズ使用時はフォーカスロックでの撮影になります。

- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体(AFフレームまたはゾーン)を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- ライブ多点AF設定時はAFでピントを合わせるときに、撮影条件によっては被写体にピントが合うまで時間がかかることがあります。
- 拡大表示しているときは、拡大するほど手ブレにより、AFでのピントが合いにくくなります。カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 極端に明るい、または暗い被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合

- 上記の撮影条件でピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。
- 一部のEFレンズ（マウントアダプター EF-EOS Mが必要です）では、ピントが合うまでの時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
  詳細情報については、キヤノンのホームページでご確認ください。

「コンティニュアスAF」を使う

コンティニュアスAF初期設定では［**する**］に設定されています。

常に被写体の近くにピントを合わせるため、シャッターボタンを押したときに素早くピントが合います。なお、［**する**］設定時は、頻繁にレンズが動き、電池が消耗するため撮影可能枚数が少なくなります。

EF、EF-Sレンズを取り付けている場合、コンティニュアスAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉に変更するときは、カメラの電源を一旦切ってから操作してください。

「AF+MFモード」（フルタイムマニュアルフォーカス）を使う

フォーカスモードで［AF+MF］を選びます。

AF後に、シャッターボタンを半押ししたままレンズのフォーカスリングを回すと手動ピント合わせになりますので、狙い通りのピント調整が可能です。

なお、AF動作でサーボAF（p.131）を選んでいる場合や、〈 〉モード（p.81）では、サーボAFが優先するため、［AF+MF］を選んでも手動ピント合わせはできません。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、自動でピント合わせから撮影まで行います。すべての撮影モードで使えます。

1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の［ ］をタッチします。
  タッチするたびに、［ ］と［ ］が交互に切り換わります。
- ［ ］にすると、タッチでピント合わせから撮影まで行います。
  ［ ］にすると、タッチでピントを合わせる位置を選択できます。そのあと、シャッターボタンを押して撮影します。

2 画面をタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体をタッチします。
- ➡ 設定されているAF方式（p.118～121）でタッチした位置でピント合わせが行われます。［**ライブ多点AF**］設定時は、［**ライブ1点AF**］に切り換わります。
- ➡ ピントが合うと、自動的に撮影します。
- ピントが合わないと、撮影しません。再度、画面上の顔や被写体をタッチしてください。

- 〈 〉（連続撮影）に設定していても、1枚撮影になります。
- 拡大表示時は、タッチシャッターは機能しません。
- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**5：シャッターボタン/AEロックボタン**］が［**1：AEロック/AF**］［**3：AE/AF（AEロックなし）**］に設定されていると、ピント合わせが行われずに撮影されます。

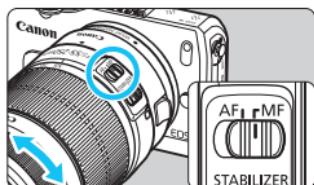
- タッチシャッター機能の設定は、［**3**］タブの［**タッチシャッター：する**］でも設定できます。
- バルブ撮影時は、2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチで露光を終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。
- AF動作でSERVO AFを選んでいても、タッチシャッターではONE SHOT AFになります。

MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせます。

EF-Mレンズ（メニューで操作するレンズ）の場合

EF-M以外のレンズ（スイッチで操作するレンズ）の場合

1 MFにする

- ［2］タブの［**フォーカスモード**］を選びます。
- ［MF］を選びます。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にします。

2 拡大表示枠を表示する

- 画面の［］をタッチします。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。
- 表示された拡大枠をドラッグして拡大表示する部分を大まかに選びます。〈▼ 〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。

3 拡大表示する部分を選ぶ

- 4か所の［▲］をタッチして、拡大表示する部分を選びます。
- 〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、画面中央に戻ります。

4 映像を拡大する

- 画面の［🔍］をタッチするたびに、次のように拡大表示されます。

→ 1倍 → 5倍 → 10倍 → 拡大解除

AEロック
拡大表示位置
拡大率

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピントを合わせ終わったら、画面の［🔍］をタッチして通常表示にします。

6 撮影する

- シャッターボタンを押します（p.67）。

拡大表示しているときは、拡大するほど手ブレにより、ピントが合わせにくくなります。カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。

撮影するときに覚えておいてください

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 長時間連続撮影すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐ電源が自動的に切れることを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示される手前でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください（拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色になります）。なお、拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。
- ［**📷3：オートライティングオプティマイザ**］（p.159）を［**しない**］以外に設定しているときは、暗めに露出補正／ストロボ調光補正をしても明るく撮影されることがあります。
- TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

撮影するときに覚えておいてください

液晶モニターに表示される映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像の明るさが一瞬大きく変化することがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがありますが、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、液晶モニターに表示される映像に色ノイズが発生することがありますが、この色ノイズは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強調されて見えることがあります。

レンズとストロボについて

- 本機では、一部のレンズのフォーカスプリセット機能は使えません。
- カメラ操作によるモデリング発光はできません。

AF：ピント合わせの動作を変える 応用

撮影モードが〈**M**〉、〈**Av**〉、〈**Tv**〉、〈**P**〉では、撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の動作のしかたを選べます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作になります。

---

1 メニューまたはフォーカスモードスイッチでフォーカスを〈AF〉にする

2 クイック設定で［AF動作］をタッチする

3 AF動作をタッチする

4 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピントを合わせます。

ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（p.123）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- 評価測光（p.151）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影できます。

［3：**電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、電子音は鳴りません。

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。また、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まると同時にAFフレーム枠が固定されます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影中の2枚目以降のAF動作は以下になります。
  - ・EF-Mレンズを取り付けている場合：被写体にピントを合わせ続けます。
  - ・EF、EF-Sレンズを取り付けている場合：撮影中はフォーカスロックになります。
- EF、EF-Sレンズを取り付けている場合は、AF方式をライブ1点AFにすることをおすすめします。
- 撮影条件によっては、シャッターが切れるまで時間がかかることがあります。

- 取り付けるレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連写中、液晶モニターではピントが合っていないように見えることがあります。
- 連写中にズームすると、ピントがずれることがあります。ズームで構図を決めてから連写してください。

サーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。

AF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しするとセルフタイマー／AF補助光ランプが光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- カメラを構えるとき、セルフタイマー／AF補助光ランプを隠さないように注意してください（p.48）。
- 〈 〉モードでは、セルフタイマー／AF補助光ランプによるAF補助光は光りません。
- AF動作がサーボAFのときは、AF補助光は光りません。
- 応用撮影ゾーンでは、必要に応じてAF補助光が光ります。
- 動画モードでは、AF補助光は光りません。
- AF補助光では画面の中央部にピントが合いやすくなります。
- 取り付けるレンズによっては、AF補助光がレンズにさえぎられて、AFではピントが合わないことがあります。
- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**4：AF補助光（LED）の投光**］でAF補助光を投光するかどうかを設定できます。
- 外部ストロボ使用時はストロボのAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、AF動作がONE SHOTのときに、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。

⊒ 連続撮影する

1秒間に最高約4.3枚を連続撮影できます（p.134）。

子どもが歩いている様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。

1 〈▲⏲/⊒〉ボタンを押す

- INFO.クイック設定でも設定できます。

2 ［⊒］をタッチする

- ［⮌］をタッチすると、元の画面に戻ります。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影が行われます。

撮影のポイント

- **被写体の動きに応じてAF動作**（p.130）**を組み合わせる**
  - **動いている被写体**
    EF-Mレンズ使用時は、「サーボAF」とAF方式を組み合わせると、動いている被写体にピントを合わせ続けながら連続撮影できます。
    1秒間の連続撮影枚数はレンズによって異なります。
  - **止まっている被写体**
    「ワンショットAF」と組み合わせると、一度合わせたピントの位置を変えずに連続撮影できます。
- 連続撮影するときの1秒間の最高撮影枚数は、AF動作、レンズによって異なります。

AF動作	
ONE SHOT AF	SERVO AF
約4.3枚/秒	約1.7枚/秒：EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM使用時
	約1.2枚/秒：EF-M22mm F2 STM使用時
	約4.3枚/秒：EF、EF-Sレンズ使用時

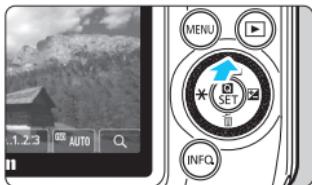
* 連続撮影中の2枚目以降のAF動作は以下になります。
・EF-Mレンズを取り付けている場合：被写体にピントを合わせ続けます。
・EF、EF-Sレンズを取り付けている場合：撮影中はフォーカスロックになります。

- 被写体の明るさが大きく変化するシーンでは、連続撮影速度が低下することがあります。
- レンズによっては連写中の液晶モニターの表示が暗く見える場合があります。
  撮影した画像は適正な露出で記録されます。
- ISO感度を12800以上に設定していると、液晶モニターの明るさ調整範囲は［1］～［4］になります。

- **取り付けたストロボも併用できる（スピードライト90EXを取り付けた場合）**

  ただし、充電に必要な時間分、連続撮影速度が遅くなります。

- 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。
- 連続撮影速度は、レンズの種類やシャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、ストロボの有無により低下することがあります。
- クリエイティブフィルターを使って撮影するときは、〈〉（連続撮影）に設定していても1枚撮影になります。

セルフタイマー撮影

1 〈▲/〉ボタンを押す

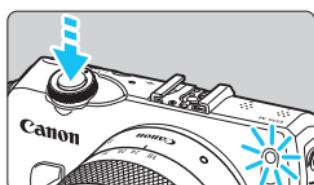
- INFO.クイック設定でも設定できます。

2 セルフタイマーをタッチする

- ［］をタッチすると、元の画面に戻ります。

：**10秒後に撮影**
リモコン撮影も可能（p.291）

2：**2秒後に撮影**

C：**10秒後、設定した枚数を連続撮影**
［▲］／［▼］をタッチして、撮影する枚数（2～10）を設定します。

3 撮影する

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマー／AF補助光ランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。

➡ 撮影2秒前にセルフタイマー／AF補助光ランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

セルフタイマー撮影を中止するときは

〈▲/〉ボタンを押すか、電源を〈OFF〉にします。

（セルフタイマーの設定を解除するときは、〈▲/〉ボタンを押して、［］または［］をタッチします）

- 〈c〉では、記録画質やストロボ撮影などの撮影条件によって、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- クリエイティブフィルターを使って撮影するときは、c（セルフタイマー連続撮影）に設定していても1枚撮影になります。

- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.98）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.71）。

ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを装着してシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈P〉では、被写体が適切な露出になるようにシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。

ここでは、スピードライト90EXと組み合わせたときの使いかたを説明しています。90EX以外のEOS用EXシリーズスピードライトと組み合わせについては、292ページを参照してください。

スピードライト90EXについての詳細は、スピードライト90EX使用説明書を参照してください。

（本機に装着したとき、90EXの発光部はAF補助光を投光しません）

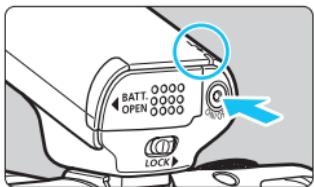
全自動ストロボ撮影

（シーンインテリジェントオート）、（ポートレート）、（クローズアップ）、（夜景ポートレート）では、「カメラまかせの全自動ストロボ撮影（自動発光）」ができます。CA（クリエイティブオート）では、カメラのメニューで自動発光、強制発光、発光禁止を設定できます。*

* 撮影モードによってストロボの発光のしかたが異なります。

撮影モード	発光のしかた
（シーンインテリジェントオート）	自動発光
CA（クリエイティブオート）	自動発光／強制発光／発光禁止*
（ポートレート）	自動発光
（風景）	発光禁止
（クローズアップ）	自動発光
（スポーツ）	発光禁止
（夜景ポートレート）	自動発光
（手持ち夜景）	強制発光
（HDR逆光補正）	発光禁止
P（プログラムAE）	強制発光
Tv	強制発光
Av	強制発光
M	強制発光
動画	発光禁止

* クイック設定で切り換えます。

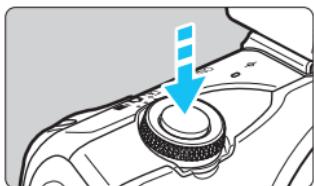
撮影結果が暗いときは、被写体に近づいて再度撮影してください。

1 ストロボを取り付け、ストロボの電源を〈ON〉にする

➡ ストロボの電源ランプが点灯して、充電が始まります。

2 〈ϟ〉ランプの点灯を確認する

- 点灯すると、撮影できます。
- かんたん撮影ゾーン（p.26）では、〈ϟ〉ランプが点灯しないと、シャッターが切れません。

3 シャッターボタンを半押しする

- 液晶モニターの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。

4 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

ストロボ撮影できる距離の目安　[約・m]

ISO感度	EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM		EF-M22mm F2 STM
	18mm（F3.5）	55mm（F5.6）	22mm（F2.0）
100	1～2.6	1～1.6	1～4.5
200	1～3.6	1～2.3	1～6.4
400	1～5.1	1～3.2	1～9.0
800	1～7.3	1～4.5	1.1～12.7
1600	1～10.3	1～6.4	1.6～18.0
3200	1.3～14.5	1～9.1	2.3～25.5
6400	1.8～20.6	1.1～12.9	3.2～36.0
12800	2.6～29.1	1.6～18.2	4.5～50.9

カメラ連動パワーオフ機能

本機に装着しているときは、撮影の操作をしたあと、カメラ本体の電源をOFFにすると、連動して90EXの電源も切れます。

操作によっては、カメラの電源OFFと連動しないことがあります。

撮影のポイント

- **撮影結果が暗いとき**

応用撮影ゾーンの**M**：マニュアル、**Av**：絞り優先AE、**Tv**：シャッター優先AE、**P**：プログラムAEでは被写体に近づいて再度撮影するか、ISO感度を上げてください。ISO感度の数値を大きくすると、ストロボ撮影できる距離を延ばすことができます。

M、**Av**、**Tv**、**P**以外のモードでは被写体に近づいて再度撮影してください。

- **日中シンクロを使う**

逆光の人物を撮影するときは、メニューの［**E-TTL II 調光方式**］で［**評価調光**］を選びます（p.220）。日中シンクロ機能で人物を明るく撮影できます。

- **明るい日中では、ISO感度を下げる（M、Av、Tv、Pモード時）**

液晶モニターの数値が点滅するときは、ISO感度の数値を小さくします。

- **レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れる**

レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認してください。

マウントアダプターEF-EOS Mを使用しているときは、ストロボの光がさえぎられて、写真の下側が暗くなることがあります。

こんな写真が撮りたい、というイメージができたら、イメージに合わせてレンズを交換したり、画質効果などを設定するのも一眼ならではの撮影の楽しさです。
かさばらずに何時でも持ち歩けるミニ三脚もセルフタイマー撮影や手ぶれ防止に、とても便利です。

もっとカメラを使いこなす

この章では、第3章の応用編として、さらにカメラの機能を使って思いどおりの写真を撮るための方法を説明しています。

- 章の前半では、〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉を使った撮影方法を説明しています。
- 3章で説明したすべての機能は、〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用できます。
- 撮影機能の組み合わせについては、296ページを参照してください。
- ページタイトル右に 応用 マークがある機能は、応用撮影ゾーン（p.25）限定です。

電子ダイヤルガイドについて

3..2..1..0..1..2..3

シャッター速度、絞り数値、露出補正などを設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉（電子ダイヤル）を回して設定することを示しています。

Tv：被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。

2 画面をタッチして［Tv］を選ぶ

3 シャッター速度を設定する

- 『撮影のポイント』を参考にしてシャッター速度を決めます。
- シャッター速度を直接タッチすると設定画面が表示されます。［◀］/［▶］をタッチするか、〈◎〉で設定します。
- シャッター速度は、〈◎〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

4 撮影する

撮影のポイント

- **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/4000～1/500秒を目安に設定します。

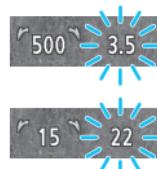
- **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/250～1/30秒に設定し、被写体を追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。

- **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**

　シャッター速度の数値を1/30秒以下に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。

- **絞り数値が点滅しないシャッター速度を設定する**

　シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッター速度を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。

　写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。設定画面を表示させて、［◀］をタッチして（または、〈◎〉を左に回して）シャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

　写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。設定画面を表示させて、［▶］をタッチして（または、〈◎〉を右に回して）シャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

スピードライト90EXを使う

　自動設定された絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるように、ストロボの発光量を自動的に調整します（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒になります。

Av：ピントの合う範囲を変える

　背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、〈**Av**〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）

---

1 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

● 撮影モード選択画面が表示されます。

2 画面をタッチして［Av］を選ぶ

3 絞り数値を設定する

● 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。

● 絞り数値を直接タッチすると設定画面が表示されます。［◀］／［▶］をタッチするか、〈◎〉で設定します。

● 数値は、〈◎〉を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。

30　16　400

4 撮影する

絞り数値の表示
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

撮影のポイント

● 絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する

絞り数値を大きくするほどシャッター速度が遅くなります。また、暗い場所ではシャッター速度が最長30秒になります。ISO感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

● ピントの合う範囲は、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる

広角レンズはピントが前後方向に合う範囲が広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真を撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う範囲が狭くなります。

また、ピントの合う範囲は、被写体との距離が近くなるほど狭くなり、被写体との距離が遠くなるほど広くなります。

● シャッター速度が点滅しない絞り数値を設定する

シャッターボタンを半押しして、シャッター速度が表示されている状態で絞り数値を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、シャッター速度も一緒に変わります。このとき、シャッター速度の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッター速度が点滅します。

写真が暗くなるときは、「**30"**」（30秒）が点滅します。設定画面を表示させて、［◀］をタッチして（または、〈◎〉を左に回して）絞り数値を小さくするか、ISO感度を上げます。

写真が明るくなるときは、「**4000**」（1/4000秒）が点滅します。設定画面を表示させて、［▶］をタッチして（または、〈◎〉を右に回して）絞り数値を大きくするか、ISO感度を下げます。

スピードライト90EXを使う

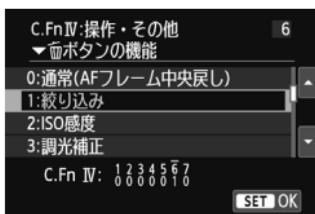
設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量を自動的に調整します（自動調光）。シャッター速度は、その場所の明るさに応じて、1/200秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

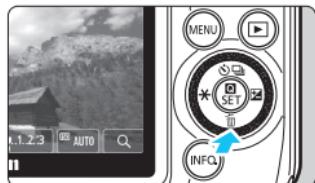
なお、シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、［**1：ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1/200-1/60秒自動**］または［**1/200秒固定**］に設定します（p.221）。

ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、液晶モニターで見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。

次の操作で、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認できます。

1 絞り込みができるように設定する

- ［4：カスタム機能（C.Fn）］の［6：▼ボタンの機能］を［1：絞り込み］に設定します（p.287）。
- カスタム機能の設定方法については、282ページを参照してください。

2 メニューを終了する

3 〈▼ 〉ボタンを押す

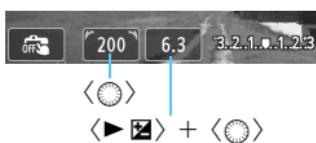
➡ 絞り込まれ、ピントの合う範囲が確認できます。

M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影します。露出は、露出レベル表示を参考にして、設定します。これをマニュアル露出といいます。

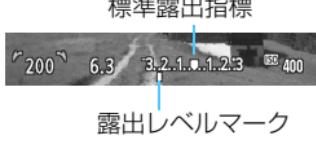
＊〈M〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。

2 画面をタッチして［M］を選ぶ

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度と絞り数値を直接タッチすると設定画面が表示されます。［◀］/［▶］をタッチするか、〈◎〉で設定します。
- シャッター速度と絞り数値は、〈▶☒〉ボタンで、シャッター速度と絞り数値を選んでも設定できます（選ぶと、〈◤◥〉が設定可能な項目に表示されます）。〈◎〉を回して設定します。

標準露出指標

露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているかを確認できます。

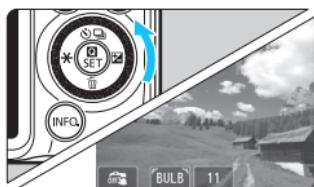
5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、シャッター速度、絞り数値を設定します。
- 液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈-3〉または〈+3〉の位置で〈◀/▶〉が点灯します。

- ［3：オートライティングオプティマイザ］で［マニュアル露出時はOFF］の〈✓〉を外すと、〈M〉モードでも、オートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.159）。
- ISO オート設定時に〈◀✱〉ボタンを押すと、ISO 感度を固定（ロック）できます。
- 〈◀✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈◀✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.24）で確認できます。

スピードライト90EXを使う

設定した絞り数値に対し、主被写体が適切な露出になるようにストロボの発光量を自動的に調整します（自動調光）。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、1/200秒～30秒、バルブになります。

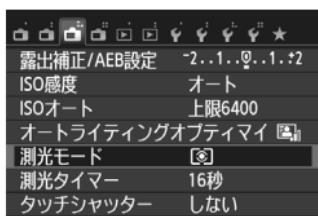
BULB：長時間露光（バルブ）撮影

バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。

148ページの手順3で［◀］をタッチするか、〈◎〉を左に回して［**BULB**］を選び、シャッターボタンを押します。撮影中は液晶モニターに露光経過時間が表示されます。

- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［**4：長秒時露光のノイズ低減**］を［**自動**］または［**する**］に設定すると、長秒露光時に発生するノイズを低減できます（p.161）。

- バルブ撮影を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- リモコン（別売／p.291）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。

MENU 明るさの測り方を変える 応用

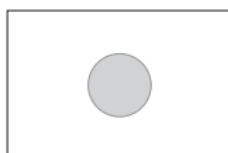
被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選べます。通常は、評価測光をおすすめします。
なお、かんたん撮影ゾーンでは、自動的に評価測光になります。

1 [測光モード] を選ぶ

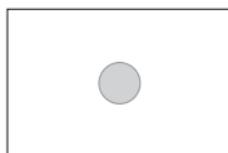
- [3] タブの [測光モード] を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 測光モードを設定する

- 項目を選び〈Q/SET〉を押します。

評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光します。

スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。おおよそ左図の灰色部分が標準露出になるように測光が行われます。上級者向けの測光モードです。

中央部重点平均測光

画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。経験豊富な上級者向けの測光モードです。

ONE SHOT AF設定時、は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。//は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

自分の好みに明るさを調整する 応用

☒ 露出補正を使って撮影する

　ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈M〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。
　露出補正は、ライブビュー画面とINFO.クイック設定画面で調整できます。ライブビュー画面では、効果を確認しながら調整できます。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

ライブビュー画面で調整する

- 露出補正のバー表示をタッチすると、調整画面が表示されます。[+] / [−] をタッチして調整します。

INFO. クイック設定画面で調整する

- INFO. クイック設定画面で露出補正を選びます。[+] / [−] をタッチするか、〈◄ ✱〉/〈► ☒〉ボタンを押して調整します。

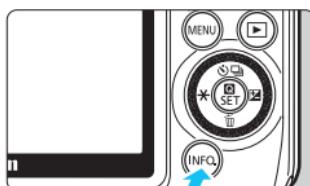
- **撮影結果が暗いとき**
  [+] をタッチする、または〈► ☒〉ボタンを押します。（プラス補正）
- **撮影結果が明るいとき**
  [−] をタッチする、または〈◄ ✱〉ボタンを押します。（マイナス補正）
- **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、露出補正を解除します。**

暗めの露出

明るく（プラス）補正

AEB（p.155）と組み合わせることで、±3段を超えて補正できます。[**▲3：露出補正／AEB設定**] またはINFO.クイック設定で設定します。

ストロボ調光補正を使って撮影する

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

1 INFO.クイック設定画面を表示させる

2 [ ] を選ぶ

- 〈▲ / 〉／〈▼ 〉／〈◀ ✱〉／〈▶ 〉ボタンを押して［ ＊］を選びます。
- ➡ 画面下側に［**調光補正**］と表示されます。

3 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈 〉を右に回します。（プラス補正）
  撮影結果が明るいときは、〈 〉を左に回します。（マイナス補正）
- 〈Q/SET〉を押して、設定画面を表示させて設定することもできます。〈 〉を回すか、［◀］／［▶］をタッチして設定します。
- ➡ ［ ］をタッチすると、〈 〉が表示されます。
- **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、調光補正を解除します。**

［ 3：**オートライティングオプティマイザ**］（p.159）を、［**しない**］以外に設定しているときは、暗めにする露出補正／調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

［ 1：**外部ストロボ制御**］の［**ストロボ機能設定**］で調光補正もできます（p.222）。

明るさを自動的に変えて撮る 応用

露出補正の応用機能で、1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に明るさの異なる3枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）

1 INFO.クイック設定画面を表示させる

AEBレベル

2 露出補正を選ぶ

3 AEBレベルを設定する

- 〈◎〉を回すか［ ］/［ ］をタッチすると、AEBレベルが設定できます。
- AEB と露出補正を組み合わせて撮影できます。[+] / [−] をタッチするか、〈◀✱〉/〈▶☑〉ボタンを押して設定した露出補正後の明るさを中心にAEB撮影します。
- 設定を終了すると、液晶モニターにAEBレベルが表示されます。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

［3］の［**露出補正／AEB設定**］でもAEB設定できます。

AEB撮影の解除

- 手順1～3の操作でAEBレベルの表示を消します。
- 電源〈**OFF**〉、ストロボ充電完了などで、AEB設定が自動解除されます。

撮影のポイント

- **連続撮影と組み合わせる**

　連続撮影〈〉（p.133）に設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に連続撮影して自動停止します。

- **ドライブモードが1枚撮影（□）のときは**

　シャッターボタンを3回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

- **セルフタイマーやリモコン（別売）と併用できる**

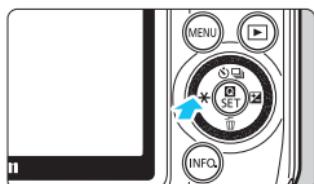
　セルフタイマーやリモコン（〈〉または〈2〉）を使うと、1回の撮影操作で、10秒後または2秒後に3枚連続撮影します。なお、〈C〉（p.136）に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数で連続撮影します。

- ストロボ、マルチショットノイズ低減機能、撮影時のクリエイティブフィルター使用時、およびバルブ撮影時は、AEB撮影できません。
- ［3：**オートライティングオプティマイザ**］（p.159）を［**しない**］以外に設定していると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

✱ 明るさを固定して撮る（AEロック） 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈◀✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈◀✱〉ボタンを押す （⏱16）

- ➡ 〈✱〉が表示され、露出を固定（AEロック）します。
- 〈◀✱〉ボタンをもう一度押すとAEロックは解除されます。

3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈◀✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

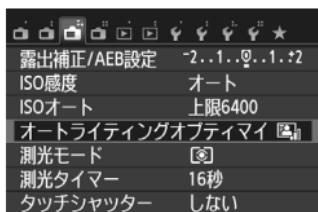
AEロックの効果

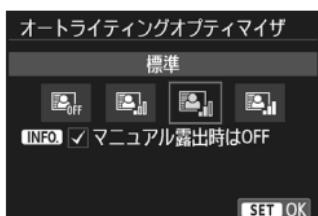
測光モード （p.151）	AFフレーム選択（p.118～121）	
	自動選択	任意選択
*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* マニュアルフォーカスで撮影するときは、中央の AF フレームを中心にした露出値でAEロックされます。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗い場合や、コントラストが低い場合に、明るさ・コントラストを自動的に補正できます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、［**標準**］に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正します。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で補正します。

かんたん撮影ゾーンでは、［**標準**］になります。

1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

- ［3］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈Q/SET〉を押します。

3 撮影する

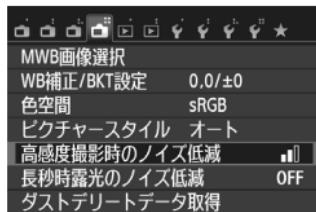
- 必要に応じて、明るさ・コントラストを補正した画像を記録します。

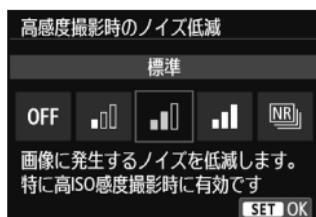
- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：高輝度側・階調優先**］を［**1：する**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- ［**しない**］以外の設定では、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めにする設定を行っても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。

手順2で〈INFO.〉ボタンを押して［**マニュアル露出時はOFF**］の〈✓〉を外すと、〈**M**〉モードでも、オートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能を設定する 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減できます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減できます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

- ［4］タブの［高感度撮影時のノイズ低減］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

- ［マルチショットノイズ低減機能］
  ［強め］より、高画質なノイズ低減処理を行います。１回の撮影で４枚連続撮影し、自動的に画像合成を行い、１枚のJPEG画質を記録します。

3 撮影する

- ノイズ低減処理した画像を記録します。

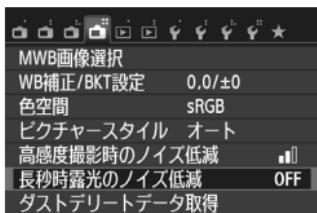
［強め］［マルチショットノイズ低減機能］設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。

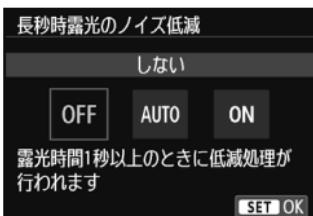
［マルチショットノイズ低減機能］設定時について

- AEB、WBブラケティング、［**4：長秒時露光のノイズ低減**］、RAW＋◢L／RAWは設定できません。また、これらがすでに設定されているときは［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。
- バルブ撮影時は、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- 電源を切ったり、撮影モードを、かんたん撮影ゾーンまたは動画やバルブ撮影に変更すると、設定が［**標準**］になります。
- 撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- 手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいときや、動いている被写体を撮影したときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は「**BUSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ［**4：ダストデリートデータ 取得**］は設定できません。
- ［**マルチショットノイズ低減機能**］が設定されていると、ダイレクトプリントできません。［**マルチショットノイズ低減機能**］以外に設定してから、ダイレクトプリントしてください。

RAW＋◢LとRAW画像をカメラで再生、またはダイレクトプリントすると、高感度撮影時のノイズ低減効果が小さくなる場合があります。ノイズ低減効果の確認とノイズ低減画像の印刷は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で行ってください。

長秒時露光のノイズ低減

長秒撮影を行うときに、ノイズを低減できます。

1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

- ［4］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈Q／SET〉を押します。

2 低減内容を設定する

- 内容を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 設定が終了し、メニューに戻ります。

- **[自動]**

　露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理します。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

- **[する]**

　露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理します。[**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

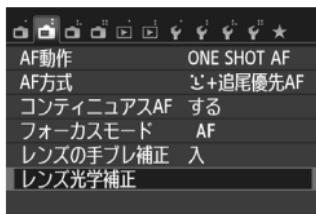
3 撮影する

- ノイズ低減処理した画像を記録します。

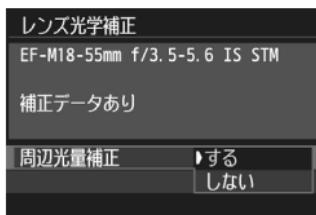
- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**自動**］［**する**］設定時に、長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、次の撮影はできません。

MENU レンズの周辺光量／色収差を補正する

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」といいますが、これらの現象を補正できます。RAW画像は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で補正します。

周辺光量補正

1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［2］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

レンズ光学補正
EF-M18-55mm f/3.5-5.6 IS STM
補正データあり
周辺光量補正 ▸する
しない

2 補正内容を設定する

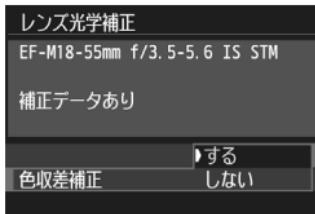
- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**周辺光量補正**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、165ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

3 撮影する

- 周辺光量を補正した画像を記録します。

撮影条件により、画像周辺部にノイズが発生することがあります。

- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりもやや控えめな補正になります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

色収差補正

1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**色収差補正**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ［**する**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ［**補正データなし**］が表示されているときは、次ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

2 撮影する

- 色収差を補正した画像を記録します。

- ［**する**］設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。
- 色収差補正を行って撮影したRAW画像を再生すると、補正されていない状態で表示されます。色収差補正の確認は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で行ってください。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正を行うためのデータがレンズ約25本分登録されています。補正［**する**］を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量、色収差を補正します。

付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）のEOS Utility使用説明書を参照してください。

* EF-Mレンズは登録する必要ありません。

周辺光量補正、色収差補正の共通事項

- 補正［**しない**］に設定して撮影したJPEG画像は、後から補正できません。
- 他社製のレンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- 撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正の効果は映像に反映されません。

- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダー装着時も補正します。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。

Q ピクチャースタイルを自分の好みに調整する 応用

　ピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（［**シャープネス**］［**コントラスト**］など）を変更（調整）できます。効果については、試し撮りをして確認してください。［**モノクロ**］の調整については、169ページを参照してください。

169ページを参照

1 クイック設定画面を表示させる

2 ［A］をタッチする

3 スタイルをタッチして選ぶ

- スタイルを選んだら、〈INFO.〉ボタンを押します。

➡ 詳細設定画面になります。

4 項目を選ぶ

- 設定する項目をタッチします。

5 内容を設定する

- ［◀］/［▶］をタッチして効果のレベルを設定し、［⮌］をタッチします。

- 手順5で［INFO. 初期設定］を選ぶと、スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、114ページの手順3で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

設定内容とその効果

シャープネス

被写体のシャープネスのレベルを調整できます。

初期設定よりも被写体のシャープネスを弱くしたいときは、0側にします。0に近づけるほど柔らかい（ぼやけた）感じの写真になります。

逆に被写体のシャープネスを強くしたいときは、7側にします。7に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分のコントラストや、色のメリハリの強さを調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側にします。－に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側にします。＋に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

色の濃さ

写真全体の色の濃さを調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側にします。－に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側にします。＋に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

色あい

肌の色あいを調整できます。

初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側にします。－に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

逆に肌の色あいを黄色っぽくしたいときは、プラス側にします。＋に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

モノクロの調整

前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定できます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にできます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然になり、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

 ［**コントラスト**］をプラス側にして撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

調色を設定して撮影すると、色の付いたモノクロ写真にできます。より印象的な写真を撮影したいときに効果的です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選べます。

Q ≈ 好みのピクチャースタイルを登録する 応用

［ポートレート］や［風景］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［ユーザー設定1］から［ユーザー設定3］に登録できます。

シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておけます。

また、付属ソフトウェアのEOS Utility（p.340）を使ってカメラに登録したスタイルもこの操作で調整できます。

1 クイック設定画面を表示させる

2 ［≈A］をタッチする

3 ユーザー設定をタッチして選ぶ

- ［ユーザー設定＊］を選んだら、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルをタッチして選びます。
- 付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- 設定する項目をタッチします。

6 内容を設定する

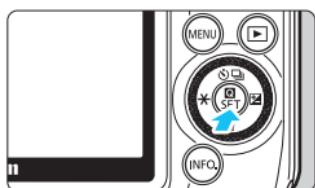
- ［◄］/［►］をタッチして効果のレベルを設定し、［⮌］をタッチします。
詳しくは、『ピクチャースタイルを自分の好みに調整する』（p.166～169）を参照してください。

➡［**ユーザー設定＊**］の下に、基本にしたスタイルが表示されます。

- ［**ユーザー設定＊**］に登録しているスタイルの基本設定を手順4で変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.216）を行うと、［**ユーザー設定＊**］に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、114ページの手順3で、［**ユーザー設定＊**］を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書（p.340）を参照してください。

Q WB：明かりにあわせて撮影する 応用

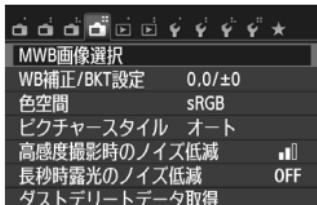
白いものが白く写るように、色あいを補正する機能を、ホワイトバランス（WB）といいます。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスになります。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、明かりの種類にあわせてホワイトバランスを選択したり、白い紙などの被写体を撮影して手動で設定します。

1 クイック設定画面を表示させる

2 ホワイトバランスをタッチして選ぶ

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で操作してください。

1 白い被写体を撮影する

- 液晶モニター全体に、紙などの白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［4］タブの［MWB画像選択］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面になります。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。
- メニュー画面に戻ったら、〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

4 〈Q/SET〉を押す

- ➡ クイック設定画面にします。

5 マニュアルWBを選ぶ

- ［］を選び〈Q/SET〉を押します。

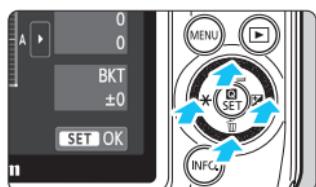
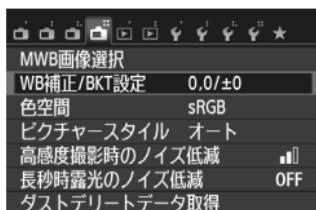
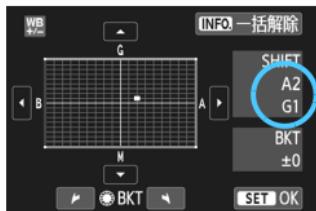
- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定できないことがあります。
- ピクチャースタイルを［モノクロ］に設定して撮影した画像（p.115）とクリエイティブフィルター処理した画像は、手順3で選択できません。

白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスを設定できます。

MENU WB+/- 明かりに対する色あいを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正できます。この機能は市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果です。補正幅は各色9段です。

色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正

1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［4］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ WB補正/WBブラケティング設定画面になります。

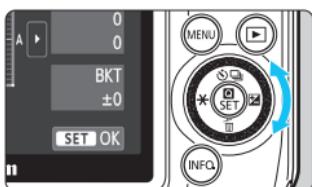
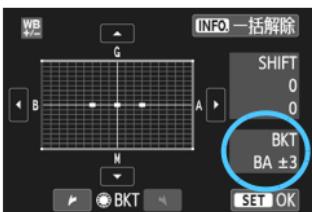
2 ホワイトバランスを補正する

- 〈▲ / 〉／〈▼ 〉／〈◀ 〉／〈▶ 〉ボタンを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正します。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定を一括解除します。
- 〈Q/SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

設定例：A2, G1

ブルー／アンバー方向の１段は、色温度変換フィルターの約５ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録できます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像を記録します。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除します。
- 〈Q/SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像を記録します。

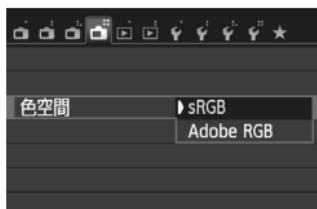
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像を記録します。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 色の再現範囲を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選べます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンでは、sRGBになります。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［4］タブの［色空間］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈Q/SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に業務用途（印刷機での印刷など）で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

一眼カメラでは、ビデオカメラと一味違った
動画を撮影できます。
光の入れ方を工夫したり、広角で撮影したり、
一眼ならではの動画の世界があります。

動画を撮影する

モードダイヤルを〈'■〉にすると、動画を撮影できます。なお、記録形式はMOV形式です。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS⑥」以上のカードを使用してください。

書き込みが遅いカードに動画を記録すると、正常に記録できないことがあります。また、読み取り速度が遅いカードに記録した動画を再生すると、正常に再生できないことがあります。

なお、カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

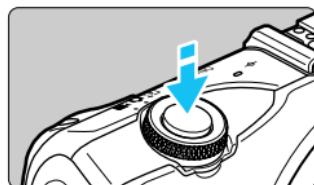
動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします（p.247、251）。

自動露出で撮影する

動画の撮影モードで［動画］を選ぶと、自動露出になり、明るさを自動調整します。

1 モードダイヤルを〈動画〉にする

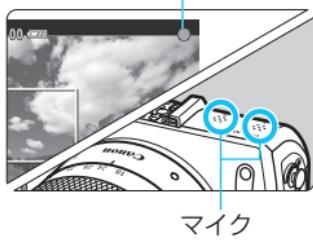
2 撮影モードで［動画］（動画自動露出）を選ぶ

3 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AF または手動でピントを合わせておきます（p.116〜126）。
- 初期設定では、［**動画サーボAF：する**］（p.199）になっていますので、常時ピントを合わせています。
- ［**動画サーボ AF**］が［**する**］になっていると、画面左下の［SERVO AF］をタッチすると、ピント合わせを停止／開始できます。停止すると、AFフレーム枠がグレーに変わります。

動画撮影中

マイク

4 動画を撮影する

- 〈●〉（動画スタート／ストップ）ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈●〉（動画スタート／ストップ）ボタンを押すと動画撮影が終わります。
- ➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

- 動画撮影中はマイクを指でふさがないでください。

一部のレンズでは、AFでピントが合わないことがあります。その場合は、手動でピントを合わせてください（p.126）。

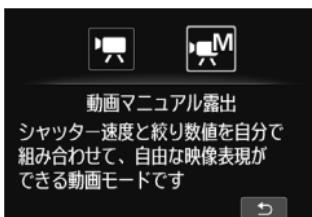
- ［**動画AFサーボ：しない**］設定のときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせます。
- ISO感度（100～6400）とシャッター速度、絞り数値は自動設定されます。
- 〈◀✱〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）できます（p.157）。〈◀✱〉ボタンをもう一度押すとAEロックは解除できます。
  また、動画モードでは、［✱］をタッチすることでAEロック/解除もできます。
- 〈▶ ⊠〉ボタンを押すと［⁻3..2..1..0..1..2.⁺3］が設定可能な項目になり、〈◎〉で露出補正できます。
- シャッターボタン半押しで画面下に表示される、シャッター速度、絞り数値、ISO感度は、静止画撮影用の露出値です（p.182）。動画撮影の露出値は表示されません。なお、動画の撮影露出と、静止画の撮影露出は異なることがあります。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）を使う

このカメラは、自動露出で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。**詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。**

マニュアル露出で撮影する

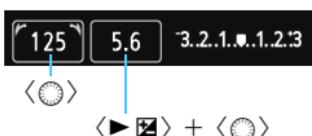
撮影モードが［M］（動画マニュアル露出）のときは、シャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影できます。なお、動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 モードダイヤルを〈 〉にする

2 撮影モードで［M］（動画マニュアル露出）を選ぶ

〈 〉

〈► 〉＋〈 〉

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度と絞り数値を直接タッチすると設定画面が表示されます。［◄］/［►］をタッチするか、〈 〉で設定します。
- シャッター速度と絞り数値は、〈► 〉ボタンで、シャッター速度と絞り数値を選んでも設定できます（選ぶと、〈 〉が設定可能な項目に表示されます）。〈 〉を回して設定します。設定できるシャッター速度は、フレームレート〈 〉により異なります。
  - ・60、50　　：1/4000～1/60秒
  - ・30、25、24：1/4000～1/30秒

4 ISO感度を設定する

- ISO感度は、静止画と同じく、①メニュー画面、②撮影画面、③INFO.クイック設定、④メニューのカスタム機能で設定した〈▼ 〉ボタン、で設定できます（p.287）。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出で撮影する』の手順3、4と同じです（p.178）。

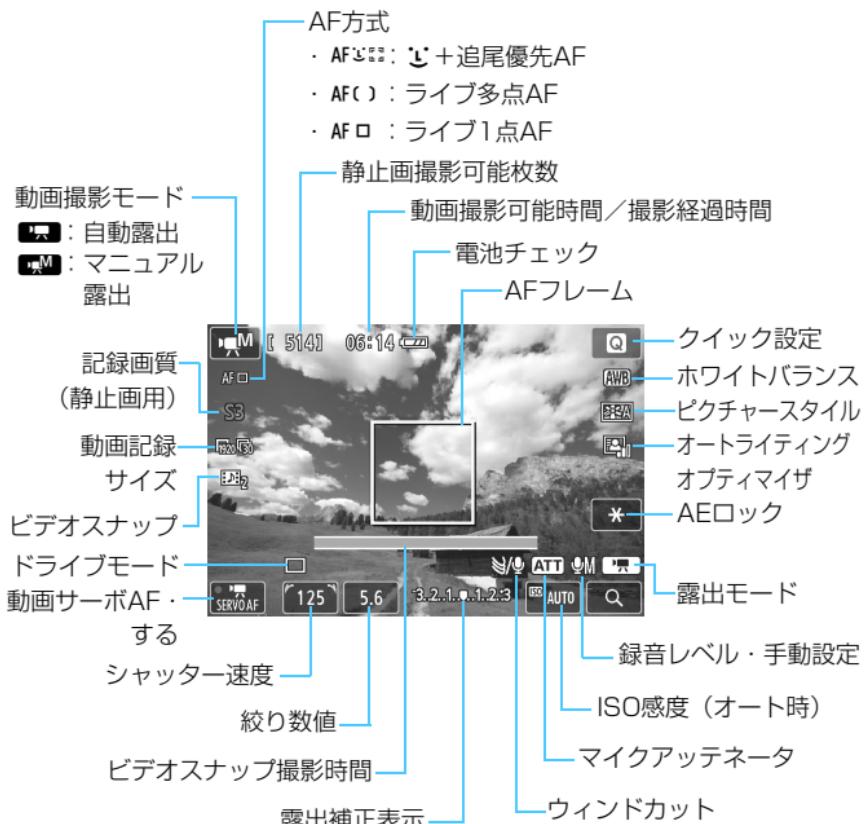
マニュアル露出撮影時のISO感度について

- ［**Auto**］のときは、ISO100～6400の範囲で自動設定されます。
- 手動設定のときは、ISO100～6400の範囲で、1段ステップで設定できます。［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**2：ISO感度拡張**］を［**1：する**］に設定すると、手動設定範囲の上限が拡張されH（ISO12800相当）も選択できるようになります。
- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：高輝度側・階調優先**］を［**1：する**］に設定したときは、ISO感度がISO200～6400になります。

- 動画撮影時のISO12800は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。
- 動画と静止画では、ISO感度の手動設定範囲の上限が異なっています。そのため、［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**2：ISO感度拡張**］が［**1：する**］に設定されている状態で、静止画撮影で上限感度：H(25600）に設定していて、動画撮影に切り換えたときは、上限が動画撮影での上限感度H（ISO12800相当）になります。そのあと、静止画撮影にしても、もとのISO感度：H（25600）には戻りません。
- 露出補正はできません。
- 動画撮影中に、シャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出が変わる瞬間が映像で記録されるため、おすすめできません。
- 蛍光灯やLED 電球などの光源下で動画撮影しているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に〈◀✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）できます。
- 〈◀✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈◀✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.24）で確認できます。
- ［**1：撮影時ヒストグラム**］を［**切**］以外に設定しているときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示できます。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。

動画撮影時の画面

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

* Eye-Fiカード装着時は、Eye-Fi通信状態（p.294）が表示されます。

「動画撮影可能時間」は撮影が始まると、「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影中は

- 〈AWB〉で動画撮影中に、ISO 感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にレンズのズーム操作を行うことはおすすめできません。ズーム操作により開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、露出変化が記録されることがあります。
- **動画撮影全般に関する注意事項は、201、202ページにまとめて記載しています。**

- メニューの［1］タブで、動画撮影に関して設定できます（p.197）。
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、約100％（動画記録サイズ1920時）です。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイク（p.178）でステレオ録音されます。
- 外部マイクは、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオマイクであれば、ほとんどが使用できます。外部マイク入力端子（p.22）に外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。
- リモートコントローラー RC-6（別売／p.291）を使用すると、ドライブモードが〈〉のときに、動画撮影を開始／停止できます。撮影タイミングスイッチを〈**2**〉（2秒後撮影）の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、静止画撮影になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E12で動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間30分、低温（0℃）：合計約1時間20分です。
- スピードライト 90EX を取り付けているときは、スピードライトの電源を〈**OFF**〉にしてください。

ファイナルイメージシミュレーションについて

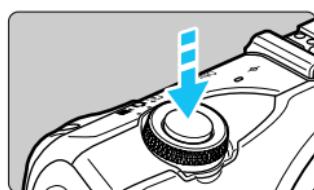
ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス、コントラスト、色の濃さ、色あいなどの全設定が反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 高輝度側・階調優先

ファイナルイメージシミュレーションでは、効果を映像で確認できますが、液晶モニターに表示される色は撮影される画像と完全には一致しません。

動画撮影中に静止画を撮影する

シャッターボタンを全押しすると、動画撮影中でも静止画を撮影できます。

動画時の静止画撮影について

- 動画撮影中に静止画撮影を行うと、動画の中に静止状態の映像が約 1 秒間記録されます。
- 静止画がカードに記録され、動画表示に戻ると自動的に動画撮影を再開します。

- カードには、動画ファイルと静止画ファイルが別々に記録されます。
- 静止画撮影特有の機能は下記のようになります。その他の機能は動画撮影と同じです。

機能	設定内容
記録画質	[**1：記録画質**] 設定のとおり 動画記録サイズ [1920×1080] [1280×720] 設定時16：9、[640×480] 設定時は4：3のアスペクト比で撮影
ISO感度*	・自動露出撮影時：ISO100～6400自動設定 ・マニュアル露出撮影時：181ページ『マニュアル露出撮影時のISO感度について』参照
露出値	・自動露出撮影時：自動設定されたシャッター速度、絞り数値（シャッターボタン半押しで表示） ・マニュアル露出撮影時：手動設定したシャッター速度、絞り数値
AEB	解除

* 高輝度側・階調優先設定時は、ISO200～となる

動画撮影中の静止画撮影のフォーカスについては200ページを参照してください。

動画撮影開始前の静止画連続撮影について

動画撮影開始前は、静止画撮影モードのONE SHOT AF同様に連続撮影できます。

ビデオスナップ記録中は静止画撮影できません。

- セルフタイマーは動画撮影開始前に有効です。動画撮影中は1枚撮影に切り換わります。
- 動画撮影中の静止画撮影では、ドライブモードを連続撮影（/c）に設定していても1枚撮影になります。
- 動画モードでは、AF動作はONE SHOT AFのみとなります。

撮影機能の設定

　動画撮影の機能設定について説明します。

Qクイック設定

　AF方式／記録画質（静止画）／動画記録サイズ／ビデオスナップ／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザを設定できます。

　操作のしかたは静止画と同じです（p.50）。

MENU 動画記録サイズの設定

［1：**動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ［****x****］と、フレームレート［**］（1秒間に何コマ記録するか）を設定できます。なお、**（フレームレート）は、［2：**ビデオ出力方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

1920 ［1920×1080］：フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

1280 ［1280×720］：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

640 ［640×480］：標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

30/60：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25/50：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

24：映画と同じように映像を24コマ/秒で撮影して記録します。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録サイズ		総記録時間（約）			ファイルサイズ（約）
		4GBカード	8GBカード	16GBカード	
[1920×1080]	30 / 25 / 24	11分	22分	44分	330MB/分
[1280×720]	60 / 50	11分	22分	44分	330MB/分
[640×480]	30 / 25	46分	1時間32分	3時間4分	82.5MB/分

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けられます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間が点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

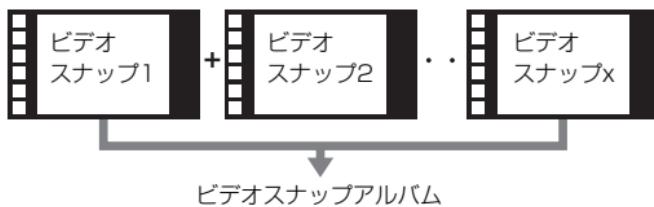
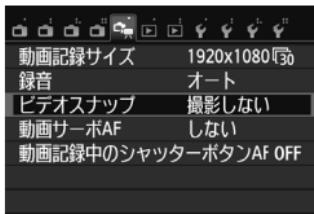
1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈●〉（動画スタート／ストップ）ボタンを押すと、動画撮影を再開できます（新規ファイルとして記録されます）。

カメラ内部の温度上昇により、上記の表で示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.201）。

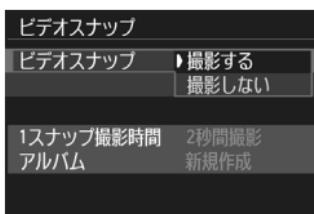
MENU ビデオスナップを撮る

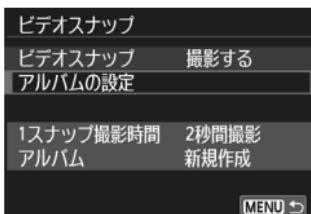
ビデオスナップで、ショートムービーを簡単に作ることができます。

1回に撮影する短い動画（1シーン：約2/4/8秒）を「ビデオスナップ」（以下、スナップ）と言います。このスナップを集めたものがビデオスナップアルバム（以下、アルバム）で、1つの動画ファイルとしてカードに記録されます。撮影ごとに、シーンやアングルを変えると、テンポの良い映像になります。

できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（p.194、240）。

1スナップの撮影時間を決める

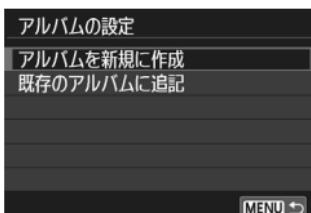
1 [ビデオスナップ] を選ぶ

- [1] タブの [**ビデオスナップ**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 [撮影する] を選ぶ

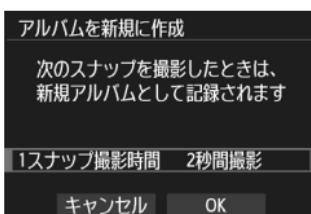
- [**撮影する**] を選び〈Q/SET〉を押します。

3 ［アルバムの設定］を選ぶ

- ［アルバムの設定］を選び〈Q/SET〉を押します。
- 既存のアルバムに続けて撮影するときは、『既存のアルバムに追記』に進みます（p.193）。

4 ［アルバムを新規に作成］を選ぶ

- ［アルバムを新規に作成］を選び〈Q/SET〉を押します。

アルバムを新規に作成
次のスナップを撮影したときは、
新規アルバムとして記録されます
1スナップ撮影時間　2秒間撮影
キャンセル　OK

5 1スナップの撮影時間を選ぶ

- 〈Q/SET〉を押して、〈▲ ⏲/⧉〉/〈▼ 🗑〉ボタンで1スナップの撮影時間を選び、〈Q/SET〉を押します。

撮影時間

6 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈Q/SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、動画撮影画面に戻ります。このとき、撮影時間を示す青いバーが表示されます。
- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます（p.191）。

スナップを撮影してアルバムを作る

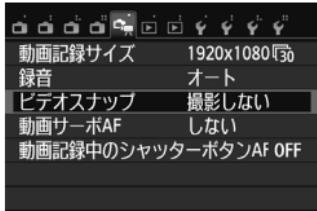
7 最初のスナップを撮影する

- 〈●〉（動画スタート／ストップ）ボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➡ 液晶モニターが消灯して電源／アクセスランプが点滅した後、確認画面が表示されます（p.192）。

8 アルバムとして保存する

- 〈▶〉ボタンで［**アルバムとして保存**］を選び、〈/SET〉を押します。
- ➡ アルバムの先頭スナップとして保存されます。

9 続けてスナップを撮影する

- 手順7と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- 〈▶〉ボタンで［**アルバムに追加する**］を選び、〈/SET〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、［**新しいアルバムとして保存**］を選び、［OK］を選びます。

10 ビデオスナップ撮影を終了する

- ［**ビデオスナップ**］を［**撮影しない**］に設定します。**通常の動画を撮影するときは、［撮影しない］に設定してください。**
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影画面に戻ります。

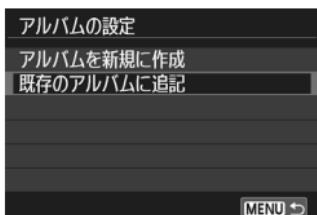
手順8、手順9の画面について

項目	内容
アルバムとして保存（手順8）	アルバムの最初のスナップとして保存されます。
アルバムに追加する（手順9）	いま記録したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順9）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存されます。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順8、手順9）	いま記録したスナップを再生します。再生操作の内容は、下記の表を参照してください。
アルバムとして保存しない（手順8） **アルバムに追加しないで消去**（手順9）	いま記録したスナップをアルバムに保存しないで消去するときは、［OK］を選びます。

［撮影したスナップを再生する］の再生操作

項目	再生内容
▶ **再生**	〈Q/SET〉を押すたびに、いま記録したスナップの再生／停止を繰り返します。
⏮ **先頭フレーム**	アルバムの最初のスナップの先頭画面を表示します。
⏮ **前スキップ***	〈Q/SET〉を押すたびに、数秒前の画面に戻します。
◀II **フレーム戻し**	〈Q/SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈Q/SET〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ **フレーム送り**	〈Q/SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈Q/SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ **次スキップ***	〈Q/SET〉を押すたびに、数秒後の画面に送ります。
⏭ **最終フレーム**	アルバムの最後のスナップの最終画面を表示します。
▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、SS”：秒）
音量	〈◎〉を回すと、内蔵スピーカー（p.239）の音量を調整できます。
MENU ⮌	前の画面に戻ります。

* ［**前スキップ/次スキップ**］は、撮影時に設定した［**ビデオスナップ**］の時間（約2/4/8秒間撮影）分、画面を戻したり、送ったりします。

既存のアルバムに追記

1 [既存のアルバムに追記] を選ぶ

- 190ページの手順4で [**既存のアルバムに追記**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈◄✱〉/〈►☒〉ボタンを押して既存のアルバムを選び、〈Q/SET〉を押します。
- メッセージを確認して [OK] を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了すると、動画撮影画面に戻ります。

3 スナップを撮影する

- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます（p.191）。

他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影について

- 1つのアルバムには、同じ撮影時間（約2/4/8秒のいずれか）のスナップしか追加できません。
- スナップ撮影の途中で、以下の操作を行うと、次に撮影するスナップから新規のアルバムになりますので、ご注意ください。
  - ・［**動画記録サイズ**］の変更（p.187）
  - ・［**録音**］の設定を、［**オート/マニュアル**］から［**しない**］、または［**しない**］から［**オート/マニュアル**］に変更（p.197）
  - ・ファームウェアの変更
- スナップ撮影中に静止画は撮影できません。
- 1スナップの撮影時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ずれが生じる場合があります。

アルバムを再生する

できあがったアルバムの再生方法は、通常の動画再生と同じです（p.239）。

1 動画を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 アルバムを選ぶ

- 〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンを押してアルバムを選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に［▲ 🎞］が表示されている画像がスナップ撮影した動画です。

3 再生する

- 画面中央の［▶］（再生）をタッチするか、［▲ 🎞］をタッチして表示された動画再生パネルの［▶］（再生）をタッチします。

アルバムを編集する

撮影後に、アルバム内のスナップの順序の入れ替えや、削除、再生ができます。

1 再生パネルの［✂］（編集）を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 編集内容を選ぶ

● 編集項目をタッチするか、〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンで編集項目を選び〈Q/SET〉を押します。

項目	内容
⇄ スナップ移動	移動したいスナップをタッチするか、〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンで移動したいスナップを選び、〈Q/SET〉を押します。〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンで移動先に移動します。
🗑 スナップ削除	削除したいスナップをタッチするか、〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンで削除したいスナップを選び、〈Q/SET〉を押します。選択したスナップに、［🗑］が表示されます。もう一度〈Q/SET〉を押すと、選択が解除され［🗑］が消えます。
▶ スナップ再生	再生したいスナップをタッチするか、〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンで再生したいスナップを選び、〈Q/SET〉を押します。

3 保存する

- 〈MENU〉ボタンを押して、画面下の編集パネルに戻ります。
- ［保存アイコン］（保存）をタッチするか、〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンで［保存アイコン］（保存）を選んで〈Q/SET〉を押します。

➡ 保存画面が表示されます。

- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈Q/SET〉を押します。

BGMについて

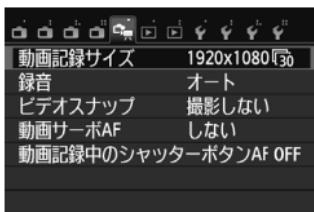
- メモリーカードに取り込んだ音楽は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。十分ご注意ください。
- カメラでアルバムや通常の動画を再生するときや、スライドショーで再生するときに、BGMと一緒に再生できます（p.240、243）。あらかじめ付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って、BGMをカードにコピーしておく必要があります。カードへのコピー方法は、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

アルバムに関連する付属ソフトウェアの紹介

- **EOS Video Snapshot Task**：アルバムの編集ができます。ImageBrowserEXの追加機能で、インターネットを利用したオートアップデート機能で自動取得されます。

MENU 動画メニュー機能の設定

モードダイヤルを〈'🎥〉にすると、動画撮影特有の項目がメニューの［🎥1］タブに表示されます。各項目の内容は、下記のとおりです。

［🎥1］メニュー

● 動画記録サイズ

画像サイズ、フレームレートを設定できます。詳しくは、187〜188ページを参照してください。

● 録音

レベルメーター

通常は内蔵マイクでステレオ録音されます。外部マイク入力端子（p.22）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のマイクを接続すると、外部マイクが優先されます。

［**録音/録音レベル**］の項目

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が働きます。

［**マニュアル**］：上級者向けの機能です。録音レベルを手動で調整できます。
［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◀ ✱〉/〈▶ ⊠〉ボタンを押して調整します。一番大きい音量が約3秒間表示されますので、レベルメーターの「12」の右側が時々点灯するようにします。「0」近くが点灯するときは音がひずむことがあります。

［**しない**］　：録音しません。

［**ウィンドカット**］

［**入**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減できます。内蔵マイク使用時のみ機能します。

ただし、［**入**］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［**切**］に設定することをおすすめします。［**入**］のときよりも自然な音で録音されます。

［**アッテネーター**］

［**録音**］を［**オート**］または［**マニュアル**］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［**入**］に設定することをおすすめします。

- L/R（左/右）の音量バランスは調整できません。
- L/Rともに、サンプリング周波数48KHz／量子化ビット数16bitで記録されます。

ビデオスナップ

ビデオスナップを撮影できます。機能の詳細は、189ページを参照してください。

動画サーボAF

初期設定では［**する**］に設定されています。なお、設定に関係なく、シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。

- **［する］設定時**
  - 動いているものにピントを合わせ続けながら動画撮影できます。なお、レンズの作動音などが録音される場合があります。市販の外部マイクを使用することで、低減できます。EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM/EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMとの組み合わせでは、動画撮影時のフォーカス音が録音されにくくなっています。
  - マウントアダプター EF-EOS Mを使っていて、動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉に変更する場合は、カメラの電源を一旦切ってから操作してください。
  - ［**動画記録中のシャッターボタン AF：しない**］に設定しているときは、動画撮影中にシャッターボタンを半押ししても、ピントの合わせなおしは行われません。
  - 動画サーボAFを行うと電池が消耗するため、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
  - 拡大表示をすると、動画サーボAFは中断されます。
  - 動画撮影開始前または動画撮影中に、狙った位置でピントを止めたいときやレンズの作動音などが録音されるのが気になるときは、動画サーボAFを一時的に停止できます。以下のいずれかの操作を行ってください。動画サーボAFを停止すると、AFフレームがグレーに変わります。再度、同じ操作を行うと、動画サーボAFは開始します。
    - 画面左下の［SERVO AF］をタッチする
    - ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**5：シャッターボタン/AEロックボタン**］が［**2：AF/AFロック（AEロックなし）**］に設定されているときは、〈◄✱〉ボタンを押している間、動画サーボAFが停止します。〈◄✱〉ボタンを離すと、動画サーボAFは開始されます。
  - 動画サーボAFの停止中に、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更したり、フォーカスモードを切り換えたりしたあとに、動画撮影状態に戻ると、動画サーボAFは開始します。
- **［しない］設定時**
  - シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。

動画記録中のシャッターボタンAF

動画撮影中にシャッターボタンを押すと、静止画を撮影できます。初期設定では［ONE SHOT］に設定されています。

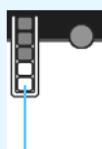
- **［ONE SHOT］設定時**
  - 動画撮影中にシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせなおして、静止画を撮影します。
  - 被写体が止まっているときは、精度のよいピントで撮影ができます。
- **［しない］設定時**
  - シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに静止画を撮影します。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

動画撮影するときには

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈[icon]〉と赤い〈[icon]〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈[icon]〉または赤い〈[icon]〉が表示されます。
- 白い〈[icon]〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、静止画撮影を一時休止することをおすすめします。なお、動画の画質はほとんど低下しませんので、動画撮影は続けられます。
- 赤い〈[icon]〉は、もうすぐ電源が自動的に切れることを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈[icon]〉または〈[icon]〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正を〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなったり、撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正を〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、市販の外部マイクを使用すると、これらの音を録音しないように（低減）できます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を示し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断できます。

インジケーター

動画撮影するときには

動画撮影時の静止画撮影について

- 静止画撮影の画質については、128ページの『画質について』を参照してください。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてAFを行うと、以下の現象が起きることがあります。
  - ・一時的にピントが大きくぼけることがあります。
  - ・動画の明るさが変化して記録されることがあります。
  - ・動画が一瞬停止して記録されることがあります。
  - ・レンズの作動音が記録されることがあります。
  - ・被写体が動いているときなど、ピント合わせができないときは、静止画撮影できないことがあります。

テレビ接続について

- カメラとテレビを接続（p.247、251）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

[動画サーボAF：する］設定時は

ピントが合いにくい撮影条件

- 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
- 近距離で動いている被写体
- 123ページの「ピントが合いにくい撮影条件」も参照してください。

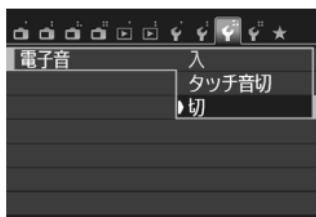
・動画サーボAFを行うと電池が消耗するため、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
・ズーム操作中や拡大表示時は、動画サーボAFが一時停止されます。
・**動画撮影中に「被写体が近づく、または遠ざかる」、または「カメラを上下・左右に動かす（パンニング）」と、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。**

カメラの操作になれていくと、シャッタースピード、絞りなどの設定が感覚でつかめるようになります。そうすれば写真はもっと楽しくなります。何気ない日常のシーンを撮影したスナップがさまざまな表情を見せてくれます。
いろいろ試して、カメラを使いこなしてください。

6 知っていると便利な機能

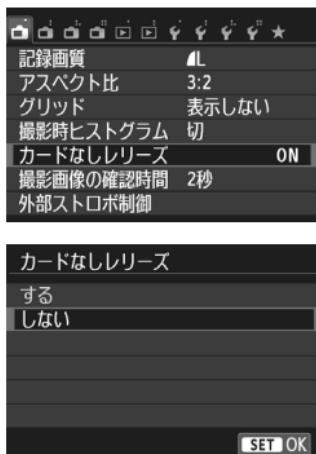
普段使う上で便利な機能

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときやセルフタイマー撮影時、画面をタッチ操作したときに、電子音が鳴らないようにできます。

［🔧3］タブの［**電子音**］を選び、〈Q/SET〉を押します。［**切**］を選び〈Q/SET〉を押します。

画面をタッチしたときの電子音だけを鳴らないようにするときは［**タッチ音切**］を選びます。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カードが入っていないときに、撮影ができないようにできます。

［📷1］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈Q/SET〉を押します。［**しない**］を選び〈Q/SET〉を押します。

カードを入れないでシャッターボタンを押すと、液晶モニターに「カードが入っていません」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに画像を表示する時間を変更できます。[**切**] に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。[**ホールド**] に設定すると、[**液晶の消灯**] の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどの操作を行うと、表示が終了します。

[📷1] タブの [**撮影画像の確認時間**] を選び、〈Q/SET〉を押します。内容を選び〈Q/SET〉を押します。

MENU 画面にグリッドを表示する

グリッド（格子線）を液晶モニターに表示することで、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影できます。グリッドには2種類あり、選べます。

[📷1] タブの [**グリッド**] を選び、〈Q/SET〉を押します。[**グリッド1** ♯] または [**グリッド2** ▦] を選び、〈Q/SET〉を押します。

MENU 節電機能（液晶の消灯、カメラのパワーオフ）を設定する

カメラを操作しないままの状態が続いたときに、節電のため、液晶モニターが自動的に消灯し、操作しない状態がさらに続くと、カメラの電源が自動的に切れます。液晶モニターが消灯するまでの時間、その後カメラの電源が自動的に切れるまでの時間を設定できます。

節電機能で液晶モニターが消灯したときは、いずれかのボタンを押すか、液晶モニターにタッチすると点灯します。

節電機能で電源が切れたときは、電源ボタンまたは〈▶〉ボタン（2秒以上）を押すと電源が入ります。

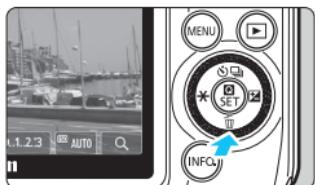
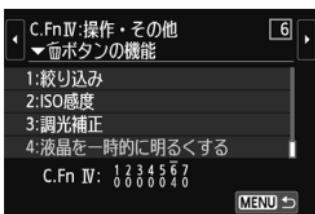
電源／アクセスランプは、電源を〈ON〉にしたときに点滅し、使っているときは消灯しています。液晶モニターが消灯したときは、緑色に点灯します。

［🔧2］タブの［**節電機能**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

［**液晶の消灯**］、［**電源オフまで**］のそれぞれで内容を選び、〈Q/SET〉を押します。

［**電源オフまで**］の設定時間は、液晶モニターの消灯後の時間です。

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整できます。メニューでステップごとに設定する方法と、カスタム機能で一時的に明るくする方法があります。

メニューで明るさを調整する

［🔧2］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈Q/SET〉を押します。調整画面で［◀］/［▶］をタッチするか、〈◀✱〉/〈▶⊠〉ボタンを押して明るさを調整し、〈Q/SET〉を押します。

露出を確認するときは、目盛を4の位置にして、なるべく周りの光の影響を受けないようにしてください。

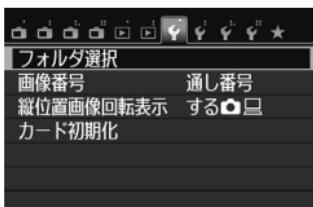
カスタム機能で〈▼🗑〉ボタンを［**液晶を一時的に明るくする**］に設定して（p.287）、〈▼🗑〉ボタンを押すと、メニューで設定する［7］と同じ明るさになります。もう一度押すと、元の明るさに戻ります。

電源が〈OFF〉になったり、メニューで明るさの調整画面にすると、元の明るさに戻ります。

MENU フォルダの作成と選択

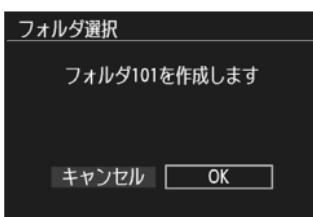
画像を保存するフォルダを作成／選択できます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

1 [フォルダ選択] を選ぶ

- [1] タブの [**フォルダ選択**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 [フォルダ作成] を選ぶ

- [**フォルダ作成**] を選び〈Q/SET〉を押します。

3 フォルダを作成する

- [OK] を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択

- フォルダ選択画面が表示された状態で、フォルダを選び〈Q/SET〉を押します。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

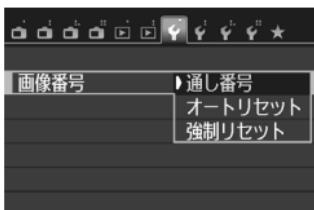
フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999)。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.211）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成できます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可)、半角の「_」（アンダーバー)、および数字です。スペースは使用できません。また、アルファベットが異なっていてもフォルダ番号が同じとき（例：100ABC_D、100W_XYZ）は、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

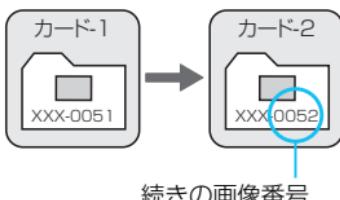
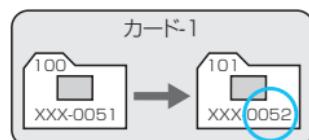
画像番号は、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

画像番号は、パソコンで見ると IMG_0001.JPG になります。

[1]タブの[**画像番号**]を選び、〈Q/SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈Q/SET〉を押します。

● **[通し番号]：カードの交換やフォルダを作成しても連番で保存したいとき**

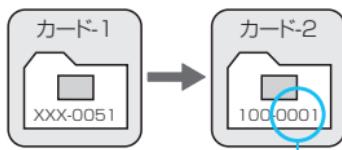
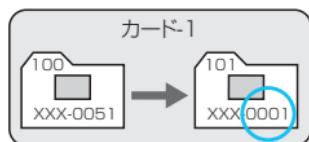
カード交換やフォルダを作成しても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

フォルダを作成した場合

● **[オートリセット]：カードの交換やフォルダの作成で、画像番号を 0001 にしたいとき**

カード交換やフォルダを作成して撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合　　**フォルダを作成した場合**

● **[強制リセット]：任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき**

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示はありません）。

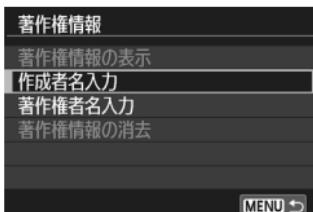
フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」になります。

MENU 著作権情報の設定 応用

著作権情報を設定すると、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に付加されます。

1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［4］タブの［**著作権情報**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 文字の入力画面が表示されます。
- ［**著作権情報の表示**］を選ぶと、現在設定している著作権情報が確認できます。
- ［**著作権情報の消去**］を選ぶと、現在設定している著作権情報を消去できます。

3 文字を入力する

- 次ページの『文字の入力方法』を参照し、著作権情報を入力します。
- 半角英数字／記号で最大63文字入力できます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が完了したら、［OK］をタッチします。
- 確認画面で［OK］を選び、〈Q/SET〉を押します。

文字の入力方法

● **入力エリアの切り換え**

〈INFO.〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● **カーソルの移動**

［◀］/［▶］をタッチするか、〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンを押すとカーソルが移動します。

● **文字の入力**

下側のエリアで直接キーボードを押すか、〈◎〉で文字を選び、〈Q/SET〉を押して文字を入力します。

● **入力モードの切り換え**

下側のエリアの一番右下の［Aa⇄1@］をタッチします。タッチするたびに、小文字→数字/記号1→数字/記号2→大文字に切り換わります。

● **文字の削除**

［MENU 🗑］をタッチするか、〈MENU〉ボタンを押すと1文字消去されます。

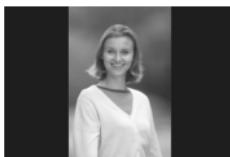
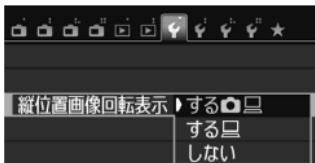
● **入力の終了**

［OK］をタッチすると、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

● **入力のキャンセル**

［**キャンセル**］をタッチすると、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

付属ソフトウェアのEOS Utility（p.340）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定

縦位置で撮影した画像は、カメラやパソコンで見るときに、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更できます。

［🔧1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈Q/SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈Q/SET〉を押します。

- **［する📷 🖥］**：カメラやパソコンで見るときに、自動回転させたいとき
- **［する🖥］**　：パソコンで見るときだけ自動回転させたいとき
- **［しない］**　：自動回転しない

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**

　〈▶〉ボタンを押して、画像を再生したときに回転表示します。

- **［する📷 🖥］にして再生しても回転表示されない**

　［**しない**］の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく回転表示しないことがあります。その場合は、233ページの『回転させる』の操作で画像を回転できます。

- **［する🖥］で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**

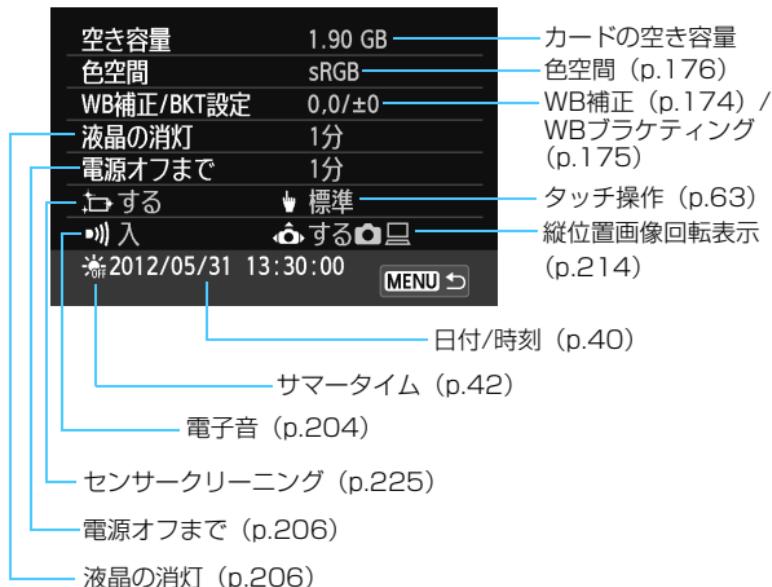
　撮影後でも［**する📷 🖥**］に設定して再生すると、回転表示になります。

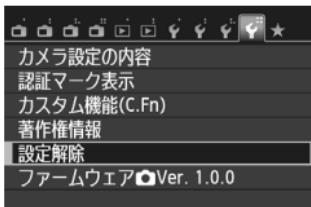
- **パソコンで回転表示されない**

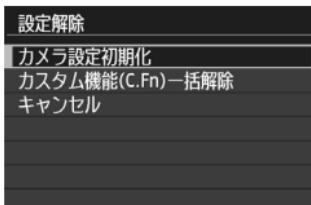
　回転表示に対応していないソフトウェアです。付属のソフトウェアを使用してください。

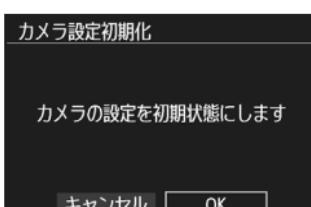
MENU カメラの設定内容を確認する

［ꔶ4］タブの［**カメラ設定の内容**］で、現在設定している主な機能の内容を確認できます。

設定内容表示

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影モードが、静止画の応用撮影ゾーンと動画では、カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻せます（この操作で、シーンインテリジェントを含むすべての撮影モードの設定が初期状態に戻ります）。

1 ［設定解除］を選ぶ

- ［4］タブの［**設定解除**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

- ［**カメラ設定初期化**］を選び〈Q/SET〉を押します。

3 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ ［**カメラ設定初期化**］を行うと、カメラの設定が次ページのようになります。

? こんなときは

- **すべての設定を初期状態に戻したい**

　上記操作の前に、［**4：設定解除**］で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定しているカスタム機能をすべて解除できます（p.282）。

静止画撮影機能

撮影モード	CA (クリエイティブオート)
AF動作	ONE SHOT AF
ドライブモード	□（1枚撮影）
測光モード	◉（評価測光）
ISO感度	AUTO（オート）
ISOオート	上限6400
露出補正	解除
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	そのまま
外部ストロボ機能設定	そのまま

画像記録

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	オート
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	しない／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

GPS使用時の設定については、お使いのGPSの使用説明書を参照してください。

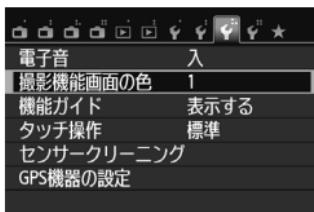
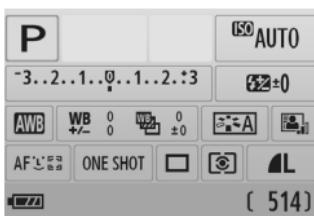
カメラ設定

電源オフまで	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
撮影時ヒストグラム	切
再生時ヒストグラム	輝度
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の消灯	1分
エリア設定	そのまま
日付/時刻	そのまま
言語	そのまま
ビデオ出力方式	そのまま
撮影機能画面の色	1
機能ガイド	表示する
タッチ操作	標準
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない
AF方式	ライブ1点AF
コンティニュアスAF	する
タッチシャッター	しない
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
測光タイマー	16秒

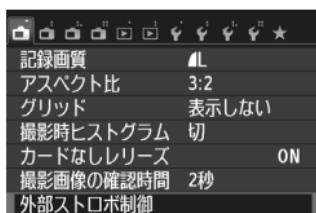
動画撮影機能

撮影モード	動画自動露出
AF方式	ライブ1点AF
動画サーボAF	する
動画記録中のシャッターボタンAF	ONE SHOT
グリッド	表示しない
測光タイマー	16秒
動画記録サイズ	1920×1080
録音	オート
ビデオスナップ	撮影しない

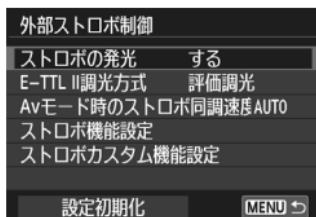
MENU 撮影機能の設定画面（INFO.クイック設定）の色を変える

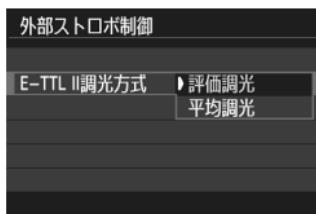
撮影機能の設定画面の背景色を変えられます。

［🔧3］タブの［**撮影機能画面の色**］を選び、〈Q/SET〉を押します。色を選び、〈Q/SET〉を押します。

MENU 外部ストロボの機能を設定する 応用

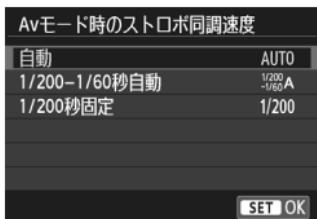
メニューで外部ストロボの機能を設定します。**外部ストロボ機能設定に対応したEXスピードライト装着時のみ有効です。**

設定操作の方法は、カメラのメニュー機能と同じです。

[外部ストロボ制御]を選ぶ

- [1]タブの[**外部ストロボ制御**]を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

[ストロボの発光]

- 通常は、[**する**]を選びます。
- **[しない]を選ぶと、外部ストロボは発光しません。**ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。
- スピードライト 90EX と組み合わせた場合、(シーンインテリジェントオート)、(ポートレート)、(クローズアップ)、(夜景ポートレート)では、この設定に関係なく、自動発光できます。CA(クリエイティブオート)では、クイック設定で自動発光、強制発光、発光禁止を設定できます。

[E-TTL II 調光方式]

- 通常は、標準的なストロボ露出が得られる[**評価調光**]を選びます。
- [**平均調光**]は上級者向けの設定です。外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

[Avモード時のストロボ同調速度]

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定できます。

- **AUTO：自動**

　明るさに応じてシャッター速度が1/200～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロも行えます。

- **1/200-1/60A：1/200-1/60秒自動**

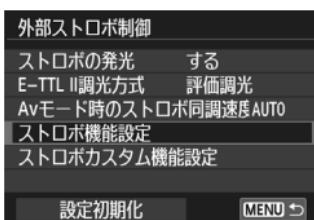
　暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

- **1/200：1/200秒固定**

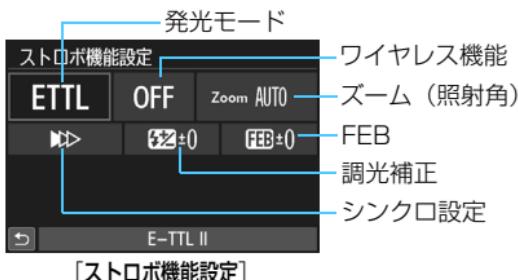
　シャッター速度が1/200秒に固定されるため、[**1/200-1/60秒自動**]よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[**1/200-1/60秒自動**]よりも被写体の背景が暗くなります。

[**1/200-1/60秒自動**][**1/200秒固定**]設定時は、〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロできません。

[ストロボ機能設定]

下記の表に示す機能を設定できます。なお、表示される機能は、使用するストロボによって異なります。

● [ストロボ機能設定] を選びます。

➡ 機能が表示されます。

画面例

[ストロボ機能設定]

[ストロボ機能設定] で設定できる機能

機能	参照頁
発光モード	223
シンクロ設定	223
FEB*	
ワイヤレス機能	223
チャンネル	
発光グループ	
調光補正	154
ズーム*	

* [FEB]（フラッシュエクスポージャーブラケティング）、[ズーム] については、それぞれの機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。また、シャッター速度が1/30秒以上のときは、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

さらに、［**ハイスピード**］（ϟ_H）も選択できます。詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス機能

光通信または電波通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したスピードライト（スピードライト90EXなど）の使用説明書を参照してください。

調光補正

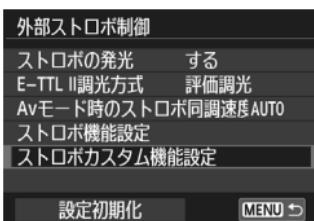
154ページの『ストロボ調光補正を使って撮影する』を参照してください。

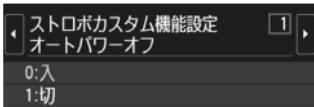
発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選べます。

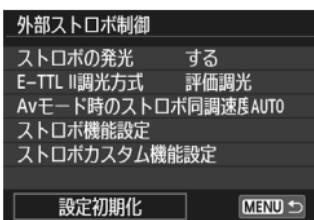
- ［E-TTL II］は、ストロボの自動撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。
- ［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］（1/128～1/1）を自分で決めて撮影する、上級者向けのモードです。
- そのほかの発光モードについては、その発光モードに対応した外部ストロボの使用説明書を参照してください。

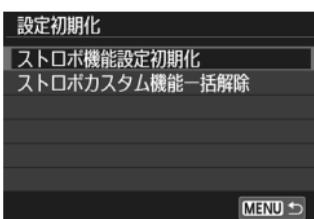
ストロボカスタム機能を設定する

［**ストロボカスタム機能設定**］で表示される内容は、使用するストロボによって異なります。

1 カスタム機能を表示する

- ストロボ撮影ができる状態で［**ストロボカスタム機能設定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 カスタム機能を設定する

- ［◀］/［▶］をタッチするか、〈◀✱〉/〈▶⊠〉ボタンを押して番号を選び、機能を設定します。操作方法はカメラのカスタム機能の設定と同じです（p.282）。

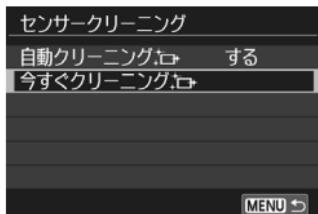
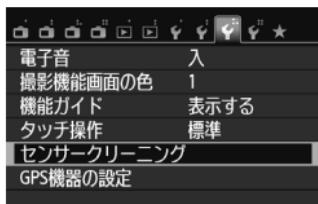
設定を初期化する

1 ［設定初期化］を選ぶ

- ［**1：外部ストロボ制御**］の［**設定初期化**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 初期化する内容を選ぶ

- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈Q/SET〉を押します。
- ［OK］を選ぶとストロボの設定が初期化されます。

撮像素子の自動清掃

このカメラでは、電源を〈ON〉〈OFF〉にしたとき（「電源オフまで」も含む）に、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが動作します。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、必要に応じて動作させたり、自動清掃を解除したりできます。

任意に作動させて清掃する

1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- ［**今すぐクリーニング**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- メッセージ画面で［OK］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。
- ➡ センサーのクリーニングは、レンズを付けていなくても行えます。レンズを付けないで行うときは、シャッター幕を破損しないように、レンズマウント面より中に指やブロアーを入れないでください。
- カメラが再起動します。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。

手作業で撮像素子を清掃する

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃できます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

1 電源を〈OFF〉にする

2 レンズを取り外す

3 撮像素子を清掃する

4 清掃を終了する

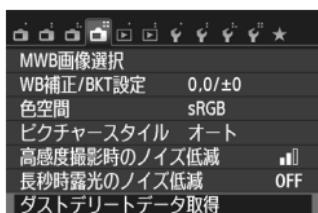
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。シャッター幕を破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去できます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加できます。付加された情報をもとに、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で、自動ゴミ消し処理します。

事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- フォーカスモードを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

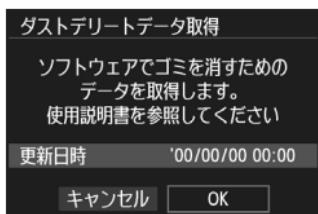
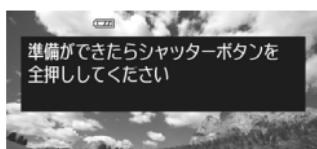
- ［4］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈Q/SET〉を押します。

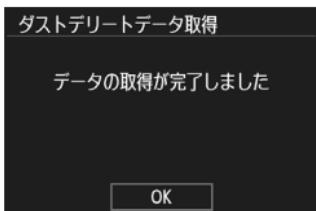
2 ［OK］を選ぶ

ダストデリートデータ取得

ソフトウェアでゴミを消すための
データを取得します。
使用説明書を参照してください

更新日時	'00/00/00 00:00

キャンセル　OK

- ［OK］を選び〈Q/SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得できます。
- ➡ 撮影すると、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データを取得できなかったときは、案内の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータを付加します。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータを再取得（更新）してください。

なお、付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）による自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

> 未使用のコピー用紙など、真っ白な無地の被写体を必ず撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

テレビの大きな画面では、パソコンの画面とは印象が違って見えます。
大きな画面で写真を見る、新しい写真の楽しみ方です。

7

画像の再生

この章では、第2章の『シーンインテリジェントオート＋かんたん撮影ゾーンと画像確認』で説明した再生方法の応用的な使い方や、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

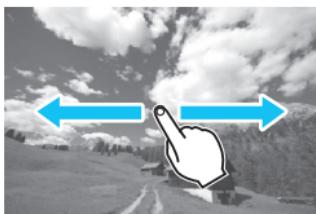
他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

タッチパネルで再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生ができます。**まず、〈▶〉ボタンを押して画像を再生します**（最後に撮影した画像が表示されます）。

電源が切れていても、〈▶〉ボタンを2秒以上押すと、電源が入り、再生画面になります。

画像を送る

指1本でドラッグする

- １枚表示のときは「**指１本**」で液晶モニターに触れ、左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。
  指を左に動かすと新しい画像、指を右に動かすと古い画像が表示されます。
- 一度に４枚、９枚の画像を表示するインデックス表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れ、上または下に動かすと１画面ずつ画像が送られます。指を上に動かすと新しい画像、指を下に動かすと古い画像が表示されます。画像を選んで、再度タッチすると、１枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指２本**」で触れ、左または右に動かすと、［▶2］タブの［**での画像送り**］で設定されている方法で、画像を飛ばして表示できます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）

2本の指を閉じる

広げた指2本で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1枚表示から4枚インデックス表示→9枚インデックス表示になります。
- インデックス再生のとき選択している画像にはオレンジ色の枠が付きます。
- インデックス再生のとき、動画は画像左側に縦帯が付きます。

画像を拡大表示する

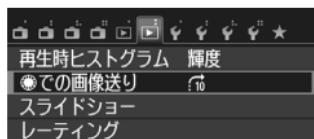
2本の指を開く

閉じた指2本で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 画面右上の［⮌］をタッチすると、1枚表示に戻ります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

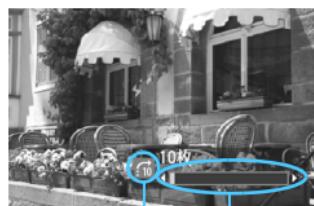
1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示できます。

での画像送り
10枚飛びに画像表示
SET OK

1 ［ での画像送り］を選ぶ

- ［▶2］タブの［ での画像送り］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈▲ / 〉/〈▼ 〉/〈◀ 〉/〈▶ 〉ボタンを押して、ジャンプ方法を選び、〈Q/SET〉を押します。

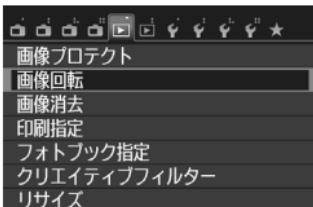
：1枚ずつ画像表示
：10枚飛びに画像表示
：100枚飛びに画像表示
：撮影日を切り換えて画像を表示
：フォルダを切り換えて画像を表示
：動画だけを表示
：静止画だけを表示
：指定したレーティングの画像を表示（p.234）

ジャンプ方法
再生位置

3 画像送りをする

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈 〉を回します。

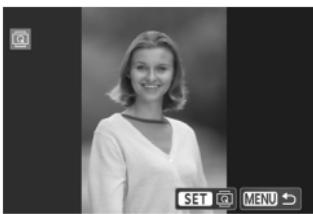
- ［撮影日］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［フォルダ］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［動画］［静止画］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のいずれかだけを表示したいときに選びます。
- ［レーティング］［静止画］［動画］で対象となる画像がないときは、〈 〉を回しても画像送りはできません。

回転させる

画像を回転して表示できます。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

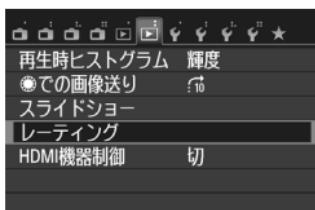
- 〈◀✱〉/〈▶⊠〉ボタンを押して回転する画像を選びます。
- インデックス表示（p.231）にして選ぶこともできます。

3 画像を回転する

- 〈Q/SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

- ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 📷 💻］（p.214）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要はありません。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 📷 💻］に設定します。
- 動画は回転できません。

MENU お気に入りのレベルを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[★]/[★★]/[★★★]/[★★★★]/[★★★★★]）を付加できます。この機能をレーティングといいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。

1 [レーティング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**レーティング**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 画像を選ぶ

- 〈◀ ✱〉/〈▶ ⊠〉ボタンを押して、お気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 広げた指2本を液晶モニターに触れたまま、閉じると3画面表示で選べます。閉じた指2本を液晶モニターに触れたまま、開くと1画面表示に戻ります。

3 お気に入り情報を付ける

- 〈▲ ⏱/▭〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して、お気に入りマークを選びます。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###] と表示されます。

お気に入り情報の利用方法

- ［▶2：◌での画像送り］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示できます。
- ［▶2：スライドショー］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生できます。
- 付属ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.340）で、特定のお気に入りマークを付けた静止画だけを選択できます。
- Windows 7、Windows Vistaでは、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、「評価」という項目でお気に入りマークを確認できます（静止画のみ）。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q/SET〉を押すと、再生しながら［O⊸：**画像プロテクト**／回：画像回転／★：**レーティング**／◎：クリエイティブフィルター／□：リサイズ（JPEG画像のみ）／⤴10：◎**での画像送り**］を設定できます。

なお、**動画のときは、太字の項目のみ**設定できます。

再生時はQクイック設定のみで、INFO.ボタンでのクイック設定はできません。

操作のしかたは、撮影時のクイック設定と同じですが、クリエイティブフィルターとリサイズは、さらに〈Q/SET〉を押して、設定を行います。詳しくは、クリエイティブフィルター（p.260）とリサイズ（p.262）の説明ページを参照してください。

画像回転を行うときは、［🔧1：**縦位置画像回転表示**］を［**する**📷🖥］に設定してください。［🔧1：**縦位置画像回転表示**］が［**する**🖥］［**しない**］に設定されているときは、［回 **画像回転**］で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラでは回転表示になりません。

- インデックス表示中に〈Q/SET〉を押すと、1画面表示に切り換わり、もう一度〈Q/SET〉を押すとクイック設定状態になります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

テレビに接続して再生する

（p.247、251）

別売のAVケーブルAVC-DC400STまたはHDMIケーブルHTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生できます。

フルハイビジョン（Full HD：1920×1080）、またはハイビジョン（HD：1280×720）画質で撮影した動画は、HDMIケーブルで、ハイビジョン対応のテレビに接続すると、より高画質な映像を楽しめます。

- ハードディスクレコーダーは、HDMI 入力端子を備えていないため、HDMIケーブルで、カメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルで、カメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。
- テレビにカードスロットがある場合、MOV形式の動画ファイルの再生に対応していれば、カードをテレビに入れて動画を再生できます。

カメラの液晶モニターで再生する

（p.239～246）

カメラの液晶モニターで動画を再生できます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。ただし、EOS Video Snapshot Task（p.196）で編集したビデオスナップアルバムは、カメラで再生できます。

パソコンで再生・編集する （p.340）

カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、付属ソフトウェアのImageBrowser EXで再生・編集できます。

- 撮影した動画をパソコンで滑らかに再生するには、高性能なパソコンが必要です。動作環境については、ImageBrowser EXガイド（PDF）を参照してください。
- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する

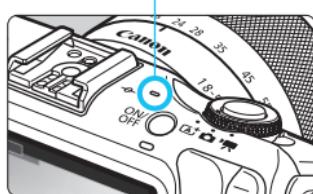
1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。

2 動画を選ぶ

- 〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンを押して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈▲ 🎥〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画には〈▲ 📼〉が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影情報表示に切り換えられます（p.257）。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈Q/SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈▲ 🎥〉を押す

➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。

4 動画を再生する

- ［▶］（再生）を選び、〈Q/SET〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

- 再生中に〈Q/SET〉を押すと、再生が一時停止します。
- 〈◎〉を回すと、再生中でも内蔵スピーカーの音量を調整できます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈Q/SET〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
スロー再生	〈◀ ✱〉/〈▶ 〉ボタンを押すとスロー再生の速さを変更できます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
フレーム戻し	〈Q/SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈Q/SET〉を押し続けると、早戻しします。
フレーム送り	〈Q/SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈Q/SET〉を押し続けると、早送りします。
最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
編集	編集画面を表示します（p.241）。
BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（p.246）。
	再生位置
mm' ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.239）の音量を調整できます。
MENU	1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

タッチパネルで再生する

画面中央の［▶］をタッチする

➡ 動画再生が始まります。
- 画面左上の〈〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

- フル充電のバッテリーパック LP-E12で連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約2時間20分です。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画（ビデオスナップを除く）の前後部分を約1秒単位で削除できます。

1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 編集画面が表示されます。

2 削除する範囲を指定する

- ［✂前］（前部を削除）か、［後✂］（後部を削除）を選んで〈Q/SET〉を押します。
- ［◀II］/［II▶］を押すとフレームが送られます。［◀II］/［II▶］を押し続けると早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、〈Q/SET〉を押します。画面上部の灰色で表示された範囲が残ります。

3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈Q/SET〉を押すと、灰色で表示された範囲が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で［OK］を選び、〈Q/SET〉を押します。

4 保存する

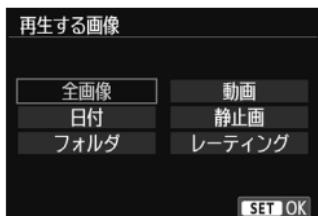
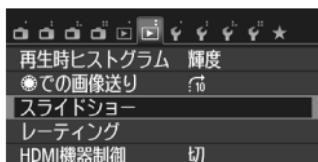
- ［⍈］を選んで〈Q/SET〉を押します。

➡ 保存画面が表示されます。

- 別画像として保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選んで、〈Q/SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び〈Q/SET〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 電池の残量が少なくなると、動画の編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 約1秒単位（［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。

1 [スライドショー] を選ぶ

- [▶2] タブの [**スライドショー**] を選び、〈Q/SET〉を押します。

再生する枚数

2 再生する画像を[全画像]、[動画]、[静止画]、[日付]、[フォルダ]、[★レーティング] から選ぶ

- 図の [**全画像**] と表示されている項目から選びます。選びかたには2種類あります。

〈▲ ⏲/❑〉/〈▼ 🗑〉ボタンで [全画像] の項目を選ぶ

〈▲ ⏲/❑〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して、[**全画像**] と表示されている項目を選び、〈Q/SET〉を押します。〈▲ ⏲/❑〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して、再生する画像のある項目を選びます。選んだら〈Q/SET〉を押します。

[全画像] の項目を直接タッチする

[**全画像**] の項目を2回タッチします。タッチすると、6つの項目（[**全画像**]、[**動画**]、[**日付**]、[**静止画**]、[**フォルダ**]、[**レーティング**]）が一覧で表示されますので、再生する画像のある項目をタッチして選びます。選んだら [SET OK] をタッチし、スライドショーの設定画面に戻ったら [MENU ⮌] をタッチします。

［日付］、［フォルダ］、［★レーティング］

- それぞれ再生する日付、フォルダ、レーティングを選びます。
- 〈INFO. 〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 内容を選び、〈Q/SET〉を押します。

［日付］

［フォルダ］

［レーティング］

項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。

3 ［設定］の内容を設定する

- ［設定］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- 静止画の［再生間隔］と［リピート］（繰り返し再生）、［切り換え効果］（画像を切り換える際の演出効果）、［BGM選択］を設定します。
- BGM選択の設定方法は、246ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

［再生間隔］

［リピート］

［切り換え効果］

［BGM選択］

4 スライドショーを開始する

- ［スタート］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ ［画像読み込み中...］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは、〈Q/SET〉を押します。一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。再度〈Q/SET〉を押すと、再開します。画面をタッチして、一時停止することもできます。
- 自動再生中に〈INFO.〉ボタンを押すと、静止画の表示形式を切り換えられます（p.98）。
- 動画再生中に〈◎〉を回すと、音量を調節できます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◄✲〉/〈►⊡〉ボタンを押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、247ページを参照してください。

BGMを選択する

1 ［BGM選択］を選ぶ

- ［BGM選択］で［する］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲ /〉/〈▼ 〉ボタンを押して音楽を選び、〈Q/SET〉を押します。複数の音楽を選ぶこともできます。

3 試聴する

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、試聴できます。
- 〈▲ /〉/〈▼ 〉ボタンを押すと、曲を切り換えられます。再度〈INFO.〉ボタンを押すと、停止します。
- 〈〉を回すと、音量を調節できます。
- 音楽をカードから削除するときは、［削除］をタッチします。

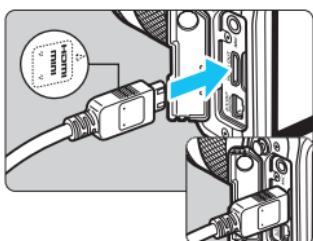
購入時、カメラでBGMの選択はできません。付属ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーする必要があります。詳しくは、EOS Utility使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

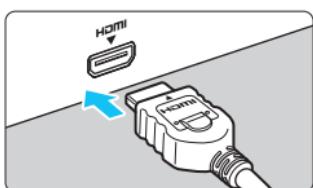
テレビで見る

撮影した静止画や動画を、テレビなどで見ます。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

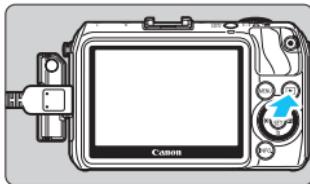
HDMIケーブルで接続して見る

別売のHDMIケーブル HTC-100が必要です。

1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲**HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源を〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を切り換えられます。
- 動画の再生方法は、239 ページを参照してください。

〈**HDMI OUT**〉端子と〈**A/V OUT**〉端子から、映像を同時には出力できません。

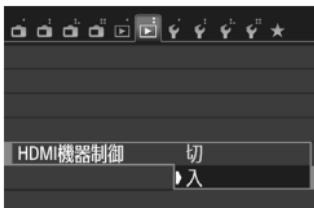
- カメラの〈**HDMI OUT**〉端子に、他の機器からの出力を入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、撮影した画像を再生できないことがあります。そのときは、別売のAVケーブル AVC-DC400STで接続してください。

テレビに接続しているときは、以下の操作はできません。

- **撮影時**
  - ・AF枠移動
  - ・拡大／縮小
  - ・動画時の動画サーボAF ON/OFF切り換え
- **動画再生時**
  - ・クイック設定

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。

1 ［HDMI機器制御］を［入］にする

- ［▶2］タブの［HDMI 機器制御］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ［入］を選び〈Q/SET〉を押します。

2 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ 自動的に、テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に切り換わります。

3 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

4 画像を選ぶ

- リモコンの ←/→ ボタンを押すと、画像を選べます。

静止画再生メニュー

⮌	⊞	スライドショー	INFO.	回転

動画再生メニュー

⮌	動画再生	⊞	スライドショー	INFO.

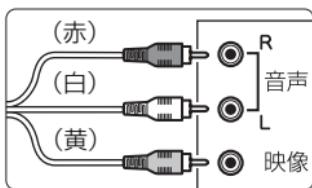
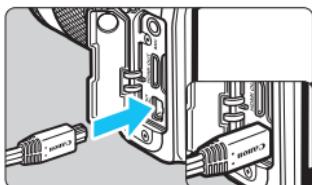
⮌ ：戻る
⊞ ：9枚インデックス表示
動画再生アイコン ：動画再生
スライドショーアイコン ：スライドショー
INFO. ：撮影情報の切り換え
回転アイコン ：画像回転

5 リモコンの決定ボタンを押す

- ➡ メニューが表示され、左図に示す再生ができます。
- ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。
- ［**戻る**］を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。その場合は、HDMIケーブルを取り外して、［▶2：**HDMI機器制御**］を［**切**］にして、再度HDMIケーブルでカメラとテレビを接続して、カメラ側で操作してください。

AVケーブルで接続して見る

AVケーブルで接続すると標準画質での再生になります。

1 別売のAVケーブル AVC-DC400STをカメラに接続する

- プラグの〈**Canon**〉ロゴが、カメラの背面に向くようにして、〈**A/V OUT**〉端子に差し込みます。

2 テレビにAVケーブルを接続する

- AV ケーブルを、テレビの映像入力端子と、音声入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源を〈ON〉にする

5 〈▶〉ボタンを押す

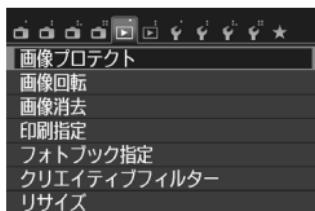
➡ 画像がテレビに表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

- 動画の再生方法は、239 ページを参照してください。

- 別売のAVケーブル AVC-DC400ST以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- テレビ方式と異なるビデオ出力方式が設定されていると、画像が正しく表示されません。そのときは、[**2:ビデオ出力方式**]で方式を切り換えてください。

保護する（プロテクト）

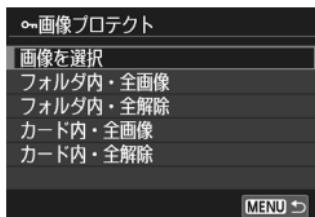
大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクト（保護する）できます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

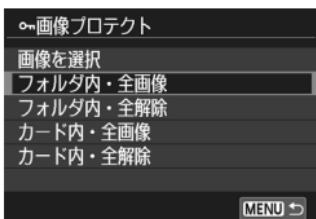
2 ［画像を選択］を選ぶ

- ［**画像を選択**］を選び〈Q/SET〉を押します。

プロテクト表示

3 プロテクトする

- 〈◄✱〉/〈►⊠〉ボタンを押してプロテクトする画像を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈Q/SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ単位、またはカード単位で、画像をプロテクトすることもできます。

［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像をプロテクトできます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.57）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトできます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.255）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去したりできます。なお、プロテクト（p.252）した画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようにプロテクトしてください。RAW＋◢Lで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

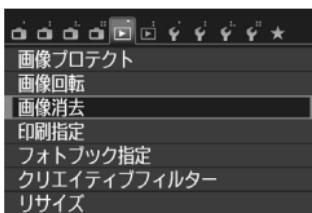
2 〈▼ 🗑〉ボタンを押す

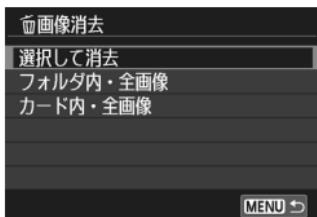
➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。

3 消去する

● ［**消去**］を選び〈Q/SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

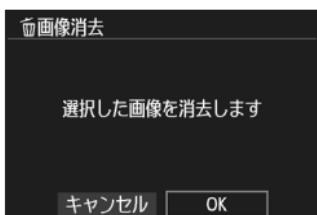
MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去できます。

1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［選択して消去］を選ぶ

- ［**選択して消去**］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 広げた指２本を液晶モニターに触れたまま、閉じると３画面表示で選べます。閉じた指２本を液晶モニターに触れたまま、開くと１画面表示に戻ります。

3 消去したい画像を選ぶ

- 〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンを押して消去したい画像を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に〈✓〉が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

4 消去する

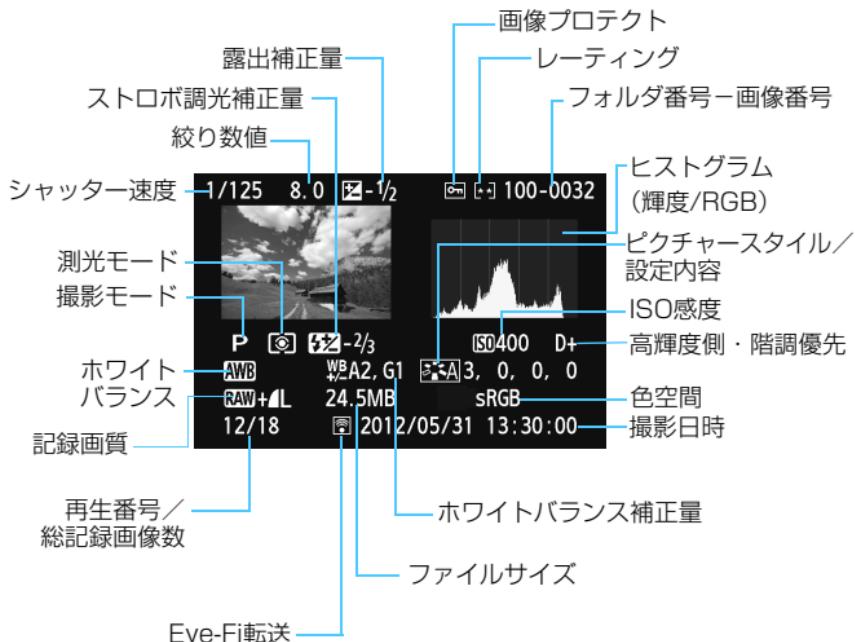
- 〈▼ 🗑〉ボタンを押します。
- ［OK］を選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 選択した画像が消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去できます。［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

プロテクトした画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.57）。

INFO. 撮影情報の内容

応用撮影ゾーンで撮影した画像の例

* RAW＋◢Lの設定で撮影した画像は、RAWのファイルサイズが表示されます。
* 動画撮影時に撮影した静止画のときは、〈 〉が表示されます。
* クリエイティブフィルターやリサイズ処理した画像のときは、〈 〉が〈RAW+〉の位置に表示されます。
* ストロボ調光補正なしでストロボ撮影した画像は〈 〉、ストロボ調光補正を行った画像は〈 〉と表示されます。

かんたん撮影ゾーンで撮影した画像の例

* シーンインテリジェントオートとかんたん撮影ゾーンで撮影した画像は、撮影モードによって表示される内容が異なります。
* 〈CA〉モードで撮影した画像は、［**背景のぼかし具合**］が表示されます。

動画の例

* シャッター速度、絞り数値、ISO感度（任意設定時）は、マニュアル露出で撮影したときに表示されます。
* ビデオスナップ撮影した動画のときは、〈 〉が表示されます。

ハイライト警告表示について

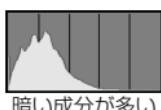
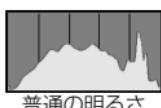
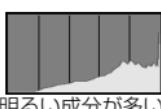
撮影情報表示にしたときに、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、[▶2：**再生時ヒストグラム**] で行います。

[輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できます。

ヒストグラム例

暗い成分が多い

普通の明るさ

明るい成分が多い

[RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認できます。

撮影した画像は、パソコンを使わなくても、
カメラだけで簡単に加工できます。
これもデジタルカメラの楽しみ。

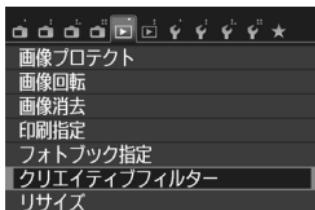
8

撮影した画像を再生中に加工する

撮影後、画像にフィルター効果を施したり、画像をリサイズ（画素数を少なく）できます。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンを〈**DIGITAL**〉端子で接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

クリエイティブフィルター

　画像再生中にも、クリエイティブフィルターを使用できます。再生中にクリエイティブフィルターを使って加工した画像は、撮影したオリジナル画像はそのままで、別画像として保存できます。
　使えるクリエイティブフィルターは、撮影時と同じです（p.94）。
　クリエイティブフィルターは、Qクイック設定でも操作できます。

1 ［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**クリエイティブフィルター**］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- フィルター処理を行う画像を選びます。
- インデックス表示からも選べます。

3 フィルターを選ぶ

- 〈Q/SET〉を押すと、フィルターの種類が表示されます。
- フィルターの特徴は、96、97ページを参照してください。
- 〈◀✱〉/〈▶☒〉ボタンを押してフィルターを選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された画像が表示されます。

4 フィルター効果を調整する

- 〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンを押してフィルター効果を調整し、〈Q/SET〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲ ⏲/▭〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して、くっきり見せたい部分（白枠の中）を選び〈Q/SET〉を押します。
  〈INFO.〉ボタンを押すことで白枠の縦/横を切り換えられます。

5 保存する

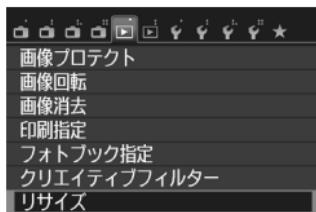
- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- ほかにフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2〜5を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

RAW ＋ ◢L または RAW で撮影した画像は、RAW 画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。なお、撮影時にアスペクト比を設定していた RAW 画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。

リサイズ

撮影した画像の画素数を少なくするリサイズ処理を行い、別画像として保存できます。なお、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像でリサイズ処理できます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズ処理できません。**

リサイズは、[Q]クイック設定でも操作できます。

画像プロテクト
画像回転
画像消去
印刷指定
フォトブック指定
クリエイティブフィルター
リサイズ

1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**リサイズ**］を選び、〈[Q]/SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- リサイズ処理を行う画像を選びます。
- インデックス表示にして選ぶこともできます。

リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈[Q]/SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- 〈◀ ✱〉/〈▶ ☒〉ボタンを押してリサイズする画像サイズを選び、〈[Q]/SET〉を押します。

4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズ処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

撮影時の記録画質と、リサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○
S3				

画像サイズについて

262ページの手順3で表示される［**M ****x****］などの数値は、アスペクト比3：2のものです。アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。

なお、「*」印の付いた記録画質とアスペクト比は、正確な比率になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

記録画質	アスペクト比と記録画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3456×2304（800万）	3072×2304（700万）	3456×1944（670万）	2304×2304（530万）
S1	2592×1728（450万）	2304×1728（400万）	2592×1456*（380万）	1728×1728（300万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×400*（29万）	480×480（23万）

紙に印刷するときに用紙を変えてみることで写真集のように仕上げることもできます。パソコンやカメラの画面で見るだけではない、紙で見る、これも写真の楽しみです。

画像の印刷

- **印刷**（p.266）

　カメラとプリンターを直接つないで、カードに記録されている画像を印刷できます。このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

- **画像を印刷指定する／DPOF**（p.275）

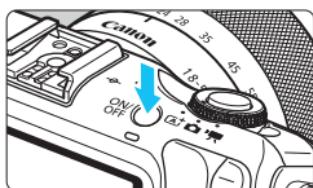
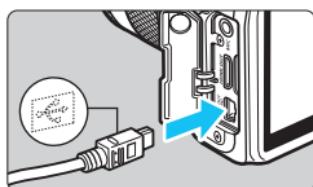
　カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定できるDPOF（Digital（デジタル） Print（プリント） Order（オーダー） Format（フォーマット））に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文するときに使います。

- **フォトブックにする画像を印刷指定する**（p.279）

　カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定できます。

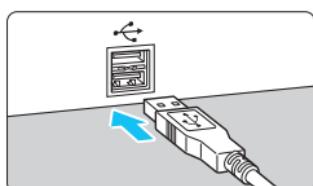
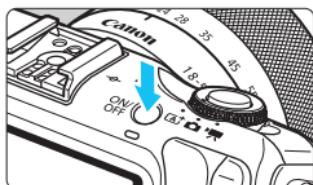
印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源を〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇐〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源を〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。

- 動画は印刷できません。
- 「CPダイレクト」または「Bubble Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- 付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。表示されるエラーメッセージに対応した処置を行ってください（p.274）。

- このカメラで撮影したRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約2時間30分印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E12（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

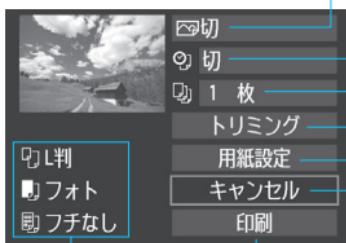
プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◄〉/〈►〉ボタンを押して印刷する画像を選びます。

2 〈Q/SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面

- 印刷効果を設定します（p.270）
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します（p.273）
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

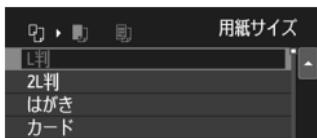
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

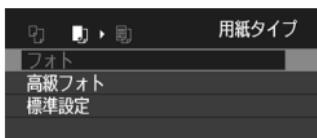
＊ プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

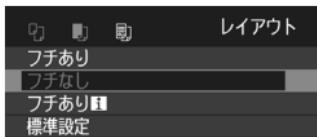
3 [用紙設定] を選ぶ

- [**用紙設定**] を選び〈Q/SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

- プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

- プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

- 印刷レイアウトを選び〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチありi	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*1を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置i **35面配置□**	20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します*2。 ・［**20面配置i**］では、撮影情報*1を印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

*1：Exif情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

*2：『画像を印刷指定する／DPOF』（p.275）で印刷指定したあと、『印刷指定画像のダイレクトプリント』（p.278）で印刷することをおすすめします。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、手順5に進みます。
- **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**
- 項目を選び〈Q/SET〉を押します。
- 印刷効果を選び〈Q/SET〉を押します。
- 〈INFO.〉が明るく表示されているときは、印刷効果を調整できます（p.272）。

項目	印刷内容
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正します。
切	自動補正しません。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理をして印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを活かして印刷されます。自動色調整しません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かく印刷調整できます。
標準設定	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

＊ **印刷効果の設定を変更すると、画面左上に表示されている画像に設定内容が反映されます。ただし、実際の印刷結果とは多少異なる場合があるため、目安としてとらえてください。272ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈Q/SET〉を押します。
- 印刷内容を選び〈Q/SET〉を押します。

6 印刷枚数を設定する

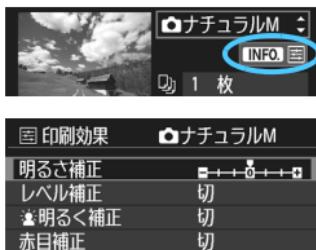
- 必要に応じて設定します。
- 〈〉を選び〈Q/SET〉を押します。
- 印刷枚数を選び〈Q/SET〉を押します。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び〈Q/SET〉を押します。

- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 画像の傾き補正（p.273）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈Q/SET〉を押して［**OK**］を選びます。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.216）を行うと、設定した内容がすべて初期状態に戻ります。

印刷効果の調整について

印刷効果	ナチュラルM
明るさ補正	
レベル補正	切
明るく補正	切
赤目補正	切

270ページの手順4で項目を選び、〈INFO. 〉が明るく表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果を調整できます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

明るさ補正

画像の明るさを調整できます。

レベル補正

［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整できます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈◀〉/〈▶〉ボタンを押すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を調整できます。

明るく補正

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

赤目補正

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］を調整できます。なお、［**カラーバランス**］のBはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定

傾き補正

画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷できます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

液晶モニターにタッチした2本の指を閉じたり、広げたりして、大きさを変えます。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈▲ / 〉／〈▼ 〉／〈◄ 〉／〈► 〉ボタンを押して、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の傾きを補正する

〈 〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転できます。回転させると、画面上の〈 〉が青色に変わります。

3 〈Q/SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈Q/SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

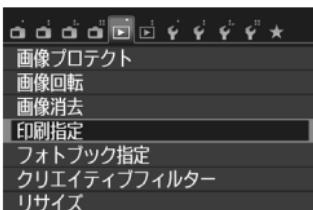
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

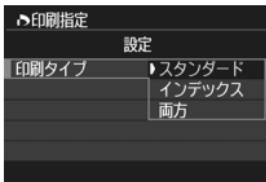
印刷内容を設定する

1 ［印刷指定］を選ぶ

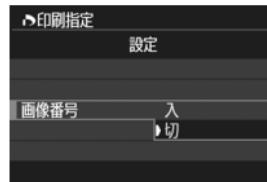
- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［設定］を選ぶ

- ［**設定**］を選び〈Q/SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈Q/SET〉を押します。内容を選び〈Q/SET〉を押します。

［印刷タイプ］

［日付］

［画像番号］

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 / 切		[入]にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 / 切		[入]にすると、画像番号を付けて印刷します。

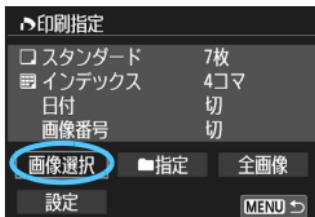
4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の[**画像選択**][**■指定**][**全画像**]で、印刷する画像を指定します。

- [**日付**][**画像番号**]を[**入**]にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**]に設定したときは、[**日付**]と[**画像番号**]を同時に[**入**]にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

RAW画像と動画は印刷指定できません。RAW画像は、ダイレクトプリント（p.278）で印刷できます。

印刷する画像を指定する

● 画像選択

画像を1枚ずつ選んで指定します。

広げた指2本を液晶モニターに触れたまま、閉じると3画面表示で選べます。閉じた指2本を液晶モニターに触れたまま、開くと1画面表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

[スタンダード][両方]

〈▲/〉/〈▼〉ボタンを押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。

[インデックス]

〈Q/SET〉ボタンを押して、〈✓〉を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

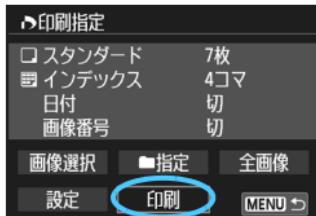
● 指定

［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像

［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント

印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷できます。

1 印刷の準備をする

- 266ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶1] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する (p.268)

- 印刷効果 (p.270) は必要に応じて設定します。

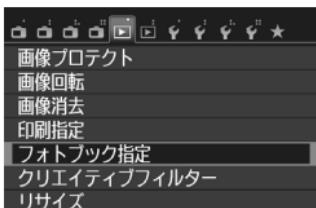
5 [OK] を選ぶ

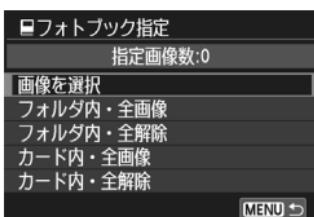
- 印刷するときは、必ず用紙サイズを設定してください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  ・インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  ・印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、274ページを参照してください。

フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされ、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターで印刷をするときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定する

1 ［フォトブック指定］を選ぶ

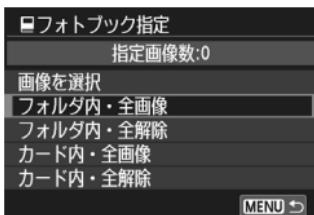
- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［画像を選択］を選ぶ

- ［**画像を選択**］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。
- 広げた指２本を液晶モニターに触れたまま、閉じると３画面表示で選べます。閉じた指２本を液晶モニターに触れたまま、開くと１画面表示に戻ります。

3 指定する画像を選ぶ

- 〈◄✱〉/〈►⊠〉ボタンを押して、指定する画像を選び〈Q/SET〉を押します。
- この操作を繰り返します。画面の左上に、指定した枚数が表示されます。
- もう一度〈Q/SET〉を押すと、指定が解除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

フォルダ内／カード内全画像を指定する

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することもできます。

［1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

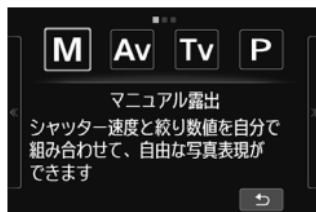
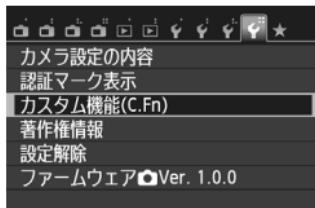
他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

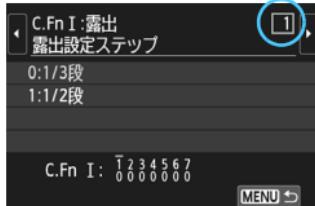
- 指定できるのは、最大998枚です。
- RAW画像と動画は指定できません。

カメラの操作に慣れたら、自分が使いやすいように 機能をカスタマイズしていくのも、カメラの楽しみ。
カスタマイズと使いこなし、楽しみが広がります。

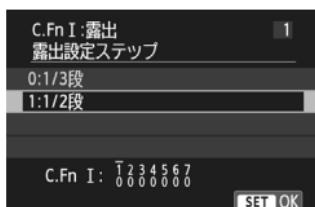
10

カメラの機能を自分好みに変更する

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更できます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定・機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 ［カスタム機能（C.Fn）］を選ぶ

- ［4］タブの［**カスタム機能（C.Fn）**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

カスタム機能番号

2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄〉/〈►〉ボタンを押して設定する機能番号を選び、〈Q/SET〉を押します。

3 設定を変更する

- 〈▲/〉/〈▼〉ボタンを押して設定内容（番号）を選び、〈Q/SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態／機能を確認できます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順1の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

［**4：設定解除**］で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます（p.216）。

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

			静止画撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	p.284	○	○
2	ISO感度拡張		○	○

C.Fn II：画像

			静止画撮影	動画撮影
3	高輝度側・階調優先	p.285	○	○

C.Fn III：AF

			静止画撮影	動画撮影
4	AF補助光（LED）の投光	p.286	○	―

* LEDライト付きのEXスピードライト（別売）使用時は、AF顔追尾、AF( )、AF□モードでもAF補助用のライトが点灯します。

C.Fn IV：操作・その他

			静止画撮影	動画撮影
5	シャッターボタン/AEロックボタン	p.286	○	○
6	▼🗑 ボタンの機能	p.287	○	○*
7	レンズなしレリーズ		○	○

* ［**絞り込み**］、［**調光補正**］設定時は無効（「―」）になります。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像」、「C.Fn III：AF」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn-1　露出設定ステップ

0： 1/3段

1： 1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにできます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

1設定時は、液晶モニターの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn-2　ISO感度拡張

0： しない

1： する

ISO感度を設定するときに、静止画撮影時：「**H**」（ISO25600 相当）、動画撮影時：「**H**」（ISO12800）が選択できるようになります。なお、［**C.Fn-3：高輝度側・階調優先**］を［**1：する**］に設定したときは、「**H**」は選択できません。

C.Fn II：画像

C.Fn-3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

　高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

- 1設定時は、オートライティングオプティマイザ（p.159）が［**しない**］に自動設定され、設定変更ができなくなります。
- 1設定時は、0設定時よりもノイズ（画像のザラツキ感、縞など）が若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～12800（動画撮影時は6400）になります。
また、液晶モニターには、高輝度側・階調優先の設定中を示す〈**D+**〉が表示されます。

C.Fn III：AF

C.Fn-4　AF補助光（LED）の投光

AF補助光を投光するかどうかを設定できます。

0：する

必要に応じて、セルフタイマー/AF補助光ランプからAF補助光が投光されます（LED対応外部ストロボ使用時も設定が有効です）。

1：しない

AF補助光は投光されません。

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn-5　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈◀✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）できます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

サーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないように、〈◀✱〉ボタンでAFの作動を一時停止できます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体を撮影するときに有効です。サーボ AF 時は、〈◀✱〉ボタンでサーボAFの作動／停止を切り換えます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

- 連写中に〈◀✱〉ボタンを押しても、AFの作動/停止はできません。
- ［**1：AEロック/AF**］、［**3：AE/AF（AEロックなし）**］では、AFさせないで連写したときの1秒間の連続撮影枚数は、AF動作、レンズによって異なります（p.134）。

C.Fn-6　▼ 🗑 ボタンの機能

よく使う機能を、〈▼ 🗑〉ボタンに割り当てられます。撮影準備状態で〈▼ 🗑〉を押します。

0：通常（AFフレーム中央戻し）

1：絞り込み

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影しない状態では、絞りが開いた状態になっています。そのため、液晶モニターで見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。

〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認できます。

［**1：絞り込み**］に設定していても、外部ストロボでのモデリング発光はしません。

2：ISO感度

ISO　感度の設定画面が表示されます。〈◄ ✱〉/〈► ☒〉ボタンまたは〈◎〉で感度を設定します。

3：調光補正

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさになっていない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。

4：液晶を一時的に明るくする

〈▼ 🗑〉ボタンを押すと、メニューで設定する「7」と同じ液晶モニターの明るさになります。もう一度押すと、元の明るさに戻ります。

電源が〈**OFF**〉になったり、メニューで液晶モニターの明るさの調整画面にすると、元の明るさに戻ります。

C.Fn-7　レンズなしレリーズ

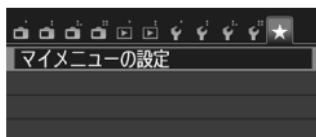
0：しない

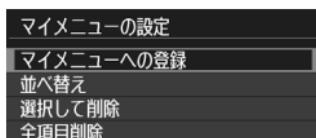
［**しない**］にすると、静止画だけでなく、〈●〉（動画スタート／ストップ）ボタンを押しても、動画撮影しません。

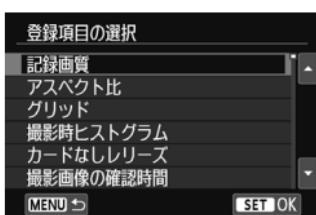
1：する

カメラにレンズを取り付けていないときでも、シャッターボタンを深く押すと、シャッターが切れます。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに6項目まで登録できます。

1 ［マイメニューの設定］を選ぶ

- ［★］タブの［**マイメニューの設定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。

2 ［マイメニューへの登録］を選ぶ

- ［**マイメニューへの登録**］を選び〈Q/SET〉を押します。

3 登録する

- 項目を選び〈Q/SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈Q/SET〉を押すと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

- **並べ替え**

  登録した項目の並び順を変更できます。［**並べ替え**］を選び、並び順を変える項目を選んで〈Q/SET〉を押します。［▲］/［▼］が表示された状態で〈▲ ◌/▭〉/〈▼ 🗑〉ボタンを押して並び順を変え、〈Q/SET〉を押します。

- **選択して削除／全項目削除**

  登録した項目を削除できます。［**選択して削除**］を選ぶと1項目ずつ削除、［**全項目削除**］を選ぶと登録内容がすべて削除されます。

- **マイメニューから表示**

  ［**する**］に設定すると、メニュー画面を表示したときに［★］タブから表示されます。

11

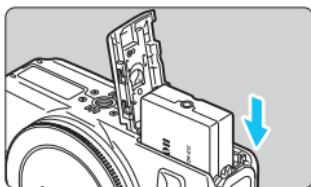
資料

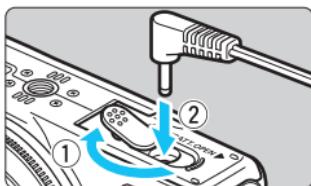
撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーなどを紹介しています。

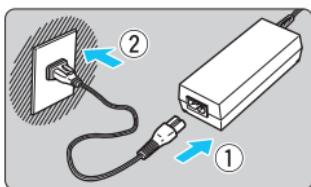
認証マークについて

［¥4］タブの［**認証マーク表示**］を選び、〈Q/SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

家庭用電源を使う

　ACアダプターキット ACK-E12（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

2 DCカプラーを接続する

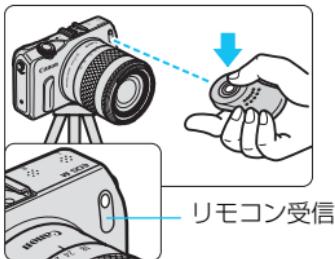
- ①カバーを開け、②アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。

3 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

カメラの電源を〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

リモコン撮影

リモートコントローラー RC-6（別売）

カメラの正面から最大約5m離れて撮影できるリモコン送信機です。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

- セルフタイマーを〈 〉に設定します（p.136）。
- リモコンの送信部をカメラのリモコン受信部に向けて、送信ボタンを押します。

➡ AFでピントを合わせます。

➡ ピントが合うと、セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

蛍光灯やLED電球などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。

- リモートコントローラー RC-1/RC-5（別売）も使用できます。
- 動画撮影時も、リモコン撮影ができます（p.177）。なお、リモートコントローラー RC-5は動画撮影モードでの静止画撮影はできません。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は簡単です。
EXスピードライト（別売）をこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「ストロボが内蔵されたのとほとんど同じ」とお考えください。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ　　　マクロストロボ

* スピードライト90EXを取り付けると自動発光可能です。他のEXスピードライトを取り付けたときは、強制発光になります。

撮影モード	発光のしかた
（シーンインテリジェントオート）	強制発光
CA（クリエイティブオート）	強制発光
（ポートレート）	強制発光
（風景）	強制発光
（クローズアップ）	強制発光
（スポーツ）	強制発光
（夜景ポートレート）	強制発光
（手持ち夜景）	強制発光
（HDR逆光補正）	発光禁止
P（プログラムAE）/**Tv**/**Av**/**M**	強制発光
動画	発光禁止

FEロック

被写体の任意の部分を適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体を液晶モニターの中央に置いて、カメラの〈◀✱〉を押してから撮影します。

- ストロボ装着時、〈◄✱〉を約1秒以上押し続けないとFEロックできない場合があります。
- ストロボ装着時に、シャッターボタンを一気に全押しして、ストロボ撮影を行う場合、シャッターボタンを約1秒以上押し続けないとシャッターが切れないことがあります。

- ストロボ機能設定（p.222）に対応していないEXスピードライト使用時は、［**外部ストロボ機能設定**］の内、［**調光補正**］の項目のみ設定できます。（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）
- 外部ストロボ側で調光補正を設定すると、カメラの液晶モニターに表示されるストロボ調光補正のマークが、から に変わります。
- 外部ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしている場合は、常時フル発光します。
- LEDライト付きEXスピードライト使用時以外は、AF補助光は投光されません。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で同調します。1/200秒よりも遅いシャッター速度で撮影してください。

なお、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードできます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

1 Eye-Fiカードを入れる （p.34）

2 ［Eye-Fi設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**Eye-Fi設定**］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

- 〈Q/SET〉を押し、［**Eye-Fi通信**］の［**する**］を選び、〈Q/SET〉を押します。
- ［**しない**］を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク）。

4 通信情報一覧を表示する

- ［**通信情報一覧**］を選び〈Q/SET〉を押します。

5 ［接続先のSSID:］を確認する

- ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- 〈MENU〉ボタンを3回押してメニューを終了します。

6 撮影する

➡ 画像が転送され、〈〉がグレー（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。
- 転送した画像は、撮影情報表示（p.256）の画面でが表示されます。

通信状態マーク

（グレー）**未接続**：転送先に接続していません。
（点滅）**接続中**：転送先に接続しています。
（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
（↑）**転送中**：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- ［**Eye-Fi通信**］を［**しない**］に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

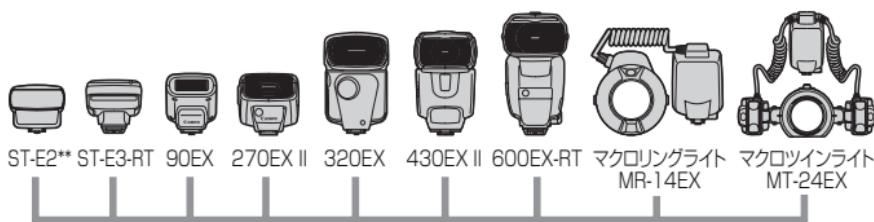
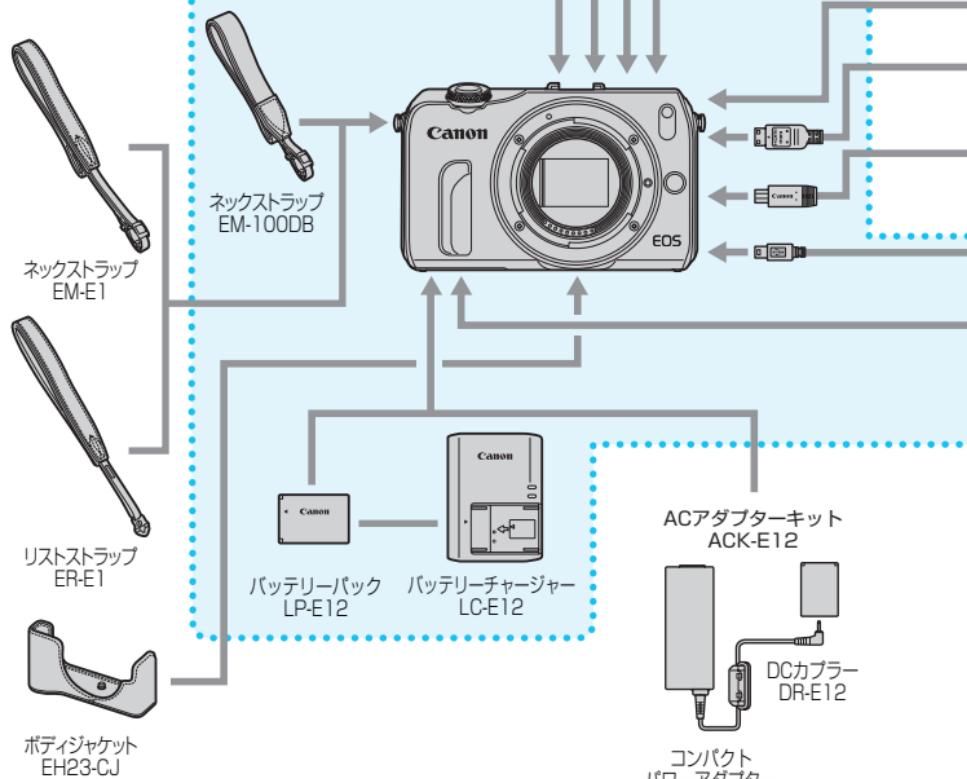
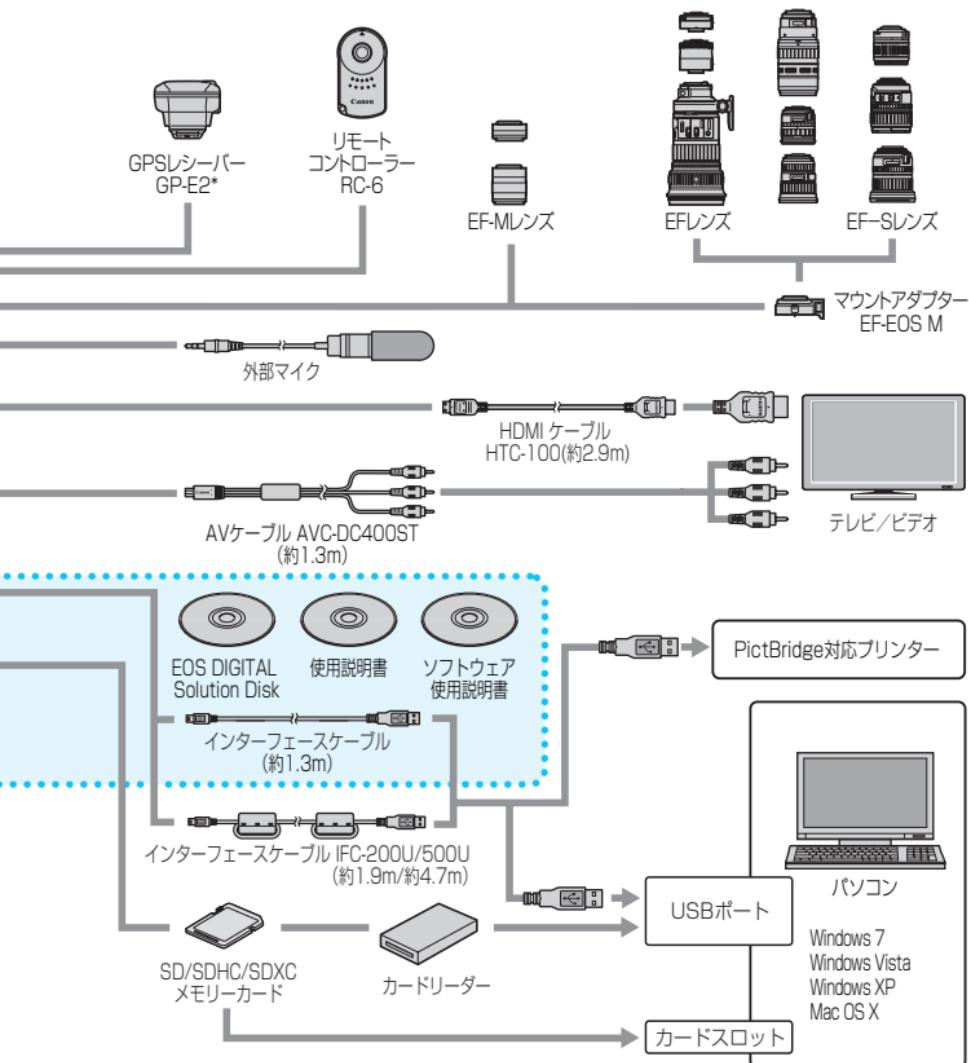
●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

撮影モード		A+	かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン				動画	
			CA	ポートレート	風景	クローズアップ	スポーツ	夜景ポートレート	手持ち夜景	HDR逆光補正	P	Tv	Av	M	動画	動画M
記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定ISOオート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	○
	手動設定										○	○	○	○		○
	オートの上限値設定										○	○	○	○		
撮影時クリエイティブフィルター			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		
ピクチャースタイル	自動選択	●	●	●	●	●	●	●	●	●						
	任意設定										○	○	○	○	○	○
雰囲気を選んで撮影する			○	○	○	○	○	○	○							
明かりや状況にあわせて撮影する				○	○	○	○									
ホワイトバランス	オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
	プリセット										○	○	○	○	○	○
	マニュアル										○	○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング										○	○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
長秒時露光のノイズ低減											○	○	○	○		
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○		
高輝度階調優先											○	○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○		
	Adobe RGB										○	○	○	○		
AF動作	ワンショットAF	●	●	●	●	●		●	●	●	○	○	○	○	●	●
	サーボAF						●				○	○	○	○		
AF方式	顔+追尾優先AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フォーカスモード	AF	●*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MF	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AF+MF	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

* EF、EF-Sレンズ使用時は「○（選択可能）」になります。

撮影モード		A+	かんたん撮影ゾーン								応用撮影ゾーン				動画	
			CA								P	Tv	Av	M		M
コンティニアスAF		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
動画サーボAF															○	○
AF補助光		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○		
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○		
	測光モード選択										○	○	○	○		
露出	プログラムシフト										○					
	露出補正										○	○	○	○	○	
	AEB										○	○	○	○	○	
	AEロック										○	○	○	○	○	○
	被写界深度確認										○	○	○	○		
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*
	（10秒）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*
	2（2秒）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*
	c（連続撮影）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*
スピードライト90EX	自動発光	●	○	●		●		●								
	常時発光		○						●		○	○	○	○		
	発光禁止		○		●		●			●	○	○	○	○	●	●
	FEロック										○	○	○	○		
	ストロボ調光補正										○	○	○	○		
	ワイヤレス制御										○	○	○	○		
外部ストロボ	機能設定										○	○	○	○		
	カスタム機能設定										○	○	○	○		
アスペクト比											○	○	○	○		
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機能ガイド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

* 動画撮影中は1枚撮影になります。

システム図

* 付属品については、カメラが入っている箱で確認してください。
** レンズによっては別売のオフカメラシューコードOC-E3が必要になります。

* GPS機器を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。

MENU メニュー機能一覧

静止画

撮影1（赤）　参照頁

記録画質	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3／RAW＋L／RAW	105
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	108
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯♯	205
撮影時ヒストグラム	切／輝度／RGB	−
カードなしレリーズ	する／しない	204
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	205
外部ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定	220

- 　　　の項目は、「かんたん撮影」（シーンインテリジェントオートとかんたん撮影ゾーン）では表示されません。
- フォーカスモードとレンズの手ブレ補正（手ブレ補正機能のあるレンズの場合）は、EF-Mレンズを取り付けたときに表示されます。また、シーンインテリジェントオートでは表示されません。

撮影2（赤）

		参照頁
AF動作	ONE SHOT AF／SERVO AF	130
AF方式	＋追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	116
コンティニュアスAF	する／しない	124
フォーカスモード	AF／MF／AF+MF	116
レンズの手ブレ補正	入／切	46
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない 色収差補正：する／しない	163

撮影3（赤）

露出補正／AEB設定	1/3, 1/2段ステップ、±5段（AEB±2段）	155
ISO感度	AUTO／100／200／400／800／1600／3200／6400／12800／H	110
ISOオート	上限400／上限800／上限1600／上限3200／上限6400	113
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め マニュアル露出時はOFF	159
測光モード	評価測光／部分測光／スポット測光／中央部重点平均測光	151
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	108
タッチシャッター	する／しない	125

撮影4（赤）

		参照頁
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	172
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 BKT設定：ホワイトバランスブラケティング	174 175
色空間	sRGB／Adobe RGB	176
ピクチャースタイル	A オート／S スタンダード／ P ポートレート／L 風景／ N ニュートラル／F 忠実設定／ M モノクロ／1 ユーザー設定1～3	114 166 170
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能	160
長秒時露光のノイズ低減	しない／自動／する	161
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理を行うためのデータを取得	227

再生1（青）

		参照頁
画像プロテクト	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	252
画像回転	画像の縦横回転	233
画像消去	選択して消去／フォルダ内・全画像／カード内・全画像	254
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	275
フォトブック指定	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	279
クリエイティブフィルター	ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風	260
リサイズ	画素数を少なく処理	262

再生2（青）

再生時ヒストグラム	輝度／RGB	258
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	232
スライドショー	再生する内容／再生間隔／リピート／切り換え効果／BGM選択	243
レーティング	[OFF] ／[*]／[**]／[***]／[****]／[*****]	234
HDMI機器制御	切／入	249

機能設定1（黄）

		参照頁
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	208
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	210
縦位置画像回転表示	する 📷 🖵／する 🖵／しない	214
カード初期化	記録内容を初期化して消去	57
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	294

機能設定2（黄）

節電機能	液晶の消灯：15秒／30秒／1分／3分／5分／10分／30分	206
	電源オフまで：0秒／30秒／1分／3分／5分／10分／しない	206
液晶の明るさ	7段階明るさ調整	207
エリア設定	サマータイム*／エリア	40
日付/時刻	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム*	41
言語	表示言語を選択	43
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	251

* ［**エリア設定**］と［**日付/時刻**］のサマータイムの設定は、連動して切り換わります。

機能設定3（黄）

		参照頁
電子音	入／タッチ音切／切	204
撮影機能画面の色	撮影機能の設定状態の画面の色を選択	219
機能ガイド	表示する／表示しない	60
タッチ操作	標準／敏感	63
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	225
	今すぐクリーニング	
GPS機器の設定	GPS装着時に設定	–

機能設定4（黄）

カメラ設定の内容	カメラの主な設定内容を表示	215
認証マーク表示	このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。	289
カスタム機能（C.Fn）	カメラの機能を細かく設定する	282
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	212
設定解除	カメラ設定初期化／カスタム機能（C.Fn）一括解除	216
ファームウェア*	ファームウェア変更時に選択	–

* ファームウェアの変更時は、誤操作を防ぐため途中からタッチ操作はできなくなります。

★ マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	288

動画

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S1／S1／S2／S3／RAW＋L／RAW	105
グリッド	表示しない／グリッド1 ♯／グリッド2 ♯	205
撮影時ヒストグラム	切／輝度／RGB	181
カードなしレリーズ	する／しない	204
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	205

撮影2（赤）

AF方式	＋追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	116
フォーカスモード	AF／MF／AF+MF	116
レンズの手ブレ補正	入／切	46
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない	163

撮影3（赤）

		参照頁
露出補正	1/3, 1/2段ステップ、±5段	155
ISO感度	AUTO／100／200／400／800／1600／3200／6400／H	110
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	159
	マニュアル露出時はOFF	
測光タイマー	4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	108

撮影4（赤）

MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	172
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 BKT設定：ホワイトバランスブラケティング	174 175
ピクチャースタイル	Aオート／Sスタンダード／ Pポートレート／L風景／ Nニュートラル／F忠実設定／ Mモノクロ／1ユーザー設定1～3	114 166 170

動画1（赤）

		参照頁
動画記録サイズ	1920×1080（30／25／24）／1280×720（60／50）／640×480（30／25）	187
録音	録音：オート／マニュアル／しない	197
	録音レベル	
	ウィンドカット/アッテネーター：切／入	
ビデオスナップ	ビデオスナップ：撮影する／撮影しない	189
	アルバムの設定：アルバムを新規に作成／既存のアルバムに追記	
	1スナップ撮影時間：2秒間撮影／4秒間撮影／8秒間撮影	
動画サーボAF	する／しない	199
動画記録中のシャッターボタンAF	ONE SHOT／しない	200

再生1（青）

画像プロテクト	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	252
画像回転	画像の縦横回転	233
画像消去	選択して消去／フォルダ内・全画像／カード内・全画像	254
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	275
フォトブック指定	画像を選択／フォルダ内・全画像／フォルダ内・全解除／カード内・全画像／カード内・全解除	279
クリエイティブフィルター	ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風	260
リサイズ	画素数を少なく処理	262

再生2（青）

		参照頁
再生時ヒストグラム	輝度／RGB	258
◎での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	232
スライドショー	再生する内容／再生間隔／リピート／切り換え効果／BGM選択	243
レーティング	[OFF] ／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	234
HDMI機器制御	切／入	249

機能設定1（黄）

フォルダ選択	フォルダの選択と作成	208
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	210
縦位置画像回転表示	する📷💻／する💻／しない	214
カード初期化	記録内容を初期化して消去	57
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	294

機能設定2（黄）

節電機能	液晶の消灯：15秒／30秒／1分／3分／5分／10分／30分	206
	電源オフまで：0秒／30秒／1分／3分／5分／10分／しない	206
液晶の明るさ	7段階明るさ調整	207
エリア設定	サマータイム*／エリア	40
日付/時刻	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム*	41
言語	表示言語を選択	43
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	251

* ［**エリア設定**］と［**日付/時刻**］のサマータイムの設定は、連動して切り換わります。

機能設定3（黄）

		参照頁
電子音	入／タッチ音切／切	204
撮影機能画面の色	撮影機能の設定状態の画面の色を選択	219
機能ガイド	表示する／表示しない	60
タッチ操作	標準／敏感	63
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	225
	今すぐクリーニング	
GPS機器の設定	GPS装着時に設定	－

機能設定4（黄）

カメラ設定の内容	カメラの主な設定内容を表示	215
カスタム機能（C.Fn）	カメラの機能を細かく設定する	282
設定解除	カメラ設定初期化／カスタム機能（C.Fn）一括解除	216

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリーパックが正しくバッテリーチャージャーに取り付けられているか確認してください。
- バッテリーチャージャーが正しくコンセントに接続されているか確認してください。
- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E12を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- 充電器に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。そのときは、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し/取り付けを行い、しばらく経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

電源ボタンを押してもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.34）。
- カード/電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.34）。
- 電池を充電してください（p.32）。

電源を〈OFF〉にしても電源／アクセスランプが点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、電源／アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.32）。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける（AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う）
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・動画撮影を長時間行う
- 低温下では撮影可能枚数が少なくなります（p.39）。

液晶モニターが勝手に消灯する

- 節電機能（液晶の消灯）が働いています。いずれかのボタンを押すか、液晶モニターにタッチすると液晶モニターが点灯します。
  液晶モニターの消灯は、メニューの［**2：節電機能**］の［**液晶の消灯**］で設定できます。

電源が勝手に切れる

- 節電機能（電源オフまで）が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：節電機能**］の［**電源オフまで**］を［**しない**］にしてください（p.206）。

電源をON、OFFすると音が聞こえる（EF-Mレンズ装着時）

- カメラ内部保護のため、電源が切れているときは、絞りを絞り込んでカメラ内部に光が入らないようにしています。そのため、電源を〈**ON**〉、〈**OFF**〉したときに絞りが動く小さな音がします。

撮影関連

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.34）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.34）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.34、254）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、36ページ、または323ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- フォーカスモードを〈**AF**〉にしてください（p.116）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.48、49）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正を〈**ON**〉にして撮影してください（p.46）。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.142）、ISO感度を上げる（p.109）、ストロボを使用する（p.138）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。サーボAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.131）。

サーボAF設定時、シャッターが切れるまで時間がかかる

- 被写体を追いながらシャッターボタンの全押しを続けてください。

ライブ多点AF設定時、AFでピントを合わせるときに、時間がかかる

- 撮影条件によっては被写体にピントが合うまで時間がかかることがあります。ライブ1点AFもしくは手動でピントを合わせてください。

連写中、液晶モニターではピントが合ってないように見える

- 実際の撮影画像と異なることがありますので、撮影画像を確認してください。

連続撮影速度が遅い

- レンズの種類やシャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。

シャッターボタンを押しても、すぐにシャッターが切れない

- シャッターボタンを押しても、すぐにシャッターが切れずに、少ししてから（10秒後）シャッターが切れたり、電子音が「ピピピ…」となった後にシャッターが切れるときは、ドライブモードがセルフタイマーに設定されています。
  〈▲ ⏲/⧉〉ボタンを押して、[□]または[⧉]をタッチして、セルフタイマーの設定を解除してください（p.136）。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 手持ち夜景、HDR逆光補正では、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.87）。
- ISO12800、「**H**」（ISO25600相当）設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.111）。
- ［**色収差補正：する**］設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります（p.164）。
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.175）。
- ［**4：高感度撮影時のノイズ低減**］を［**標準/弱め/しない**］のいずれかに設定してください。［**強め**］［**マルチショットノイズ低減機能**］に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります（p.160）。
- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、105ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、ISO100に設定できません。［**0：しない**］に設定すると、ISO100が設定できるようになります（p.285）。動画撮影時も同様です（p.181）。

ISO感度［H］（25600相当）が設定できない

- ［**4：カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、［**2：ISO感度拡張**］を［**1：する**］に設定しても、ISO感度［**H**］（25600相当）は選択できません。［**0：しない**］に設定すると、ISO感度［**H**］が設定できるようになります（p.284）。

オートライティングオプティマイザが設定できない

- ［4：**カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：高輝度側・階調優先**］が［**1：する**］に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。［**0：しない**］に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります（p.285）。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

- ［**3：オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください。［**標準/弱め/強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.159）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［**1：外部ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を、［**1/200-1/60秒自動**］または［**1/200秒固定**］に設定してください（p.221）。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.293）。
- ［**1：外部ストロボ制御**］の［**ストロボカスタム機能設定**］の［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されていると、常時フル発光します（p.224）。

ストロボ機能設定で調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、［**ストロボ機能設定**］の画面で［**調光補正**］（p.223）は設定できません。また、カメラ側で調光補正量を設定したあと、外部ストロボ側で調光補正量を設定したときは、外部ストロボの設定が優先されます。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、［**調光補正**］の設定ができるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［1：ストロボ制御］の［Avモード時のストロボ同調速度］を［自動］に設定してください（p.221）。

撮影時に、白いと赤いが表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈〉が表示されたときは、もうすぐ電源が自動的に切れることを示しています（p.128、201）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「CLASS6」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが動画自動露出のときは、ISO 感度が自動設定されます。動画マニュアル露出のときは、ISO 感度を任意に設定できます（p.181）。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります（EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM、EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMを除く）。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED電球などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、動画マニュアル露出のときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

操作関連

タッチ操作時の電子音が、急に小さくなった

- スピーカー（p.22）を、指で抑えていないか確認してください。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- シーンインテリジェントオート、かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.54）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.176）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです（p.211）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.210）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.41）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.40、42）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.271）。

[###] が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（p.235）。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.294）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ハイライト警告表示です（p.258）。露出オーバーで白とびした部分が点滅します。

画像を消去できない

- プロテクトしている画像は消去できません（p.252）。

動画が再生できない

- 付属ソフトウェアのImageBrowser EXなどを使用して（p.340）、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。ただし、EOS Video Snapshot Task（p.196）で編集したビデオスナップアルバムは、カメラで再生できます。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。市販のマイクの使用をおすすめします（p.197）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈M〉（マニュアル露出）モードで撮影してください（p.180）。

テレビに画像が表示されない

- 別売のステレオAVケーブルまたはHDMIケーブルを使用してください（p.247、251）。
- ステレオAVケーブル、またはHDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.247、251）。
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください（p.251）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.188）。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、付属ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.340）。

画像をリサイズできない

- JPEG の S3 と RAW 画像は、カメラでリサイズ処理できません（p.262）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［**今すぐクリーニング**］を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（p.225）。

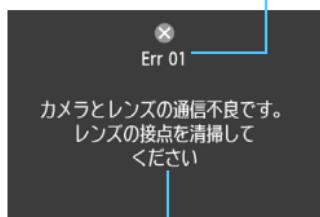
撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源の〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（p.37）。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

- 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています（p.270）。

エラー表示

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.19、22）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.34、57）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.34、254、57）
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	➔ 電源ボタン操作（p.37）
10, 20 30, 40 50, 70 80, 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源ボタン操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.37、34）
60	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ レンズの動きを妨げている可能性があります。レンズに触れないようにして電源を入れなおしてください。

* 上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式.................................... デジタル一眼ノンレフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................ SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード
* UHS-I 対応
撮像画面サイズ................ 約22.3×14.9mm
使用レンズ........................ キヤノンEF-M、EF*、EF-S*レンズ群
* マウントアダプター EF-EOS Mが必要です
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント................ キヤノンEF-Mマウント

■撮像素子

形式.................................... CMOSセンサー
カメラ部有効画素............ 約1800万画素
アスペクト比.................... 3：2
ダスト除去機能................ 自動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット............ DCF2.0
画像タイプ........................ JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEGラージ同時記録可能
記録画素数........................ L（ラージ）　　　：約1790万（5184×3456）画素
M（ミドル）　　　：約800万（3456×2304）画素
S1（スモール1）：約450万（2592×1728）画素
S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
RAW（ロウ）　　：約1790万（5184×3456）画素

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル.......... オート、スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
表現セレクト機能............ 雰囲気を選んで撮影、明かりや状況にあわせて撮影、クリエイティブフィルター（ラフモノクロ、ソフトフォーカス、魚眼風、油彩風、水彩風、トイカメラ風、ジオラマ風）
ホワイトバランス............ オート、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応

ノイズ低減……………………長秒時露光、高感度撮影に対応可能
画像の明るさ自動補正……オートライティングオプティマイザにより対応
高輝度側・階調優先……………可能
レンズ光学補正……………周辺光量補正、色収差補正

■オートフォーカス

方式……………………………ハイブリッドCMOS AF方式
測距点…………………………31点（最大）
測距輝度範囲…………………EV1～18（常温・ISO100）
フォーカスモード……………AF、手動（MF）、AF＋MF
AF補助光………………………内蔵（LEDランプ）

■露出制御

測光方式………………………撮像素子によるリアルタイム測光
評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約11%）、スポット測光（ライブビュー画面の約2.8%）、中央部重点平均測光
測光範囲………………………EV1～20（常温・ISO100）
露出制御方式…………………プログラムAE（シーンインテリジェントオート、クリエイティブオート、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、手持ち夜景、HDR 逆光補正、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出
ISO感度…………………………かんたん撮影ゾーン*：ISO 100～6400自動設定
（推奨露光指数）　* 手持ち夜景：ISO100～12800自動設定
応用撮影ゾーン：ISO 100～12800任意設定（1段ステップ）、ISO100～6400自動設定、ISOオート時の上限値設定可能、および「H」（ISO25600相当）の感度拡張が可能
露出補正………………………手動：1/3、1/2段ステップ±3段
AEB：1/3、1/2段ステップ±2段（手動露出補正との併用可能）
AEロック………………………自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式……………………電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度………1/4000～1/60秒（シーンインテリジェントオートモード）、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/200秒
1/4000～30秒、バルブ（すべての撮影モードを合わせて）

■外部ストロボ

対応ストロボ…………EXシリーズスピードライト(カメラ側操作で機能設定可能)
調光方式………………E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正……1/3、1/2段ステップ±２段
FEロック………………可能
シンクロ端子…………なし

■ドライブ関係

ドライブモード………１枚撮影、連続撮影、セルフタイマー 10秒/2秒/10秒後連続撮影
連続撮影速度…………最高約4.3コマ/秒
連続撮影可能枚数……JPEGラージ/ファイン：約15枚（約17枚）
RAW：約６枚（約６枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約３枚（約３枚）
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）で測定
* （　）内の数値は、当社試験基準 UHS-I 対応、8GBカード使用時の枚数

■静止画撮影機能

アスペクト比切り換え……3：2、4：3、16：9、1：1
コンティニュアスAF……可能
タッチシャッター…………可能
グリッド表示………………２種類
被写界深度確認……………可能

■動画撮影機能

項目	仕様
映像圧縮方式	MPEG-4 AVC/H.264 可変（平均）ビットレート方式
音声記録方式	リニアPCM
記録形式	MOV形式
記録サイズとフレームレート	1920×1080（Full HD）：30p/25p/24p 1280×720（HD）：60p/50p 640×480（SD）：30p/25p * 30p：29.97fps、25p：25.00fps、24p：23.976fps、60p：59.94fps、50p：50.00fps
ファイルサイズ	1920×1080（30p/25p/24p）：約330MB/分 1280×720（60p/50p）：約330MB/分 640×480（30p/25p）：約82.5MB/分
フォーカス方式	ハイブリッド CMOS AF方式*（顔＋追尾優先AF、ライブ多点、ライブ1点AF） 手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能） * 測距輝度範囲：EV1～18（常温・ISO100）
測光方式	撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光 * フォーカス方式により自動設定
測光範囲	EV 1～20（常温・ISO100）
露出制御	動画撮影用プログラムAE、マニュアル露出
露出補正	1/3段ステップ±3段
ISO感度（推奨露光指数）	自動露出撮影時：ISO100～6400自動設定 マニュアル露出時：ISO 100～6400自動/任意設定、H（ISO 12800相当）の感度拡張が可能
ビデオスナップ	2秒間/4秒間/8秒間から設定可能
録音	内蔵ステレオマイク 外部ステレオマイク端子装備 録音レベル調整可能、ウィンドカット機能あり、アッテネーター機能あり
グリッド表示	2種類

■液晶モニター

形式……………………………… TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数……… ワイド3.0型（3：2）/約104万ドット
明るさ調整…………………… 手動（7段階）
メニュー表示言語 ………… 日本語、英語、簡体字中国語
機能ガイド…………………… 表示可能

■再生機能

画像表示形式………………… 1枚表示、1枚＋情報表示（簡易情報、撮影情報、ヒストグラム）、4枚インデックス、9枚インデックス、画像回転可能
拡大ズーム倍率……………… 約1.5～10倍
ハイライト警告……………… ハイライト部分点滅表示
画像送り……………………… 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転……………………… 可能
レーティング………………… 可能
動画再生……………………… 可能（液晶モニター、映像/音声出力、HDMI出力）スピーカー内蔵
画像プロテクト……………… 可能
スライドショー……………… 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
切り換え効果を5種類選択可能
BGM選択……………………… スライドショー、動画再生時に選択可能

■撮影後の画像処理

クリエイティブフィルター…… 可能（撮影時に準じる）
リサイズ……………………… 可能

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター……………… PictBridge対応プリンター
印刷対応画像………………… JPEG画像、RAW画像
印刷指定……………………… DPOF バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能

カスタム機能………………… 7種
マイメニュー登録 ………… 可能
著作権情報…………………… 設定と付加可能

■インターフェース

映像/音声出力・
デジタル端子 .... アナログ映像（NTSC, PAL対応）/ステレオ音声出力
パソコン通信、ダイレクトプリント用（Hi-Speed USB相当）、GPSレシーバー GP-E2接続
HDMIミニ出力端子 .... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子 Φ3.5mmステレオミニジャック
ワイヤレスリモコン .... リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード..................... 対応

■電源

使用電池 .... バッテリーパック LP-E12、1個
* ACアダプターキットACK-E12使用により、AC駆動可能
撮影可能枚数の目安.......... 常温（23℃）約230枚/低温（0℃）約200枚
（CIPA試験基準による）
動画撮影可能時間.............. 常温（23℃）約1時間30分
低温（0℃）約1時間20分
（フル充電のバッテリーパック LP-E12使用時）

■大きさ・質量

大きさ .... 約108.6（幅）×66.5（高さ）×32.3（奥行）mm
質量 .... 約298g（CIPAガイドラインによる：本体+バッテリーパック+カード含む）
約262g（本体のみ、レンズキャップ除く）

■動作環境

使用可能温度 .... 0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーパック LP-E12

形式 .... 充電式リチウムイオン電池
公称電圧 DC7.2V
容量 875mAh
使用可能温度 .... 充電時：＋5℃～＋40℃
撮影時：0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下
大きさ .... 約32.5（幅）×12.5（高さ）×48.5（奥行）mm
質量 約35g

■バッテリーチャージャー LC-E12

充電可能電池......................バッテリーパック LP-E12
充電時間.............................約2時間（常温時）
定格入力.............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力.............................DC8.4V/540mA
使用可能温度......................＋5℃～＋40℃
使用可能湿度......................85%以下
大きさ.................................約65（幅）×25.5（高さ）×90（奥行）mm
質量....................................約81g

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、最大径、長さ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国および他の国で登録された、米国アップル社の商標、または登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

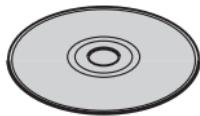
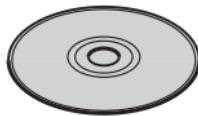
1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

撮影した画像データは、とても大事な自分の記録です。
こまめにパソコンに保存しておきましょう。

12

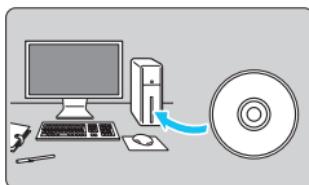
パソコンに画像を取り込む／索引

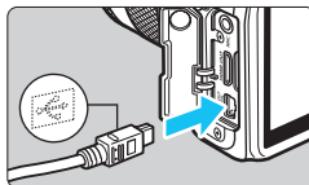
この章では、パソコンに画像を取り込む方法と、付属のEOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法を説明しています。

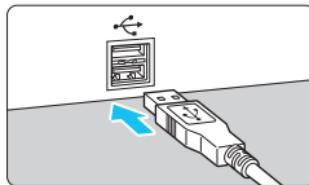
ソフトウェアをインストールする前に、お使いのパソコンのOSがソフトウェアに対応しているかどうか確認してください。

EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

ソフトウェア使用説明書

パソコンに画像を取り込む

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込みます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

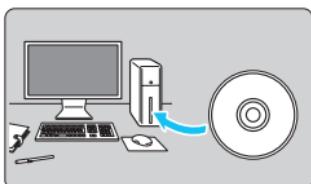
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする

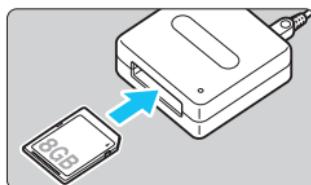
（p.341）

2 カメラとパソコンを、付属のインターフェースケーブルで接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⭠〉が、カメラの前面に向くようにして、〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utilityを使って、画像を取り込む

- ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

カードリーダーで画像を取り込む

市販のカードリーダーをお持ちの方は、カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込めます。

1 ソフトウェアをインストールする

（p.341）

2 カードリーダーに、カードを差し込む

3 ソフトウェアを使って、画像を取り込む

➡ Digital Photo Professional を使う

➡ ImageBrowser EX を使う

- ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

キヤノン製ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要

EOS DIGITAL Solution Disk
（イオス デジタル ソリューション ディスク）

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

EOS Utility
（イオス ユーティリティー）

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーできます。

* キヤノン・オリジナルのBGMです（全5曲）。EOS Utilityを使って、カードにコピーをすることで、カメラ本体でビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional
（デジタル フォト プロフェッショナル）

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集できます。

ImageBrowser EX
（イメージブラウザー イーエックス）

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、静止画／MOV動画、ビデオスナップアルバムの閲覧・再生、およびJPEG画像の印刷ができます。また、EOS Video Snapshot Task （p.196）などインターネットに接続して取得できる追加機能もあります。

従来製品に付属していたソフトウェアZoom Browser EX/ImageBrowser は、このカメラで撮影した静止画ファイル、MOV動画ファイルをサポートしていません（動作対象外）。このカメラに付属のImageBrowser EXを使用してください。

Picture Style Editor
（ピクチャー スタイル エディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- お使いのパソコンにすでにImageBrowser EXがインストールされている場合でも、本機に付属のCDからImageBrowser EXをインストールしてください。このカメラの機能に対応した最適なバージョンに更新できます。また、オートアップデート機能により新しい機能を追加できることがあります。
- ImageBrowser EX以外のソフトウェアについても、旧バージョンがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk （CD-ROM）を入れる

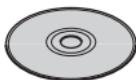
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［**Canon EOS Digital Installer**］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、［**インストール**］をクリックしてください。
- インストール途中に、“Microsoft Silverlight”のインストール画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight”のインストールを行ってください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェアの使用説明書

ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[**(マイ) コンピューター**] 内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
ImageBrowser EX	IBXx.x_J_xx	
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

索　引

英数字

あ

か

た

な

は

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。

※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-m

この使用説明書に記載しているレンズ、アクセサリーは、2012年7月時点のものです。それ以降に発売されたレンズ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。